

花の尾根 (台高・馬ノ鞍峰)

一芝 義雄

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて34年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

アルプス・スカイライン

ハイキング9日間 <閑空発着>

出発日 ●6/23 ●6/30 ●7/10 ●7/21 ●8/4
¥376,000~¥522,000

チロル、ドロミテ、オーストリア

3つの最高峰展望9日間 <閑空発着>

出発日 ●7/7 ●7/14 ●7/21 ●8/4 ●9/1
¥448,000~¥498,000

四姑娘山フラワーハイキングと

4,000m峰登頂8日間 <閑空発着>

出発日 ●7/3 ●7/10 ●7/17 ●7/24
¥235,000~¥243,000

マレーシア最高峰 Mt. 神ノ山 登頂 6日間

出発日 ●5/21 ●6/11 ●7/16 ¥172,000

玉山と雪山、台湾の2座登頂 7日間

出発日 ●5/14 ●5/28 ●10/1 ¥206,000

花の楽園・南アフリカの旅 12日間

出発日 ●8/23 ●8/28 ●9/1 ¥498,000

5/22発・10/2発 屋久島大縦走5日間 ¥160,000 大阪発着 12名限定

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業490号/(社)日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区靱本町1-10-22 (A'DDビル4階)

TEL: 06-6444-3033 E-Mail: atsosa@pearl.ocn.ne.jp

FAX: 06-6444-3032 ホームページ: <http://www.alpine-tour.com>

<新企画>

グリーンランド・氷床展望 ハイキング 7日間

旅行代金 ¥525,000~¥578,000

出発日 ●6/8 ●7/6 ●9/21

①成田→コペンハーゲン ②→カンゲルルスアーク ③④⑤カンゲルルスアーク滞在(3日間氷床展望ハイキングを満喫) ⑥→コペンハーゲン ⑦(午前コペンハーゲン市内散策)→ヨーロッパ内都市(機中泊) ⑧→成田

カナディアン・ロッキー

ハイキング満喫9日間 <閑空発着>

出発日 ●6/11 ●6/18 ●6/25 ●9/17
¥329,000~¥369,000

マウントロブソンとシャドールイク

ロッジ9日間 <閑空発着>

出発日 ●6/21 ●7/5 ●7/12 ●8/9 ●9/6
¥413,000~¥579,000

キリマンジャロゆったり登頂とアホハ

ンゴルゴロ・ワリ 13日間 <閑空発着>

出発日 ●7/12 ●8/23 ●9/13 ¥596,000

海外トレッキング<特設説明会>

◆3-ロビン・7&7ス 特設説明会 <4/17・5/21>

◆おたけ(ア)ロッキー 特設説明会 <4/16・5/22>

会場:大阪府商工会館会議室 入場無料

時間:いずれも 18:30~20:30

(地下鉄本町駅17番出口・中央大通り沿い)

ご請求下さい!

アルパインツアー
総合ツアーカタログ
「世界の山旅・辺境の旅」
海外・国内のハイキング・トレッキング・登山
コース満載! (最新版)



杜若（長岳寺）

日没を合図に玄妙な光に包まれる
 明るくなったり暗くなったり
 あたかも極楽の宝池に浮かぶ宮殿
 藤原一族の栄耀栄華を今に伝える
 宇治川の西岸にあった源融の別荘
 御堂関白道長が譲り受け
 頼通によって建立された阿弥陀堂
 定朝作の金色の丈六阿弥陀如来像
 周囲の壁面に描かれた九品来迎図
 背後の壁には極楽浄土図
 雲中供養菩薩像が長押の上で
 雲に乗って音楽を奏している
 日本三名鐘のひとつの梵鐘
 鳳凰堂は地上に出現した極楽浄土
 幻妙な情景に思わず手を合わせる

竹林（高台寺付近）



Photo essay

玉如



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収一
 文 松 永 恵

平等院（ライトアップ）





ハクサンチドリ

季節の



シラカバ林

湟原



実景

初夏

初夏の尾瀬ヶ原

撮影 武市通治



燧ヶ岳

ミズバショウ





伊勢谷源流（鈴鹿） 今村 悦子



小雨のレンゲツツジ（山梨県・甘利山） 三浦 弘幸

天増川源流（江若国境） 中川 光郎

水芭蕉咲く源流（長野県・小谷村） 吉沢 栄一





克

湖北・行市山 — 岩跡を歩く —

湯浅 康夫

織田信長のことを、安国寺恵助が吉川元治の近臣に宛て、「高ころびにあをのけにころばれ候する」と書いている。高転びに仰向けに転ぶだろうとの予測が当たったのが、いうまでもなく本能寺の変。

備中高松城水攻めをしていた羽柴秀吉は、本能寺の変の報を聞いて、信長の死を伏せたまま、清水宗治の切腹と高松城の開城を条件に和睦を結んだ。とって返して山崎で明智光秀との弔い合戦に勝利した。

一方、そのとき柴田勝家は、越中上杉景勝を攻めていて、魚津城を奪い、松倉城を包囲していた。報を聞き、二つの城を捨て急いで上洛しようとしたが、

秀吉に先を越された。

勝家は織田家の重頭家老いわば老舗の副社長格で、しかも信長の妹で浅井に嫁いでいたお市の方と3人の娘をもらい受け、織田家の身内としての御断があった。跡目争いの最短ランナーという自負もあり、ここで巻き返しを図り、織田信雄や信孝をかつて一気に主導権を取ろうと思っただ家の者である。

その反面、秀吉は、豪・柔両刀遣いの「土くれ」から這い上がってきた、いわば切れ者の専務タイプで失うものは何もない。

失敗すれば元の野伏に戻ればいいだけだ。信長と一緒に死んだ後継者の信忠の息子の三法師を文字通り左肩にかつぎ、信長の葬儀を盛大に執り行って勝家をひざまずかせ、悔しがらせた結果、越中上杉の戦いとなった。その勝家の後方岩跡となった別所山から行市山、中谷山を歩いた。越中上杉の北にある行市山への

一般コースは、木之本インター

で北陸自動車道を降り、今市から神社へ入る。毛受兄弟の墓の裏が登山口だ。われわれは小谷まで入り、右手に廃道化した道を二本見送って「標高402m 行市山登山道」の道標の所に駐車する。下の墓地からの道だ。槍の植林帯を抜けると10数分で別所山(444m)に着く。

柴田勝家方の前田利家(実は中立だったとの説が濃厚)の岩跡である。ここはNHKの大河ドラマの人氣で賑わう他の観光地と違って人はいない。

江戸期に入り前田藩は加賀100万石を封ぜられるのだが、正確には122万2千石で将軍家の直轄領(実録600万石とも750万石とも)に次ぐ大きさだ。その後徳川家に禪って越中富山前田藩10万石と加賀大聖寺前田藩10万石に分家を封じ、本家は102万2千石に減封している。当然のことながら三家の家紋は



克

随想 (山のエッセイ)

梅鉢で、分家の二家は仲よく江戸の上屋敷を下谷池ノ端に持ち、京屋敷も川東岡崎に持っていた。ちなみに中屋敷は二家とも持たず、下屋敷だけは囃隨院ウシロと駒込千駄木となっていた。

岩跡を出て、真北にササの急登を突き上げ、汗をかくと行市山(3等・669・7m)である。三角点は見事に南北逆設置されていて写真に残した。勝家の甥の佐久間盛政の岩跡だ。東に七七頭ヶ岳、その後ろに雲間から横山岳、その右に己高山が同定され、時間が止まったままと思われるほど静かだった。

東に向かう下山道は背を超すササで滑りやすく、ササや木の枝をつかみながら降りた。杉の植林帯になり、松に変わった所で林道になる。朝見た二本目の廃道だ。逆から来て、ここから登るのは注意が必要だ。道標が壊れていて目印も何もなく、かすかに踏み跡があるだけで。廃

道には倒木が何ヶ所もあり、車は入れない。

廃道から車の通れる林道に出て少し戻り、右手にブルドーズーで切り開いた所が中谷山に通ずる道で、これも下の墓地から続いている道だ。階段があり、よく刈り込まれた道をアップダウンすれば「中之谷山・原彦次郎長類の陣」とある。長類は勝家の重臣であろう、勝家の真後ろで陣備えしていた。中谷山(4等・368・4m)の三角点は真南を向いていた。

下山後、車で移動して登山口を探した。前述の神社に行くと毛受兄弟の墓があり、案内板があった。毛受兄弟は劣勢になった勝家を越前北ノ庄に落ちのびさせるため勝家の旗印を持って身代わりとなり、秀吉勢と戦って討ち死にしたとあるが、小生はその名を知らない。歴史の本で探してもなかった。

いつものように山行報告を次

のように発信した。「めんじゅは眞音(南朝音)でもなくさり」とてアイヌ語とも思われず、強烈な当て字かそれとも誤植ではないか?。するとありがたいことに返事があり、愛知県一宮市に「大和町毛受」の地名があると連絡をいただいた。早速電話で確認すると、こちらは「めんじゅ」ではなく「めんじょ」と読むと言われた。後日、人名にもあると教えていただいた。

さて、話を元に戻し、なぜ歴史の本に毛受兄弟の記述がないのだろうか、兄弟が討ち死にした2、3日後、勝家も殺された意味が薄れてしまったからではないか、などと戦国期の杜絶な争いに思いを馳せた山行だった。

(平成14年11月末歩く)



随想 (山のエッセイ)

登山道が崩壊する

平 一郎

登山道が崩壊し始めている。そしてそれがどんどん進行している。そのほとんどが人工的、人為的な原因である。

まず登山道の舗装である。舗装というと、アスファルトやコンクリートを連想しがちだが、ここでいうのは、木製の舗装である。すなわち、やたらと木の階段を設置して廻る人や団体がいることである。しかもこれが善意による行動であるだけに、余計に始末が悪い。

この問題については、本誌53号(90年7・8月号)の随想(山のエッセイ)欄に掲載した「登山道の階段は迷惑千万」に詳しく書いているので、ご覧いただきたい。

これ以外に問題なのが、大台

ヶ原におけるトウヒ林、また全国的な松林のように、樹木が立ち枯れて倒木となって登山道を塞いでしまうことである。

さらに最近目立ってきたのが、植木の倒木である。近頃は、植木の手入れがされなくなってきた。枝打ち・間伐等の維持管理をしていないし、成木の伐採もしていない。成木が台風や豪雨で倒れても放置したままである。

自然に生まれた樹木が倒れて登山道を塞ぐことはいたし方ない。まだ我慢できるにしても、人工の植林内で倒木を放置されるのは困る。登山者にとってははなはだ迷惑なことである。

山林の手入れがされなくなったのは、国内林業の採算が合わなくなってきたためであると言われている。安価な輸入材の影響で、林業経営は破滅的な打撃を受けている。そのために、植林はメンテナンスがなされずに、放置

されたままである。

この現象は、林業従事者だけの責任ではなく社会問題でもある。このまま放置しては、登山道だけにとどまらず、山全体にまで影響しそうである。

山という国民共有の自然を、林業者が植林のために使用するのは差し支えがない。しかし、独占的に使用していたものを使わなくなった場合には、理由はともかく、元に戻して自然にかえすが、自然を利用した人の義務であろう。

林業者、地方自治体、国は協力して、使わなくなった植林を天然林に戻し、山を自然にかえしてほしい。

われわれ登山者も、これ以上に山の自然を破壊しないように心がけることが大切である。国有林でも個人私有の山であっても、その山へ分け入って登山を楽しむてもらっていることを忘れないでほしい。登山道や

広場に忘れものをしないで、全て持ち帰ることは原則である。

また同時に、自然を破壊しないという、いわば消極的な気持ちだけではなく、登山道の倒木の除去、朽ち果てて使用していない山小屋の撤去等、できるかぎり、自然環境の回復に向けて、できることは積極的に協力してゆきたいと考えている。

とは言うものの、倒木の除去作業となると、シロウトの手に負えそうにない。

京都西山連峰の主峰であるポンポン山への登山道のひとつ、大阪府高槻市川久保からの川久保尾根道は、登山口から5分ほど歩いた地点で、数本の植木の倒木が重なって放置されているために、通行できなくなっている。

そのためにやぶ漕ぎのような迂回路が自然にできて、登山者は現在そこを通過しているが、初心者にとっては迷いやすい危険

な道でもある。

私の所属する登山グループがご米光登山、つまり夜間登山を計画しているので、それまでにコースを整備しておきたいと思っている。しかし、数本の倒木の除去となると、女性会員の多い登山グループでは、とうてい動かせるシロモノではなさそうである。

しかたがなく、迷わないように迂回路の数ヶ所に蛍光テープ表示を取りつけておいた。

登山者にできることは、これくらいのことか。もう少しほかにも何かできることがないものだろうか、考えてみたい。



熊もいるネマガリタケのやぶ山

東山

鳥取

古賀慶二

もうかれこれ20年近い歳月が流れた。戸倉峠を越えて鳥取の千代川にイワナ釣りに通っていた頃、戸倉峠を越えたあたりで西方に残雪をまとった高峰があり、見るたびにその山が気になっていた。

その頃は山よりも、イワナを求めて谷の奥深く分け入っていた。ある日、深淵をへつり、岸壁に阻まれて高捲く途中でスリップして落下、釜の中に浮かび震え上がり、えらい趣味にのめり込んだものだと思った。しかし、釣りマニアの増加、さらに山々の変貌で谷に土砂が流入し、溪流魚の棲みやすい環境も、そして魚も激減していった。

そんな事情もあって、いつしかイワナ

を追うことも少なくなり、再び狙いは溪流釣りから山に戻ってしまった。

新ハイ関西に入会し、年末の会合の席でN氏の隣に坐ったこともあって、いろいろと話が進むうちに、鳥取の山であまり知られていない一つの山が話題になった。

その山こそ戸倉峠越えで目にしてきた高峰、東山（1388m）であった。ガイドブックにも掲載されていない山で、登ったという人さえ私は耳にしたことがなかった。

「よし、やろう」
残雪期がよいと思うが、まず下調べでもやろうか。ということので、話はすぐまと

中央のピークが東山



まいった。
年が明けても、頭の隅にいつもあるのは東山で、3月が過ぎて4月になった。突然N氏から、「連休の4日にどうや」と電話があった。
5月4日は私の都合もよく、偵察という軽い気持ちで出かけることにした。ほかに同行者を誘ったところ、M氏が気安く応じてくれた。

当日、戸倉峠手前のドライブインでN氏と待ち合わせてた。峠を越え、岩屋堂から南に吉川川沿いを溯った。吉川村からN氏が調査してくれた沖ノ山林道を、同氏の車に同乗して若桜・智頭町界の峠に登っていった。峠地点で車を置き、ここから北方の東山に登ることにした。

ここから眺めると、東山はいとも簡単に登れそうである。見たかぎり上部は草原状に見え、山頂に立てばさぞかし爽快だろうと思えた。

ところが、この頃から空模様は怪しくなり、雨が降り出しそうな気配である。

地図と山容を見比べながら、峠から北



にのびている林道をさらに200mほど歩いき、左手植木の尾根に取りついた。道といえはいえなくもないが、けもの道のようでもある。この植林帯が終わるとネマガリタケの密生地帯に変わった。そして、ブナの太木が出現した。

この頃からイヤな予感的中して、雨が落ち始めた。

それでも鈍を取り出し、行く手を阻むネマガリタケを切り開き、これを掃りの目印にして登っていった。ネマガリタケは、大きいもので直径およそ4cm程、高さは背丈をはるかに超えており、この中からは周囲の地形を確認することができない。

町界尾根通しに進もうとしたが、思うにまかせず、左手のU字状の沢をつめることにした。ようやく1320mの広いビークに達したが、この頃から雨がひどくなった。

山はガスに包まれて目標物がわからなくなり、方向感覚が麻痺し、地図での確認が困難になった。タケやぶのなかでリンダワンデルングに陥りそうになった。
この広いビークからは北に進んで行つたが、急にくだっていることに気づき、地図を雨のなかで確認し、北東に向きを変えた。猛烈なネマガリタケと倒木に阻まれ、なかなか進めない。その時、一瞬のガスの切れ目にすばらしいブナ林の尾根が勾配をなして浮かび上がった。この景観に感動し、身震いさえ覚えた。それは、ちょうど右手北東方向に見られた。

この時、「ボンボン」といった何かを打つような音が、左手前方から聞こえてきた。

「何か音がする。何の音だろうか」と私は言った。

「バイクだろう」

「チェーンソーと違うか」

「いやそんな音ではないなあ……」

背筋が寒くなった。一昨年、熊と距離を縮めたときのことが頭をよぎった。タケ物でない音に恐れ、進むのをやめて退却し始めると、その音は消えた。ひと休みして、雨のなかで昼食をとっ

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|------------------|---------------|
| ★ 1 利尻・種白・斜里・阿寒 | ★ 35 白馬岳 |
| 2 ニセコ・羊蹄山 | ★ 36 奥羽・五竜岳 |
| 3 大雪山・十勝岳・穂積岳 | ★ 37 阿・立山 |
| 4 十和田湖・八甲田 | ★ 38 上高地・穂・穂 |
| 5 八幡平 | ★ 39 奥羽高原 |
| ★ 6 奥羽・早池輪 | 40 御嶽山 |
| ★ 7 蔵王 | 41 中央・南アルプス総図 |
| 8 奥羽山 | ★ 42 木曽駒・空木岳 |
| 9 朝日・出羽三山 | ★ 43 甲斐駒・北岳 |
| ★ 10 飯沼山 | ★ 44 塩見・赤石・聖岳 |
| ★ 11 磐梯・吾妻・安達太良 | ★ 45 白山・荒島岳 |
| ★ 12 那須・塩原 | 46 奥山・伊吹・藤原 |
| ★ 13 日光 | 47 御在所・種ヶ岳 |
| ★ 14 奥羽 | 48 比良山系 |
| 15 越後三山 | 49 京都北山1 |
| ★ 16 谷川岳・苗場山・武尊山 | 50 京都北山2 |
| ★ 17 志賀高原・草津 | 51 京都西山 |
| ★ 18 妙高・戸狩・清津 | 52 北岳の山々 |
| 19 軽井沢・浅間 | ★ 53 六甲・奥耶 |
| ★ 20 赤城・皇海・筑波 | 54 岩城高原・二上山 |
| ★ 21 西上州・妙義 | 55 金剛山・岩瀧山 |
| ★ 22 奥武蔵・秩父 | 56 紀伊高原 |
| ★ 23 奥多摩 | ★ 57 大峰山脈 |
| ★ 24 大菩薩嶺 | ★ 58 大台ヶ原 |
| ★ 25 霧ヶ峰・両神山 | 59 赤目・倶利伽羅高原 |
| ★ 26 金峰山・甲斐信 | ★ 60 氷ノ山 |
| ★ 27 尾尾・陣馬 | ★ 61 大山・深山・奥山 |
| 28 丹沢 | 62 四国駒山 |
| ★ 29 箱根 | 63 石鐘山 |
| ★ 30 伊豆 | ★ 64 瑞穂の山々 |
| ★ 31 富士・富士五湖 | ★ 65 阿蘇・九重 |
| ★ 32 八ヶ岳・蓼科 | ★ 66 箱根・横 |
| ★ 33 美ヶ原・霧ヶ峰 | ★ 67 霧島・阿蘇岳 |
| ★ 34 北アルプス総図 | 68 奥久鳥 |

★印は新仕様の地図です

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願ひ申し上げます。
- 2002年度版は「13日光・奥山・白根山」「18妙高・戸狩・清津」「42木曽駒・空木岳」「45白山・荒島岳」「53六甲・奥耶」を全面改訂しました。

昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(5303)5721(代) 〒532-0011
【インターネットで情報発信中】
http://www.mapple.co.jp/

しかし、先ほど登ってきたばかりのルートがなかなかわからない。どこも同じように見える。ようやく朽ちたブナの目標を見つけ、さらにネマガリダケの切り落としがあつてはつとした。くだる尾根を間違えると、とんでもない方向に向かう。地図は開かず磁石と勘だけが頼りで、ネマガリダケのなかを泳ぐように動いた。10分も離れると、人の存在がわからなくなる。声を掛け合いながら進んだ。いたるところ熊の糞らしき大きなものが転がっていて、獣臭が漂う。タケの葉

を敷きつめた見事な熊の円座が目についた。もとの林道に下山してみても、蛇が、コンパスが、腕時計が無いことに気がついた。取りに戻るなどとんでもない。これは東山への置き土産としておこう。ネマガリダケといい、獣の臭いといい、この雷鳴といい、とにかくこの山に近づくな、と暗に警告しているようだ。恐ろしい山との印象をもったまま、東山行きは終わった。土地の老人から、「東山は熊の繁殖地であら」

と聞いた。しかし熊の繁殖地だからと困っている様子はなく、熊も人里に下りて悪戯することなどないのだろう。ササの葉を裏に見事に円形に敷いた円座が、それを物語っているようだった。登山者が気軽に東山に登るようになってきたら、熊があのような円座を設けて小熊を遊ばせたり、寝ころんだりの団らん? など、とうていできそうにない。東山は、このままでよい。いつまでも、このままであって欲しいと本気で思った。(平成13年5月4日・5日・26日歩く)

た。ここまで雨衣を着る余裕がなく、杉の太木の下で急いで着用した。N氏が、ダニがいることに気づいた。雨とダニのなかでビバークはしたくない。みんな同じ気持ちでタケやぶに難儀しながら、無念の下山となった。落折のドライブインで濡れた身体を暖めながら、タケやぶと怪音の話を話した。

5日には北にのびる林道を探ってみたところ、幸いにも東山山頂から東にのびる尾根の北寄りの途中まで、林道がのびているのがわかった。私は、この尾根またはもう一つ南の短い尾根を後日登ることに決めた。傾斜を計算してみても、東の尾根がゆるやかで登りやすいと感じた。5月6日、今度はI氏が北側の谷の糸白見の林道から地図上の破線路を行き、思いがけなく標高950m付近の林道に至り、西に移動して906mのピークのある尾根を伝い、1250m地点まで登った。しかし、同じ猛烈なネマガリダケに阻まれ、時間切れで撤退したと聞いた。

た。登る予定の尾根に絡んでほぼ水平に、獣は道をつくっていた。しばらく進むと、けもの道は次第にくだり始めたため、強引に西側の支尾根に這い上がった。さらにブッシュをかき分け、ネマガリダケを切りながら主尾根に上がると、意外なことに、まだマシな踏み跡があった。植林地があつて、その上部はまたしても背丈をゆうに超えるタケやぶで、蛇を振るっても簡単に切れない。切れ目なく続くネマガリダケや倒木、またツタのブッシュに閉口し、蛇を振るう腕の疲れが目立ってきた。

晴天の日に望む東山は、昨日の厳しさを微塵もなく、いたって平穏な山に見えた。N氏ばかりでなくI氏も東山には興味を抱いていた。彼には、Eメールで昨日の出来事を送信しておいた。4日に登ったルートは山頂までの距離が長く、広い尾根の密生したネマガリダケのなかでは、ルートの切り開きに体力と時間がかかり、ルートファインディングも難しいことを悟った。できるだけ鋭い尾根を、出来るだけ短距離登行するのがベターであると考えて、

5月下旬は作物の収穫期で、比較的天候が安定する。週間天気予報で5月26日の「晴れ」に期待して登行することに決めた。N氏とI氏に打診したが、兩名ともこの日は都合が悪いという返事であった。思い直してM氏とMさんに声をかけたところ、喜んで同行したいということ。今度は林道が東に下りかけた所から西へ、獣の踏み跡をたどってみることにし

苦悶のすえなんとか13時に山頂の点名・藤仙山(3等三角点1388・0m)に達した。しかし、こどもタケやぶで標石の周囲のみに、数人が坐れる程度の空地があつた。期待の展望は全くきかない。すぐ傍のブナに「東山」の彫刻があつた。用意してきたかまぼこ板に、3名の名前を書き込んで針金で括りつけた。あたりからは異様な獣の臭いがして、落ち着かないまま遅い昼食をとった。この頃から雷鳴が轟き渡り、瞬く間に雨となつた。いろいろと確認したいところであつたが、早々に下山にかかった。

花散歩

伊吹高原

日本武尊伝説に彩られた伊吹山は、現在花の山としても名高く、ハイカーたちの人気を集めている。

日本列島の、ちょうど喉のようにくびれた場所に位置しているため、古くから交通の要所だった。それは戦略上の要所ともなり、関ヶ原の合戦はあまりにも有名だ。また、日本海からの季節風の通り道にもなっている。低山のわりに積雪量が多い。そのため気象観測の重要なポイントともなり、山頂には最近まで測候所があった。冬は新幹線のダイヤが乱れる場所である。

土壌は石灰岩である。セメントの原料採取のため今も山腹は削られ、山はすっ

(桑の実)を食べると病気になる。不衛生だと母に禁止されたが、こっそり食べてはすぐばれた。指も唇もドドメ色に染めながらおばさんが数人、桑の枝を引っ張っているのはヒンシュクモノだろうが、ここには叱る母もない。

スキー場を出ると、道はゆるやかにカーブして登っていく。イブキフワロの咲く坂の上に青空が広がり、さわやかな高原の風が吹いている。

「イブキフワロは花びらが裂けているが、よく観察すると、同じ枝で裂けた花と裂けない花があり、イブキフワロそのものが不明確になってきた」とは、伊吹高原ホテルで、長年植物観察のガイドをしている人の話だが、その詮索は専門家



妻 鹿 ひろ子

湖北

かり姿を変えてしまったが、石灰岩を好む植物は多い。伊吹特有の豊かな植生は、はぐくむ材料はいくつもそろっている。山頂のお花畑までドライブウェイが通じているので、花の時期は観光客でいっぱいになる。

私たちは毎年6月下旬になると、混雑する山頂を避けて三合目あたりに出かける。

三宮神社からスキー場経由でぶらぶらと登る。パラグライダーの練習風景を眺めたり、草花を探したり、あまりゆっくり登るのでせっかちな人は誘わない。スキー場は土止めの草の種を蒔いたのか、外来種のため草類が多い。草を掻き分け、

にまかせ、私たちはただ花の美しさを楽しむ。

道はずれ、秘密の場所にイブキジャコウソウを見に行く。訪れる人もない岩肌を、花簪のような可憐なピンクの花がおおいつくしている。踏まないように深入りはしない。気づかれない場所にあるため、群落は年々大きくなっているように見えるが、それは楽観すぎるといものかしら。

6月のもう一つの目的はキバナノレンソウだ。ヨーロッパ原産の花が、なぜ伊吹にだけ咲くのか、ルーツは不明だ。一説には信長が持ち込んだのでは、といわれている。センダイハギによく似たマメ科の花は違和感もなく、伊吹に溶け込んで咲いている。レンソウと聞けば、白楽天の長恨歌「天に有りては、比翼の鳥、地に有りては、連理の枝となり」というフレーズが思い出されて、見に行くのだが、どこが連理だかわからない。レンソウは漢字でどう書くのだろうか。山に登ると宿題が増えてかなわない。

ゆるやかな坂を登りきると、三合目の高原ホテルに着く。ぶらぶら登るのでいつもここでお昼だ。アヤメの咲く草原で

イブキジャコウソウ



小さなクチイヌノフグリを見つめる。カラマツバやクララが地味ながら自己主張し、ムラサキモメンヅル・クサフジ・ナンテンハギなど、よく似た花で判別が怪しくなってくる。あれは何だ、これは何と図鑑片手に大騒ぎをする。その間に毒舌合戦も入り、まことにかしましい。スキー場を登りつめると、山桑の実が黒く熟れている。子どもの頃、ドドメ

コーヒータムを飲み、きょうほどのあたりに行こうか。右か左か、五合目あたりまでかと思いを戻す。が、やっぱりホテル横のやぶばい森に入る。こんな所に入るモノ好きはいないらしく、やたらにクモの巣がはり付き、顔が痒くなる。ここはミスミソウが林床をおおっている。葉っぱだけ見て満足し、「雪解けの頃、花を見に来ようね」と約束するが、実現したことがない。

地味な暗い森だが植生は豊かで、まるでパッパの壁のような、クルリと花びらが反り返ったウリノキの花がおもしろい。白いヤマボウシが幻想的に咲いている。少しくだればタニウツギが華やかに咲く。木や草に名札も付いている。毎年、覚えつつもりでもすぐ名前を忘れるが、名札は嫌な顔をしないで嬉しい。

森を出て、倉の内断層の迫力ある崩れをしぼく眺め、草原に戻るとユウスゲが目に入る。

昔、友人の部屋に立原道造の「萱草に寄す」の詩の一節と、花の写真が飾ってあった。その頃私は、ユウスゲを見たことがなく、月の色をした夜咲く花に強くあこがれた。

海外山旅セミナー 開催!

入場無料
要予約

スライドを使いながら、分かりやすくご説明いたします。
お一人様からでも、お気軽にご参加ください。

●主な内容●
海外の山歩きの楽しみ方、服装、持ち物、気候、食事など

会場と時間 大阪駅前第4ビル7階 弊社オフィス
各13:30~15:00 (1時間半)

ヨーロッパツアー

特にスイス方面の登山の魅力について
ご説明いたします。

5月20日(火)

カナダツアー

カナダ方面の登山の魅力について
ご説明いたします。

5月22日(木)

登山ツアー

登山や服装、高山病対策について
ご説明いたします。

モンブラン

5月13日(火)

大岩山

5月15日(木)

キリマンジャロ

6月10日(火)

2003年4月▶2004年3月

山歩き&ウォーキング 新総合カタログ

国内・海外・自然観察の旅500コース
以上を掲載した総合カタログ。
オールカラー!
写真も掲載!

お電話・FAXお手紙にて
ご請求ください!

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtsa@amuse-travel.co.jp
☎ 06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

高山病はこれで解決!

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



●利用料(税別/1時間)
メンバー 4,000円
一般 4,300円



五合目から伊吹山頂

初めてユウスゲを見たのは信州の伊吹山だった。やぶ漕ぎのはてにようやく出た草地に、たった一本咲いていたユウスゲは、イメージしていたよりさらに美しく、透き通るようにはかない月の色をしていた。
そのユウスゲがここにはたくさん咲く。6月末に伊吹に登る理由である。昼過ぎにたどり着くため、花はしぼんでいて夢のように美しいと言いたい。日陰に

かろうじて残る花を探して歩く。ここでユウスゲキャンプをし、夢のように美しい花を見るのが、目下の望みである。しかし毎年話ばかりで、その時期はスルッと過ぎてしまう。別名、わすれ草とはこの世の嫌なこと、憂さを忘れさせてくれるという意味らしいが、キャンプの計画まで忘れてしまっている。
これだけ豊かな植生なのに、オキナグサはないのかと、植物ガイドの人に問え

ば、「子供の頃に、ふもとのお寺のそばで見たが、もう長年見たことがないね」と答える。どこかに一株くらい残っていないものか、見かけた人はいませんか。登ろうか、下ろうか、ぶらぶらしているうちに時間は過ぎ、山頂から登山者がどんどんおりにくる。あっという間に追い越され、山腹に人影もなくなったところ。ヒョロヒョロとスキー場にとどろく。たいそう足弱なグループに見えるらしく、追い越す人たちが心配し、励ましてくれる。でも、伊吹はこの登り方が一番気に入っている。
私流の伊吹山の楽しみ方である。
(平成14年6月29日歩く)

小休止

継続会費の払込みには、氏名のほかに必ず会員番号を記入してください。本誌版込みの「払込取扱票」の表面、通信欄にS H C 関西Noを記入するようになっていきます。ここが空欄だと確認に手間がかかります。会員番号は会員証のほか、毎号発送の封筒宛名の下にも印刷されています。

めぐるめく花山行

伊吹北尾根

湖北

田中 明

とも劣らないほどだ。

ところで、私にとっての伊吹北尾根コースは、国見峠を登山口とする新ハイ例会とは趣をかえ、燕壁から歩き始め、静馬ヶ原、ピーク1499、燕平、御座峰、大禿山、国見岳、銀助平、教如上人洞窟、金岩の清水へのコースである。きょうはどのあたりで何の花に会えるかなと、前もって用意した花リストでチェックもしている。

ところで、伊吹北尾根の最近の人気ぶりはどうだろう。山溪のガイドブックに登場してから目に見えて大勢の人たちに出会うようになった。今回も20〜30名のバスツアー客が三組あったが、これほど

「タルイー・タルイー」と聞きなれない駅名が車内放送で流れてびっくり。しまった！ 乗り越したのだ。ゴールデンウィークのとんだハプニングだった。花どきの伊吹北尾根で可愛い花たちに埋もれてみたいとの友の願いだが、お粗末な件りからのスタートとなった。タクシーでJR関ヶ原駅に一目散に引き返し、発車寸前の伊吹山頂行きのバスへ駆け込んだ。

さて、この伊吹北尾根コースも新ハイの例会が度重なり、驚見リーダーの自然観察の名解説ですっかりお馴染みとなり、その人気ぶりは北尾根の花の人気に勝る

花好きの友から、「わあ可愛い！ これは何んやったかいナ……」と大きな声。

「それはアカネ科のキヌタソウ。この花の葉は四枚ですが、ほかに葉を倍くらいに車輪上に徐々につける同じ仲間のクルマソウにも、もう少し行けば会えると思いますよ、でもこれらの花は去年のリストにはなかったですね」と答える。

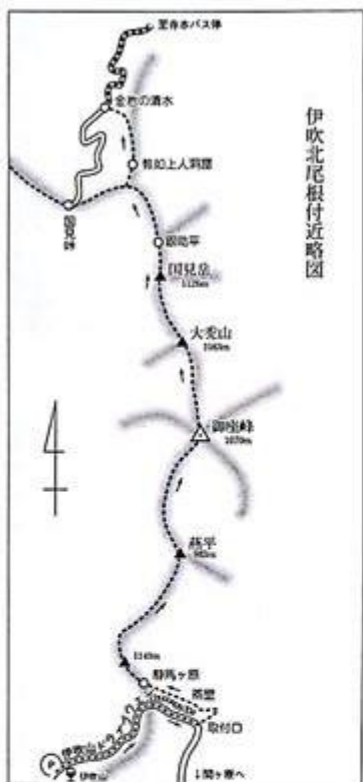
一年前の同時期の開花リストをJR車中で説明済みだったが、そのリストには入っていなかったキヌタソウであった。

このように北尾根では全く同じ月の一年後に歩いても種を異にすることがしばしばある。それだけ植生が豊かなこと

証明ではなからうか。

なかならず、燕壁・静馬ヶ原・燕平付近は花・花の連続で、どうしてもカメラタイムが多くなる。

チゴユリ・ホウチャクソウのユリ科たち、ユキノシタ科のいろいろなネコノメソウたち、ケシ科のケマン族たち、登山道を白っぽく染めているのが遠目にもわかるアブラナ科のイブキハタザオの群生、華やかに黄色い花弁たちのヒメレンゲ・イブキタンポポ・ウマノアシガタ・キジムシロの面々を観察しているうちに、展望台でのお昼予定が、バスツアー客に先を越されてしまった。ならばこの先の三



伊吹北尾根付近略図

伊吹北尾根の山並



まで多いと、当然登山道も踏み荒らされて道幅も広がり、そのぶん花たちの居場所が狭くなる。こんな状況が大禿山の事前あたりに目立ち始めていて心配である。

角点の御座峰でと思いきや、またまたツアー客であふれている。やむなく隅っこで小さくなっている。遅い昼食タイムも、騒々しさのあまり、20分ばかりで立ち上がる。

伊吹北尾根は花のコースとしてあまりにも有名になったが、その陰にはこのコースを40年ばかり前に開いた大垣山岳会の多大なご尽力があったことを忘れてはならない。その後も春日村の人たちによる登山道の整備等がなされている。これらの説明が、この御座峰三角点のそばにレリーフとして平成11年10月に設置されている。多くの人たちの汗によって、このような天空の喜びが分かち合えることに感謝感謝である。

花・花・花、そうは言っても北尾根には大きく分けて、ピーク1499、御座峰・大禿山・国見岳の四つのピークが横たわっている。その間の大小のアップダウンに加えて、石灰岩の露岩が多く突出しており、足を滑らさないよう注意が必要である。コースのグレードとしては、決して初級ではない。油断は禁物である。私もぬかるみの下り道で思い切り尾



ラショウモンカズラ

を上げたりで、スムーズな歩き方でないのを説明するのが遅かったようだ。申し訳なかったと心のなかで詫言った。
園見岳に着いた。この付近は天候次第ではるか遠くに能登白山・白山・御嶽山が望める場所であるが、本日は春霞ばかりが目立ち、見通しはさかなくも。もっとはっきりと遠望できたのはこれまでに2〜3回しかない。北尾根コースの天

候は不順であるが、これがまた、たくさんの花たちに出会える要因の一つかもしれない。
KDDIの大きなバラボラアンテナが建つ銀助平で一本立てた後、このコースの最大の難所(とは言ってもびびりする程のことはないが……)の下りをロープを伝いながら、友も何とかがやりました。足元の悪い場所に立ち止まり、「この樹がアラゲヒョウタンボク(スイカズラ科)といい、夏には赤い実の二つが合着し、糞尿みたくに見えるんです」と説明するが、友は悪路で気もそぞろの様子である。
少しくだると教如上人分岐(昨年5月に分岐地点に「蛇ヶ岩屋」の立派な看板が建てられている。また、その岩屋付近には6月頃に歩くためずらしいヒメハギ科のナガカキノハダツに出会える)から階段状の急降下を30分ばかりで下山口の「金岩の清水」に到着した。
美東の名水で喉を潤した後にまだ1時間程の車道歩きが待っているが、この道中もまたいろいろな草花を愛でながらのけっこう楽しい時間帯である。

楽しい花たちとの出会いもあったという
思うのは私ばかりではない。一度地上に挨拶したさに咲いたら、次は7〜8年も先になるという。「ここで自然の一員として謳歌しています」と言える期間のはかなさは、可哀そうなくらいに愛くるしい。
まだあるある。シソ科の「ラショウモンカズラ」で、長さ5センチくらいの唇形花をつける。この花の和名に歴史を感じ、好きになった花である。古き時代に京の羅生門で渡辺綱という武将に切り落とされた鬼女の腕の切り口に、本種の花形が似ているというユニークな逸話が伝えられている。花を追いながら、歴史小説を語るように説明できるのがうれしい。この花は、園見岳直前の相当歩いて来た上り斜面の途中に咲くが、しんどさを忘れさせるほど、夢中になれる花である。
伊吹北尾根は新緑・春本番・初夏・盛夏・初秋とこれまで30回はゆうに歩き、私の好む花はそれぞれの時期に五指では足りない。そんな花たちを今回もその想い出の一ページにしたくてやってきたが、最後のピークの園見岳で友の足が少々気になってきた。
この花山行は立ち止まったりスピード

間にすぎ、美東の六社神社でバス時間の調整に休憩をとった。
数少ない「寺本」からのバスに飛び乗り、春日もりもり村の栗草風呂で花旅の汗を流し、近鉄掛聖駅・JR大垣駅からの車中で友と本日の花合せに時を忘れた。さあまたいつか、伊吹北尾根の花たちと遊ぼう！(平成14年5月5日歩く)
A参考タイム▼
JR関ヶ原9・35(バス)頂上バス停10・12(燕尾)10・35(燕尾)12・00(御座峰)12・40(昼食)13・05(大禿山)13・30(園見岳)14・00(教如上人分岐)14・30(金岩の清水)15・00(六社神社)16・10(寺本バス停)16・33(バス)春日もりもり村温泉16・50(入浴)18・42(近鉄掛聖駅)19・21(電車)JR大垣駅19・46(20・00(電車)京都部)21・40
△地形図▼2万5千1美東・関ヶ原
△問い合わせ先▼
もりもり村栗草風呂 4000円
*イブキモグサやイブキトウキ等の栗草がふんだんに入った、おすすめのお風呂である。



カタクリ



ルイヨウボタン

藍骨を露岩に打ちつけたこともあるが、花に目を奪われるばかりでなく、アチコチに気を遣う忙しいコースでもある。
さて、この時期私はメギ科の「サンカヨウ」も好きな一つだが、ほんとうは同じメギ科の「ルイヨウボタン」がたまたまなく最高に好きな花である。各地の寺などできれいに咲くボタンの葉に似ているところから、類葉牡丹と名がついたと図鑑は教えている。みずみずしい一枚一枚の葉の芽出しの頃はもちろん、愛くるしいくらいな可憐な緑黄色の1枚足らずの花を開く頃もよい。三回三出複葉で互生し、時に二〜三裂する卵形の葉にそれはよくマッチし、地味な慎ましやかないでたちが私の好きな理由である。この花に会えたなら、その日の後で会う花たちは付録になってしまうほどである。
そうは言ってもピーク149の先の下りのS字状の登山道沿いに群生するユリ科の「カタクリ」も心打たれる花には違いない。今回はほとんど咲き終わった後で、わずかばかりの名残のカタクリが待っていてくれた。
高山植物の女王がケシ科の「コマクサ」なら、山野草の女王は「カタクリ」だと

間にも、一度地上に挨拶したさに咲いたら、次は7〜8年も先になるという。「ここで自然の一員として謳歌しています」と言える期間のはかなさは、可哀そうなくらいに愛くるしい。
まだあるある。シソ科の「ラショウモンカズラ」で、長さ5センチくらいの唇形花をつける。この花の和名に歴史を感じ、好きになった花である。古き時代に京の羅生門で渡辺綱という武将に切り落とされた鬼女の腕の切り口に、本種の花形が似ているというユニークな逸話が伝えられている。花を追いながら、歴史小説を語るように説明できるのがうれしい。この花は、園見岳直前の相当歩いて来た上り斜面の途中に咲くが、しんどさを忘れさせるほど、夢中になれる花である。
伊吹北尾根は新緑・春本番・初夏・盛夏・初秋とこれまで30回はゆうに歩き、私の好む花はそれぞれの時期に五指では足りない。そんな花たちを今回もその想い出の一ページにしたくてやってきたが、最後のピークの園見岳で友の足が少々気になってきた。
この花山行は立ち止まったりスピード

新ハイ関西70号
標高△△70mの山

爺ヶ岳 (2670m)・北アルプス
国見岳 (1170m)・鈴鹿
峰床山 (970m)・京都北山
大朝日岳 (1870m)・朝日連峰

爺ヶ岳

北アルプスの爺ヶ岳は展望がよく、また手軽に登れる山なので、ずっと以前から登りたいと思っていたが、人の多さを予想するとつい億劫になり、結局は50歳になるまで未知の山だった。未知の山だけど、写真で爺ヶ岳からの鹿島槍ヶ岳や鯉岳の姿はよく知っているので、初めて目の前にしたときも、とくに初めてとは思えないような錯覚を覚えた。

深い青空の晴天に恵まれ、登山道の脇で鹿島槍ヶ岳や鯉岳を描いた。登山者がすぐ近くを通るから、あまり落ち着けな

かったが、日本を代表する山に向かうと、引力のようなその魅力に導かれて、しばしの間、描くことに没頭できた。針ノ木岳への稜線上はひと気がまばらで、静かによかった。鯉岳の姿はやはり見事というほかない魅力に満ちていた。写真で十分知っているものの、明るい色の岩と雪とが織りなす山容の美しさは、他の山とは比べようもない格調の高さがあった。

(平成12年7月29日、30日歩く)
AコースタイムV
福沢(5時間)種池山荘(2時間で往復)爺ヶ岳
△地図V昭文社「鹿島槍・五竜岳」



そんな国見岳を5月の連休に遠く鏡子ヶ口から望んだときのこと。花に詳しい岩井さんと興味をそそられる発見をした。山体が全体的に紅色をしていたのだ。遠目に見て周囲の山の色と違うほどに、ツ

国見岳

私が興味を覚える山の条件に、有名な山が近くにある山という図式がある。なぜなら静かで展望がよいのではないかと考えるからだ。北アルプスなら立山や鯉岳の隣の大日岳とか、南アルプスなら甲斐駒ヶ岳の南に位置する栗沢ノ頭のような山である。鈴鹿というと御在所岳のすぐ北にある国見岳ということになる。

ツジ類らしき花が群生しているのは驚きだった。次は国見岳に行こうと、新発見の喜びを2人で分かちあった。

そして5月7日、御在所岳登山道の、いわゆる裏登山道と呼ばれる道を会の4人で登った。嶽内小屋を経て雑木林の爽やかな風情のなかを登る。霧が立ち込めていて遠くは望めないが、そのぶん、紅の花は幻想的に浮かび上がって美しくかった。まだ少し時季が早目だったので、山



国見岳登山道のアカシオ

頂付近はつばみが多かったが、国見岳の北斜面はアカシオが群生していることが確認できて、次の機会の楽しみとなった。

なお国見岳の標高表記は地形図にはない。等高線によって算定したものである。

(平成12年5月7日歩く)
AコースタイムV
鈴鹿スカイライン裏登山道出合(3時間30分)国見岳(2時間)車止
△地図V昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

峰床山

京都府の最高峰は滋賀県との境にある皆子山だが、完全に京都府に属している山で言えば、峰床山だ。

峰床山の東側にある八丁平の湿原は、京都府にあっては貴重な場所である。私は伊賀谷の左俣のコースが好きだ。美しい樹相のなかを、流れを伝いながら、ときには水の中に入りながら進むコースだ。野生の野イチゴを採って食べて歩くひときは、とても楽しい。

日本山岳会京都支部がナカニシヤ出版より刊行した「山城三十山」の表紙画は、

桑谷山より見た雪の峰床山の版画である。峰床山の山容は概して茫洋として特徴のない形をしているが、桑谷山からははっきりとした輪郭の美しい形で見られる。

AコースタイムV
伊賀谷左俣・右俣出合(左俣コース4時間)八丁平(2時間)峰床山往復(右俣コース1時間)車止
△地図V昭文社「京都北山2」

大朝日岳

朝日連峰の主峰だ。山腹の深いブナ林と森林限界の上の高山植物の群落の続く朝日連峰は実に美しい山域である。

あいにく霧の日が続いて美しい大朝日岳の三角錐の姿を見ることができなかったが、悠容迫らざる山脈を旅した後の満ち足りた心境は、いつまでも忘れられないだろう。

(平成10年7月28日、29日歩く)
AコースタイムV
朝日鉾泉(4時間)鳥原小屋(4時間)大朝日岳
△地図V昭文社「朝日・出羽三山」

逢坂の関から音羽山

木村太郎

山科



逢坂の関址碑

東海自然歩道「音羽山コース」を目指し、京阪京津線大谷駅を出て、車石庭園に一等水準点を置く上、蟬丸神社の石段をあがる。国道1号線のすぐそばだが松風わたる谷間の古社は、和楽や和歌の芸道神として知られる蟬丸を祭祀している。神社の裏山伝いに自然歩道へ入り、「逢坂山関址」の石標と常夜燈が立つ国道を見下ろす逢坂山歩道橋を渡りきる。

逢坂の地名は『日本書紀』の記述による。武内宿禰と忍熊王の合戦の軍勢が、この坂地出会ったことが起源とされる。「逢坂の関」は、畿内の北端に位置するこの逢坂山の古道筋にあり、孝徳天皇の大化二年(646)に設置された。平成

京から山背さらには近江へ通じる古北陸道を押さえる関の役割を果たしていた。浜大津側へ離れて立つ逢坂の蟬丸三社の一つ、下の関蟬丸神社の方には、『古今集』の撰者紀貫之が詠んだ「関の清水」跡がある。

伝説的な歌人で生涯が詳かでない蟬丸の歌は、小倉百人一首に撰ばれている。これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関

『新古今集』の撰者で日記「名月記」を残している藤原定家が、小倉山で蟬丸の歌を百首に入れた理由は、口調の良さに魅かれてのことであろう。

通した鋭い音感があつたようだ。

箕面と高尾の二つの明治の森を結ぶ東海自然歩道は、時の回廊を渡る自然の息吹が旅人を楽しませてくれる。春から夏にかけての散歩道では、緑若々しい木蔭をつくり、小鳥のさえずりや野の草花がささやく音楽を聴くこともできるよ。

けれどもこの日歩き始めた音羽山への道は、数日來の冬將軍の到来で沈黙にまつまれている。急坂の丸太にも霜が降り、道のまわりに茂る羊歯類も凍えているようだ。短かった秋から冬にかけて積もった落ち葉の上に、消え残った雪粒が斑模様を織り上げている。



NTTの音羽山無線中継所の電波塔付近からの雪景色は山斜面全体に広がり、

音羽山路傍休憩所への分岐をやり過ごし、背丈ほどに育ったササのかぶさる道を過ぎる。芽吹きのときを待ちかねて身震いをしてはいる裸木の間をぬって、音羽山(693m)へ登り着いた。

私は昨年暮れ、奥三河の乳岩峽から明神山へ登った後に、右膝の関節部が炎症を起こして自由に歩けなかった。まだ本調子でない膝をかばいつつ、ゆっくりと時間をかけて音羽山まで登ってきた。

家人の制止を聞こえないふりして山歩きに来たわがまま私であったが、登り着いた音羽山の頂上は晴天の下に絶景をセツトしてくれていた。

逢坂をうち出でて見れば近江の海

白木綿花に波立ち渡る

(巻十三一三三三)

苦しかった登りの途中、植林帯を過ぎて北斜面の山腹を捲いていたときに唯一展望が開けた風景は、まるで小窓からの眺めのようなであった。だが、山頂からの眺めはそれと比較にならないほどの大画面が広がる。万葉人が白木綿花の波が立つと形容した近江の海だけではなく、まるで山と海とがハーモニーを奏であうような雄大な風景を望むことができた。

都富士の比叡山、雪をいたたく比良山が遠望できる。近くに京滋の町や東山連峰が俯瞰できる。おそらく古代の逢坂山からの眺めも、ここ音羽山からの眺めと似ていたはずである。眼下にのびる鉄塔の架線が目障りだが、電波時代の今を象徴しているようであって親しみを感じた。

『万葉集』で、大伴一族の坂上郎女は天平九年夏4月に逢坂山へ登り、近江の海を望んで一首詠っている。木綿登手向けの山を今日越えていづれの野辺に盛りせむ我

(巻六二〇七)



音羽の滝

色にすぎない身分である。「身帯丸」を著した折口信夫の説では、「丸」の付く名前の原点は、時の権力者が身分の低い人に付けた名であるという論証がある。歌人釋超空として独自の世界を開いた折口の考察は、蟬丸の身分にも当てはまるとみて間違いないであろう。

蟬丸の貴賤は問わないことにして、世阿弥の舞台を覗くことにする。父帝の勅

説で逢坂山に捨てられ隠棲した蟬丸が、都を出て流浪する姉君逆髪とめぐり会い、再会をはたす場面が最高の見せ場になっている。

盲目の蟬丸と髪を撫でつけても逆立ってしまふ異形の姉君は、どちらも不吉の表れとして、皇統の血筋とはいえず都では生きていけない立場なのだ。それゆえ姉弟が逢坂山の藪屋で会いまみえたとき、抱き合い号泣し合う情愛の場が盛り上がりを見せるのである。

能舞台において、逆髪が蟬丸とめぐり会う道行きで、「花の都を立ち出でて」から、鴨川・白河・粟田口・音羽山・山科・逢坂関・走井と、地名を次々謡う場面がみられる。その道行きこそ、その当時の京都から近江へ至る一般的な旅の道筋だったように思われる。

蟬丸をたずねて逆髪がたどった音羽山から逢坂関への道を、私は逆回りかも知れないが歩いたことになる。能案に読まれてきた道を、万葉歌に詠まれた風景を探訪しながら歩いてきた。

たどり着いた牛尾観音法蔵寺の由緒によると、近江京を造営した天智天皇も中大兄皇子の時代にこの寺院を訪れていた



音羽山山頂

その日、郎女は山背国の賀茂神社に参詣し、その帰りにかねてからの念願であった近江の海を見るために逢坂山へ向かった。そのときの「巖頭に婦り来たりて作った歌」と記された詞書に、歌の背景が明らかにされている。郎女は「私はどこの野原で飯寝できるのだろうか」と嘆いたが、

彼女の心細さを引き起こしたのは何だったのだろうか。

当時の都では旱魃が続き、太宰府管下の諸国から蔓延した疫病で多くの犠牲者が出ていた。家刀目として郎女は賀茂社への旅を思い立ち、大伴家の安泰を祈願せずにはおられない心境だった。夫の穂積皇子を亡くしてからの孤独、家運をたたくした家持と娘大娘との夫婦仲の気がかりなど、数々の心労が心細い気持ちにさせたのだろうか。

別の『万葉集』の歌では、禁断の恋を犯した罪科で越前の味真野に流れ落ち、涙して逢坂山を越えた中臣宅守の名を思い起こす。

我妹子に逢坂山を越えて来て

泣きつつ思れど逢ふよしもなし

(巻十五「三七六」)

名に聞こえた逢坂山を越えたというのに、愛する恋人の狭野弟上娘に逢えないと嘆く。宅守のこの歌も私の忘れ得ぬ一首にあげたい相聞の調べである。

いにしえ人の涙の理由も知らぬ氣に、冬日に照らされた音羽山の小広い頂は明るかった。峰の雪が溶け、ぬかるんだ山上での昼食を終えたと下山にかかる。パ

ノラマ台・石山寺方面への東海自然歩道と別れ、四宮・牛尾観音の道標をたしかめて分岐を右に折れる。一山越えると天候が変わると聞いていたが、音羽山の南斜面には雪のかけらもなく、乾いた松葉の道が続いていた。

小説『万葉の華』で坂上郎女の波乱の生涯を描いた三枝和子は、郎女を『万葉集』の隠された編者とみている。歌姫坂上郎女が近江の海を見てから、およそ百七十年の星霜が流れた時代に立ち寄ってみよう。延喜の代を演じる世阿弥作の能楽『蟬丸』では、醍醐帝第四の皇子を装い蟬丸が登場している。

私が下山する四宮は、蟬丸ゆかりの土地でもあるようだ。仁明帝第四の皇子人康親王がこの地に山荘を開いて隠棲し、風流三昧に生きたという伝承があり、四宮の地名が付いている。おそらく世阿弥は能楽『蟬丸』を劇化するにあたり、琵琶をたしなむ四宮の君と呼ばれていた親王を、蟬丸に重ねて脚色したようである。

能楽『蟬丸』の典拠は『今昔物語集』にあるようだが、「今は昔」の語りを繰れば、蟬丸は宇多帝の皇子敦実親王の難という。そのとき、音羽川の清流や音羽の滝の景観を賞賛されたという故事が伝えられている。

桜の馬場のキャンプ地をぬけると音羽川沿いの道で、当時の風情を失った舗装路に変わっている。大蛇塚の下でしぶきをあげる古歌に名高い音羽の滝も、やがては伝説は廃れ、振り向かれなくなるであろうか。和歌に詠まれた風雅を求め、かなわない日がやがてくるようでも惜しまれてならない。

(平成15年1月7日歩く)

△コースタイム▽
 京阪大谷駅(5分) 蟬丸神社(1時間5分) 音羽山路傍休憩所分岐点(20分) 音羽山(15分) 石山寺方面・四宮牛尾観音分岐点(25分) 牛尾観音(15分) 桜の馬場(15分) 音羽の滝(1時間) 京阪四宮駅

△地形図▽2万5千 京都東南部

新ハイ例会・自然観察山行

白馬岳・雪倉岳・朝日岳

鷺見守康

北アルプス

白馬岳には、当初、白馬大池からのルートを考えていた。夜行バスで到着した初日は、梅池から白馬大池までの短い行程のほうが楽だろうし、大雪渓はすでに体験済み人が多いだろうと考えた。さらに、翌8月例会山行の白馬三山から唐松岳への縦走の際には、大雪渓を登る予定でもあるからだ。

南アルプスからの急な計画変更のため、白馬大池小屋への予約電話は山行日の数日前となってしまった。20人近い団体と聞いて、小屋側は「すでに満杯の状態です。食事時間でもご迷惑をかけることが予想されますので、できればルートを変更していただけないか。山小屋である

以上、お断りすることはいたしません

が……」という苦しい返事であった。やはり、夏山では人気の高い山域だから、予約するには時期が遅過ぎたのかもしれない。いさか焦りを感じながら、今度は白馬岳村営頂上宿舎に電話。「空いてますよ」との返答をもらって、まずはほっとした次第であった。

白馬岳村営頂上宿舎へ

中央・長野自動車道で時間調整をしても、白馬岳の登山口である猿倉荘に到着したのは、予定より1時間ほど早かった。白馬駅前から猿倉荘までの道路では、他の車にはほとんど出会わなかったのに、小

瞬間、息を殺し音源の方向をパッと照ら

したのだ。「何？」という不安そうな彼女に、「ネズミ。……きつとヤチネズミ。もう一度来ないかな」と答えた私の声はたぶん喜々としていたのだろう。彼女は呆れたように背を向けてしまった。

白馬尻の小屋を出発すると、キヌガサソウの群落を見てまもなく大雪渓だ。大雪渓への降り口で軽アイゼンを装着した。大雪渓はガスに包まれ視界が悪い。ペンガラで示されたルートに列をなし、アリの行列のごとく進む。ゆっくりとはいえず、ペースを行列に合わせなければならぬ

ので神経を遣い、かえって疲れる。

4時間余りをかけて村営頂上宿舎に着く。私は早速小屋の受付に行く。混雑する受付の隣の窓口で「予約した新ハイキングです」という声があった。私も負けじとばかり「予約した新ハイキングです」と申し込むと、対応の支配人風の男性は一瞬戸惑ったようだ。

「新ハイキングの関西です」と私が笑うと、支配人も了解できたのか「お疲れさまです。来月もお泊まりいただけますね」と言ってから、急に声を小さくして「料金は割引させていただきます」と

屋前の広場や駐車場には、湧いて出たかのように登山者がたむろしていた。

空には雲が多い。すでに東海や関西は梅雨が明けたのだが、この北信の地はまだ梅雨空であった。猿倉荘で朝食の世話になり、出立したのは午前6時。しばらく幅の広い道を観察しながら歩く。1時間ほどで白馬尻小屋に到着して休憩。

白馬尻の小屋はブレハブの仮設小屋だ。冬期の雪崩で小屋が押し流されてしまうため、登山シーズンの終了とともに撤去される。この白馬尻小屋には、ちょっとした思い出がある。

もう8年も前のことだが、パーティーメンバーの体力を考慮し、1日目はこの白馬尻小屋に宿泊した。小屋の設備の貧弱さに比べて予想外においしい夕食をすませ、早目に就寝した夜のことであった。

真夜中、隣のメンバーの女性が寝入っている私の耳元でささやいた。押し殺した声で「何か変よ」と震えていた。ザックの付近でガサゴソと音がしている。他の人は寝息をたてて眠っている。私は静かにするよう彼女をなだめ、慎重に枕元のヘッドランプを手にした。そして次の

にここにする。サービースに礼を言いつつ、私は気になっていた混み具合を訊いたが、「この時期はどうしても混雑しますので、蒲団一枚に2人ですが、皆さんの部屋にはこれ以上詰めませんし、当方の蒲団は大きいのでゆっくりできると思います」とあくまでもにこやかだった。

山頂近くの白馬山荘のそれと比べれば田舎のスキー場のレストランのようなものの、この村営頂上宿舎にも食堂とは別にレストランがある。そのレストランで昼食ということにした。登山道の混雑もあって隊列はかきあげられてしまったよう。最後尾を歩いてきたサブの狩野さんが到着しても姿の見えないメンバーが1人いることがわかった。一瞬、私は緊張したが、「彼女なら心配はいらないけど、ザックがかなり重そうだから迎えに行ったほうがいいかもしれない」との狩野さんの言葉に落ち着きを取り戻し、数人で迎えに出た。M・Fさんとは5分ほどだった所で落ち合うことができた。こうして全員が揃い、にわか仕立ての宴会となったのである。

村営頂上宿舎の食事はバイキング方式である。品数もあって味もよい。蒲団は



やや湿気が気になったものの、たしかにダブルのように大きな蒲団でゆったりしていた。従業員への応対も感じよく、村営頂上宿舎に根強い人気があるというのもうなすげえ。

本日の行程で全員疲れが溜っていたのだろう。夕食後は早々と就寝した。

朝日小屋へ

翌朝の食事時、東京の新ハイキングのリーダーが私たちのテーブルにあいさつに來られた。これから唐松岳に向かうとのこと。礼儀正しい方で、私たちはただ恐縮するばかりであった。

外は雨。久しぶりの雨具を着用しながら、私は、雨のなか、不帰ノ剣を越えていく東京の新ハイパーティのことが気にかかった。本降りの雨で、わがパーティのメンバーにも活気はない。

黙々と登った白馬岳山頂も視界はゼロ。ガスが濃いと展望ばかりではなく、花たちも見えなくなってしまうのだ。この先が思いやられた。

けれど、白馬岳を過ぎて三國境にさしかかった頃から雨は小止みとなり、心なしか空にも明るさが戻って、メンバー

の表情にも和やかさが戻ってきた。やがてガスが動き出し、時どき、雪倉岳方向の見通しがきくようにもなった。「きつと晴れてくる、そんな予感もするのだ。パーティにも少しずつ活気が出てきた。」

白馬岳から三國境、そして鉢ヶ岳、雪倉岳へと進む線は、高山地形に関心があふれる人々には大変興味深いものだ。断崖による線状凹地(少し前まで「二重山稜」と呼ばれていた)が見事で、階状土や円形土などの構造土もよく見られる。さらに、白馬岳山頂付近の黒色の砂岩・頁岩から白っぽい流紋岩へと地質の変化が顕著で、砂岩・頁岩の所には風衝草原のお花畑、流紋岩の所にはコマクサ群落が広がっている。

そして、ミヤマムラサキも感動的に多い。ムラサキ科のなかでも最もワスレナグサに似ているミヤマムラサキが、ゆるやかに広がる斜面に群落をつくっているのは、実に印象に残る風景だった。

北アルプス随一といわれるお花畑の連続はほんとうに見事であり、白馬岳から雪倉岳、朝日岳へと、高峯高原群落・ハイマツ群落・高山風衝わい性低木群落・高山風衝草原群落・高山荒原群落・高山岩壁植生・雪田植生・湿原植生など次々と出現し、歩きながら片手間に確認しただけでも180種にとどく花たちが咲き競っていた。

これだけ花が豊富だと、「花博士」のA・Tさんは女性陣に大もてで、「Tさん！この花はなんですか」と引っぱりだこである。その声に応え、隊列の前へ後へとA・Tさんが走る。こまめで根気のいいA・Tさんならでは、である。

雪倉岳を越えて赤男山の中腹を進み小桜ヶ原に至ると、まもなく朝日岳を捲くように行く白馬水平道に入った。この白馬水平道をしばらく歩くと、朝日岳が描く稜線の上に、ポツンと朝日小屋が見え

てくる。

今回の山行の直前まで、私は何回か朝日小屋の「おばあさん」と電話で話していた。蓮華温泉への道は私は一度も歩いたことがないので、その情報を収集しようとする、「おばあさん」は「昨日も1人骨折した、蓮華温泉への下りは滑りやすく危ない」と、まるで歩かないほうがいいとでもいいかげんな口振りであ



小桜ヶ原を行く。後方は朝日岳

た。「朝日小屋へはどこから来るのか」との問いに「白馬岳村営頂上宿舎から」と答えると、「あなたたちは若いパーティか?」と続く。「60歳代なら、先日12時間を要したパーティがある。あなたたちも村営頂上宿舎を朝4時頃に発ったほうがいい」との忠告だ。その話しぶりから心配性で世話好きな「おばあさん」との印象をもった私は、ぜひ会ってみたいと思っていたのだ。

15時20分、朝日小屋に到着。白馬岳村営頂上宿舎から休憩時間を含め9時間余りを要した。早速、小屋の受付に行く。受付で応対したのは、「おばあさん」ではなく、中年の女性だった。「おばあさん」は本日は不在なのかと思ったが、中年女性の声と話しぶりはまさしく電話の相手であった。「そうか。おばあさん」ではなかったんだ」と心のなかでそつとつぶやく。この女性がその筋では有名な朝日小屋の主人であった。

小屋の主人は、清水ゆかりさんといって、以前テレビでも紹介されたことがある。たぶん40代の女性だが、顔に入れた写真を食堂に飾り、そこには「北アルプス三美人の1人」と書かれていた。これ

だけ堂々と、かつ、あっけらかんと宣言されてしまえば黙って笑うしかない。清水ゆかりさんが「美人」かどうかはともかく、残る2人の美人というのはいったいどここの山小屋にいるのだろう。帰路のバスの中では「北アルプス三美人」を訪ねる山行を計画するとおもしろい、などとまぜっかえす声もあった。

小屋では、大部屋を一つ与えられた。長い行程を終えて疲れはあったが、明日は朝日岳からくだるだけだからと気持ちにゆとりが生じたのか、三々五々と全員が外のテーブルに集い、夕食前のにぎやかな宴が始まった。

小屋の夕食は家庭料理を思わせる肉じゃがと天ぷら。山小屋で肉じゃがとは驚いたが、その味の良さは絶品だった。この山行前、私は朝日小屋について、辺境の狭くて居心地の悪い山小屋だろうと予想していた。だから、食事の良さと水洗トイレの清潔さは、実に大きな収穫だった。

朝日小屋の応対の温かさと食事のおいしさは、きっと多くの登山者の心に残るだろう。その意味でも、たしかに、清水ゆかりさんは「美人」なのだ。

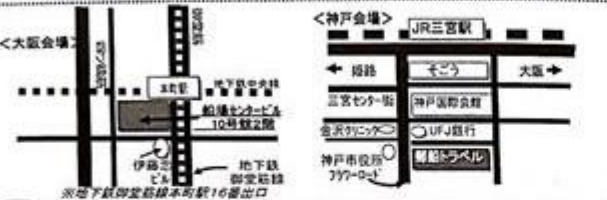
スイス・アルプス・ハイキング

2003年5月~9月

実際に現地をご案内する山岳ガイドを招き、現地の様子がよくわかるビデオの上映や、ハイキング時の服装や準備する物などを具体的に解説しております。お気軽にご参加ください。

4月26日(土)	神戸: 14:00~16:00	大阪: 18:00~20:00
5月16日(金)	神戸: 14:00~16:00	大阪: 18:00~20:00
5月28日(水)	大阪: 14:00~16:00	神戸: 18:00~20:00
6月14日(土)	大阪: 14:00~16:00	神戸: 18:00~20:00

その他、お仲間が集まる所での「出逢い説明会」も致します。
お越しください
(参加費無料です)



全コース20名様以内でハイキング
山岳ガイドがお客様とのコミュニケーションをはかりながらハイキングできるように人数設定いたします。アットホームな雰囲気の魅力です

日本人山岳ガイドがご案内
現地在住の日本人山岳ガイドはスイス・アルプスを知り尽くしたエキスパート。天候によりコースを変えたり、臨機応変な対応が魅力です。

ゆったり連泊
できるだけ1都市に2~3連泊していただく日程にしています。連泊することで、悪天候でも対応できるゆとりのある日程が魅力です。

ゆったりハイキング連泊コース

本格派ハイキングコース

ユングフラウ、マッターホルンをゆっくり巡る9日間
グリンデルワルト3泊、ツェルマット3泊にゆったり滞在。22年間ご愛顧いただいている超人気おススメコース!
¥358,000~¥558,000

その他...
◎スイスの春・花を求めてアルプスハイキング9日間
◎サンモリッツ、ミュレン、サースフェー特かな山聖遊り11日間

ロープホルン&ヘルンリ、あこがれの山小屋ハイキング9日間
スイス山岳会の名だたる山小屋に宿泊し、大自然との一体感を心ゆくまでお楽しみください。
¥443,000~¥583,000

その他...
◎ツール・ド・モンブラン 多彩なアングル10日間
◎4,000m級ヨーロッパアルプス、プライベート山頂チャレンジ10日間

郵船トラベル株式会社 ホームページ: <http://www.ytk.co.jp>
メールアドレス: kog@ytk.co.jp
ハイキングツアー専用デスク: フリーダイヤル0120-819-215
営業時間: 月~金 9:30~18:00 / 土・日・祝日は休業

大阪市中央区船場中央4-1-10
船場センタービル10号館2階
TEL:06-6251-0255 FAX:06-6251-9190
一般旅行取扱主任者:辻澄敏

神戸市中央区八幡通4-2-18
郵船航空ビル
TEL:078-251-7611 FAX:078-230-6488
一般旅行取扱主任者:小野田良一

パンフレットのご請求・お問い合わせはこちらへ

他にも多彩なコースをご用意しております。詳しくはお問い合わせください。

蓮華温泉へ
最終日の3日目も雲が多く、見晴らしのきかない展望であった。おいしい朝食をすませ、5時半に朝日小屋を出発。すぐ朝日岳への登りになった。
登山道でヒミズ(ヒメヒミズかも)を見た。ヒミズはモグラの仲間、山を歩いているとしばしば登山道沿いに死骸を発見することがある。キツネなどの哺乳動物が捕殺するのだが、ネズミとちがって味が悪いのか、食べずに放置してしまうらしい。だから、ネズミの死骸を発見することはまずないけれど、ヒミズ類の死骸を見るのはさほどめずらしいことではない。
生きているヒミズは、動きに愛敬があつてなかなかおもしろいのだが、私たち人間に見つめられ、あわてふためく様子は少しかわいそうな気もした。
50分ほどで朝日岳山頂に到着。雲などなければすごい見晴らしなのだろうが、今回の山行は、見晴らしには最後まで恵まれなかった。風も強くて寒いので、10分ほどの休憩後出発。蓮華温泉への長い下りに入った。
清水ゆかりさんの言葉通り、五輪尾根

はぬかるみのひどい所が多く、また、湿原の木道は苦むして滑りやすい所もあり、大変に歩きにくいコースであった。靴はドロドロ、滑って尻もちをついた人などは半身泥まみれという状態になった。
途中からは本降りの雨に打たれ、いい加減気分が滅入っているところへ、瀬戸川の鉄橋を渡ってから兵馬の平までまでも登りになった。蓮華温泉はこの山を越えた所であり、このあたりがずっと苦しいポイントだった。
しかし、そのなかでも、青ザクでは白馬大雪渓の越平を渡り、五輪高原ではニッコウキスゲやキノコウカなどの群落のなかを歩き、真正正銘のユキワリソウ(サクラソウ科。「ミスミソウ」の別名もユキワリソウというが、ユキワリソウという本名をもつ花があるのだから、適切な呼び方ではないと思う)の群落にも出会うなど、実に感動に満ちた高原散歩であった。
蓮華温泉にくだったとき、時刻は正午を回っていた。予定より1時間以上遅れていたためか、待機していたバスの運転手はかなり心配していたようだ。「連絡をとろうにも携帯電話は不通だし、蓮華

温泉ロッジに訊いても、そのような団体は承知していない」と言われ、途方にくれていた、と笑った。
(平成14年7月19日~22日歩く)

▲参考タイム▼
(19日 曇り) JR岐阜駅 23:00 (バス)
(20日 曇り) (バス) 猿倉荘 4:45 (朝食) 6:00 | 白馬尻 7:00 | 10 | 藤平 9:45 | 10:00 | 白馬村宮頂上宿舎 11:20 (泊)
(21日 雨のち晴れ) 白馬村宮頂上宿舎 6:10 | 白馬尻 6:40 | 45 | 三園境 7:20 | 30 | 雪倉岳遊園小屋 9:10 | 30 | 雪倉岳 10:20 | 25 | ガレ手前 11:10 (朝食) 11:45 | 小桜ヶ原水場 12:50 | 13:00 | 白馬水平道水場 13:55 | 14:10 | 朝日小屋 15:20 (泊)
(22日 曇りのち雨) 朝日小屋 5:30 | 朝日岳 6:20 | 30 | 青ザク 8:10 | 五輪高原 8:30 | 45 | 兵場の平 11:25 | 蓮華温泉 12:10 | 30 (バス) 十郎の湯 14:00 (入浴・朝食) 15:00 (バス) 岐阜駅 19:30 (解散)

▲地図▼昭文社「白馬岳」

連載

岡山ルートII

柴田昭彦

●熊山は、507・8の2等三角点（中継所がある）からの見晴らしがよいが、熊山町教育委員会・社会教育課の羽原幸子氏によると『熊山町史 大字史』をはじめとした資料には、「旗方峯」という地名は現存しないとのことであった。旗振りの伝承についても、町史等に記述は見当たらないという。ただし、日生町の石橋澄氏は、熊山町のどこかに熊山が旗振り場であったという伝承が残っている集落があるとかつてきたことがあるが、今では探すのは困難だという。中島『岡山百名山』にも、天狗山から熊山に送信したとあり、岡氏や桑島氏の記述とも一致する。熊山が旗振り場であった可能性

は高く、次の送信地点は、操山の旗振台古墳であろう。

★『熊山町史 通史編 上巻』（平成6年）によると、熊山の山上、熊山権現（現、熊山神社）の境内付近には、『太平記』で知られる児島高德が、挙兵の際（南北朝）に腰を掛け、旗を立てたという伝承の残る岩（腰掛岩・旗立岩）や鞍掛板があるという。これらは旗振り通信とは無関係だが、旗振台古墳への見通しを考えると、通信が実際に行われたのは、熊山神社付近の可能性がある。

★筆者は、平成13年9月8日、『岡山県の山』と『岡山百名山』を参考に、熊山駅から山頂（熊山神社）と三角点（無線中

国指定史跡熊山遺跡（奈良時代）



継所）を訪れ、香登駅にくだった。熊山神社では展望がなく、旗振りができたかどうかは確認できなかった。熊山遺跡の南の展望広場からは、南方が広く開けていて、操山方面の見通しもきくが、天狗山は見通せない。一方、無線中継所からは、天狗山がよく見えた。

★『通信協会雑誌』大正3年2月号には、旗振り地点として「倉敷、津山、玉島、

尾之道」とある。津山へどうやって伝達したのか全く不明だが、熊山付近から吉井川沿い（妙見山・高ノ峰・高比野山）にルートが設けられた可能性がある。津山郷土博物館に問い合わせたが、津山で確認できる資料はないとのことであった。倉敷市玉島へは、仕手倉山または通照山から連絡したのであろうか。

●西大平山（327・2）は備前市と長船町の境界にある。守屋益男編『岡山山の山百選』（山陽新聞社、平成4年）の西大平山のガイドには「山頂には一・三メートル四方の石積みがあり、地元の古老によると、これは四角立と呼ばれる旗振台と



四角立（西大平山山頂の旗振台）

か。昔、米相場を大阪堂島方面から受け、振台の記事は矢吹氏の記述を受け継いだものである。

★中島篤巳『岡山百名山』の西大平山のガイド記事でも『岡山山の山百選』の旗振り記事を踏襲し、さらに「山頂の旗振り台」と題した石壇の写真も掲載している。

★筆者は平成13年9月23日に、西大平山の山頂を訪れてみた。『岡山百名山』のガイドに従

西大寺へ伝えるために設けられたもの」とある。この項目の執筆者である矢吹喜志雄氏（瀬戸町在住）が昭和57年頃に聞き取り調査をしたもので、「地元古老」とは長船町牛文の太田享次郎氏だ。また、雨乞いの話は長船町山田で古老に聞いた話だった（矢吹「二人三脚山登り」昭和55・59年、自費出版）とある。

★長船町東須恵には高畑山（206・0）がある。高旗山（旗振り山）である可能性も考えられるが裏付けはとれていない。

★守屋益男編『改訂・岡山山の山百選』（山陽新聞社、平成8年）では、西大平山のガイドは岡田隆善氏の執筆であるが、旗

い、JR赤穂線伊部駅から伊坂峠の北東200メートルの地点から谷道をたどり、尾根に達して右をとり、シダの茂る道を鞍部までくだって再び登ると四角立と呼ぶ旗振台に出る。手前で若干、展望はあるが、旗振台とすぐ先の三角点は樹林に囲まれて展望がない。ガイドには三角点の西の道は記録されていないが、西側にくだることもできる。逆に香登駅からたどる場合は、福田に向かい、鉄塔の並ぶ山塊が見えてきたら、左手の「しようざん堂」という案内のある所で、鉄塔を目指して『東洋ペーキング線2』の表示のある巡視路に入る。右手に鉄塔を見て、次の鉄塔の下側のコンクリート道から水平道をたどり、さらに次の鉄塔から右手に登り、後は、200番鉄塔を目指す。鉄塔に達した後は次の分岐で199番鉄塔への道を右に見て、左の道を201番鉄塔へ向かう。次の201番鉄塔だけを示す表示の所に目印があり、右へ草深い山道をたどる（入口は不明瞭）。山頂から西にくだると自然にここへ出るが、登りだすと道がわかりにくいかもしれない。伊坂峠の北東からの山道は日当たりのよい所は茂っており、巡視路をたどったほうが道はよ



旗振台古墳



旗振台古墳付近からの展望

いので、目印のある入口さえ間違えなければ、巡視路コースのほうが山頂には行きやすい。いずれにしても、人はあまり入らないので、進みながら、クモの果払いの枝を振る必要があるだろう。

★長船町教育委員会の池田浩氏からは、「長船町史料編近代」(2000年)に収録された「国府村誌」(石原孝次郎編、明治29年)の中にある次のような記述を

教示いただいた。「大平山は大字磯上の北部の高嶺にいてにしへ、大阪の堂島米相場を西国及四国九州へ交附の地なり、因て一名を遠鏡とも云ふ」とある。なぜ「遠眼鏡」でないのか不明だが、注目すべきことは、四国へも送信されたことである。文章からは、徳島ルートではなく、香川県方面への送信の可能性があるので、高松市歴史資料館に問い合わせしてみたが、

米相場の資料はあっても、旗振りの資料は見つからなかった。
★芥子山(232.8m)については桑島氏が一説として示しているが、岡山市教育委員会生涯学習部文化財課の神谷氏によると、「西大寺町史」「西大寺町史」等にも芥子山における旗振り通信の記録はなく、中継地点として確定できないことであった。
●旗振台古墳(市の史蹟)は、岡山市街の東、操山(169.0m)の南東方向、護国神社の東に位置する小高い丘にあり、高さ4m、一辺27mの方墳で、明治の末期ごろまで大阪の米相場を、旗振り信号で岡山へ伝えた中継所である(標高約120m)。「岡山県の山」(山と溪谷社、1996年)の「操山」(武田昌寅氏執筆)によると、旗振台古墳は5世紀築造と推定されているという。岡山徒歩の会編「最新版岡山を歩く」(山陽新聞社、1997年)や太田健一編「倉敷・岡山散歩25コース」(山川出版社、2002年)にも信号中継所として紹介されている。
★筆者は平成13年11月18日、岡電東山駅から操山、里山センター、旗振台古墳、八雲岩古墳、円山、三重の塔を経て、曹

源寺バス停までのコースを歩いた。操山公園里山センターには「操山ガイドマップ」があって、操山巡りに便利である(編りの曹源寺バス停は富山小学校の近くにあるので注意)。旗振台古墳の展望所からは南側の展望がよいが、古墳からの展望はあまりよくない。現地の案内板はなぜか旗振り通信についてはふれていない。
★「秋から冬の操山ガイド」(里山センター、平成12年)には旗振台古墳の解説があり、「岡山市の歴史みてあるき」(岡山市教育委員会、昭和52年)からの引用である。「岡山市の歴史みてあるき」には「この古墳は、明治の終わり頃まで、大阪の米相場を旗振り信号で中継する信号台として使用されていた」とある。「手づくりマップ操山エリア」(岡山市市長公室地域

振興課、平成7年)には、「方墳(5×6世紀)一辺約27m、高約4m、竪穴式石室。粘土石槨。甲冑、剣などが出土。古墳は江戸時代から明治まで浪速の穀物取引を伝える旗を振った台場として使われた」とあり、操山はかつて飯井山、三椏山、三椏山といわれていたそうである。
★中島篤巳「岡山県百名山」の操山のガイド記事には次のような記述がある。「操山は海を見る山で、目の前には児島や小豆島がある。旗振は大坂堂島の穀物相場の旗信号であり、旗振台は旗を振った台。操山の旗信号は小豆島で受けられ、米相場に素早く反応したという。」
そこで、小豆島の土庄町教育委員会に、旗振り伝承がないかどうか問い合わせしてみたが、確認できる資料がないとのこと

であった(平成13年3月)。小豆島の最高峰、星ヶ城山の山頂周辺には烽火台があるという(角川地名大辞典)(富田弘章、一等三角点を歩く153、地図ニュース343号、2001年4月)が、旗振りについては不明である。
★間壁忠彦・間壁霞子「日本の古代遺跡23岡山」(保育社、昭和60年)には、旗振台古墳は中期古墳で、「その通信先は、東南の方向に海をわたった小豆島であったとされる」とあり、中島氏の記述の出版典となつている。間壁忠彦氏に、その記述についてお尋ねしたところ、「私どもが考古学を始めたころに先輩郷土史家が旗振台地名のことを教えてくれたまゝ、のこを書きました。特に調べたことはありません」少し知人に聞きましたら、

鈴鹿の山を歩く

草川啓三著 四六判 二五〇〇円

昭文社の地図「鈴鹿山系」の著者が鈴鹿の全貌を語る。鈴鹿約55山のプロフィールとガイド。案内書にない珠玉の尾根歩きコース20紹介。山の時間を切るカラー&エッセイ32、など。

関西の(1)台高の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

谷姿美型にして水量豊富。吉野川、北山川、楠田川、宮川、鏡子川、往吉川の各水系の百を越える沢から32本を厳選して、各谷ごとに詳細通行図付きで紹介する。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316



西の目がね
(竹林寺山の西峰)



東の目がね (通照山の山頂)
(右下に三角点がある)

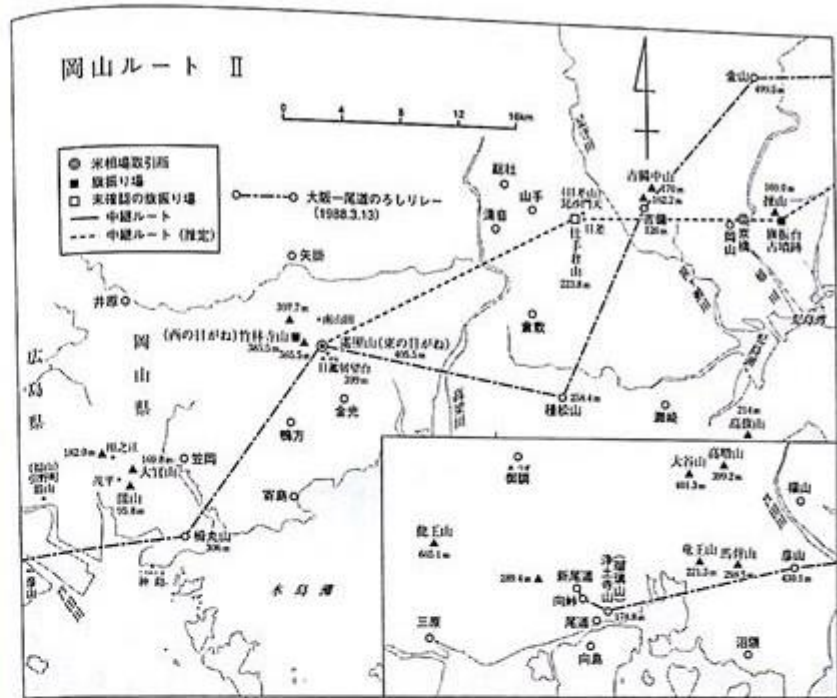
町・金光町境に位置する。一方、竹林寺山は、東峰と西峰からなる双耳峰である。通照山の西方、国立天文台・東大天体観測所(365.5地点の北)のあるのが東峰で、その西北西に西峰(384.5)がある(岡山県山「1」?頁)。「最新版岡山を歩く」157頁など。岡氏は通照山を、桑島氏は竹林寺山を旗振り場としていて異なる。どちらが正しいのだろうか。

★矢掛町立図書館の妹尾真理子氏を通じて、郷土史家の妹尾氏に調査してもらった(平成12年11月)。その結果、鴨方町と金光町には情報がなく、「矢掛町史」(昭和57年)にも旗振り伝承の記述は見つからなかったが、矢掛町南山田の元小学校長小川大石氏に電話したところ、もう故人となった近在の老人に聞いた話を披露されたという。

「昔、大阪の米相場を旗振りを繰んで金額を知り、西の方へ流しておったということじゃ。今でもその旗振りの場所を『目がね』というて、西と東の両方があった。『目がね』とは遠目鏡のことじゃ。東の矢部の日差山の旗を遠目鏡で読んで、城見の皿山の旗振りへ旗を動かして知ら

した場所のことで、今も東の目がね、西の目がねと呼んでいる。西の方が竹林寺山で、東の目がねが通照山頂の薬師堂の所で今は電々公社のマイクローエーブの所じゃ。その旗振りの役の人が鴨方の人か、或いは山田から行ったのかは今わからない。」妹尾氏は、初めは、竹林寺山で旗振りを行ったが、樹木の成長で見通しが悪くなり、後に通照山へ旗振り場の移転が行われたのであろうと推定している。これで、岡氏と桑島氏の記述が食い違う理由が判明したことになる。

★妹尾氏は「日差山から受けて城見の皿山へ送った」と小川大石氏から聞いたかのように記述しているが、当の小川氏にお尋ねしたところ、そういう話はした事がないということであった(平成13年2月28日付返信)。小川氏によると、「次の話はどこかでした事があります。『通照山の頂上に東めがね西めがねという場所があり、そこが大阪相場を福山・尾道方面に知らせる場所であった』この話は、私の若い頃、父と共に通照山に仕事に行った折に聞きました。近所のお年寄りの方(もう故人ですが、小川伸一さん)から確かに聞いております。日差山は山手村と



小豆島でなく、もっと近くの児島あたりでしようといわれました」という返信を頂戴した(平成13年3月)。郷土史家が「小豆島」と教えたのは何か根拠がありそうだが、裏付けはとれないままである。児島半島での調査も必要であろう。

★玉野市の高旗山(214)は旗振り場と関係があるように思えるが、岡山県総合文化センター郷土資料室に

よると「玉野市史」「玉野の地名と由来(河井康夫著)」等には山名の由来は見られず、全く不明という(平成13年8月)。さらに詳しい調査が必要であろう。

●岡山米取引所は岡山市内、旧船着町(角着町)三〇八番屋敷にあり、明治32年に米穀取引所が岡山駅前(下石井)に移転するまで旗振りが行われた。船着町は現在の岡山市京橋町で、取引所は旭川沿いの西岸にあったという(桑島一男「岡山」の電話番号「倉敷の電話番号」)。

【岡山・倉敷から笠岡へのルート】

★日差山は、倉敷市山地・矢部境の日差寺(里砂門天)の西の山(172)で、仕玉倉山の北東)をいう。岡長平氏は旗振り場としているが、倉敷市教育委員会に問い合わせたところ、情報がなく旗振りが行なわれたかどうかは不明とのことであった(平成12年10月)。仮にこの付近で旗振りが行われたとすれば、旗振台と通照山が見通せるポイントでなくてはならない。筆者は地形図から判断して、仕手倉山(223.8)が条件にあうのではと考えているが、裏付けは得られていない。

●通照山(405.5)は鴨方町・矢掛

倉敷市の境にありますが、その場所が連絡場所であったという事は全く知りませんし、笠岡市の皿山の事も全く知りません。何かの誤解だろうと思えます。(なお日差山から皿山への見通しは全くきかない筈です)とのことであった。日差山と皿山については、妹尾氏が、岡氏や桑島氏の記述に従ったものと考えられる。

★また、妹尾氏は矢掛町横谷の人から「目鏡」というのは、通照山頂から南へ五百メートルほど下った所の見晴らしの良い台地のこと、現在中国電力KKの無線電信設備の所ときいている。ここは瀬戸内海が一望できる眺望の良い所だ」という話を聞いたという。ただ、この地点は立地から考えて、旗振り場とは考えにくいと妹尾氏はいう。

★以上の調査結果をまとめてみよう。通照山(405・5)は東の目がねとい、NNT無線中継所と薬師堂のある所である。竹林寺山(西峰、385・5)は西の目がねとい、金比羅神社がある。この二か所が旗振り場であろう。

★通照山の南東の中国電力KK無線中継所のあるピーク(399)を今日、目鏡展望台といい、雄大な展望が開ける

(最厳厳山を歩く)。筆者の地形図上での計測では、こゝも旗振りに好都合な場所と思われる。

★筆者は、平成13年9月2日に、竹林寺山と通照山を訪れた。東と西の目がねは樹木の成長のため、見通しはあまりよくない。天文博物館の右手から観測所へ上がり、左側の草の生え込んだ山道をたどると金比羅神社があり、背後の岩場あたりが西の目がねであろうか。妹尾氏によると、見通しをよくするために、西の目がねでは足場を粗んだ可能性があるという。樹木の成長でいよいよ見通しがきかなくなった時に、東の目がねに移転したのだろうと妹尾氏は推定されている。通照山公園にある目鏡展望台での見晴らしはよく、仕倉山方向が見通せる。皿山方向も樹木が邪魔をしなければ見通せるようである。

★岡氏は、皿山(笠岡市城見)を旗振り場とする。笠岡市教育委員会の笠岡市史編さん室によると、城見村は明治22年までは茂平村、用之江村、大村であり、皿山があるのは、現在の笠岡市茂平である。笠岡市では95・8の低い山およびその地区を皿山と呼んでいる(二般に陶土

のある山を皿山と呼ぶことが多い。169・8の三角点の南方1・1にある山で、平坦部ではよく目立つ立地であり、端など小魚の群れを見るための基地としていたという。茂平出身の笠岡市立図書館の副館長が、地元での現地調査・古老への聞き取りを行なった結果、地図上でも実際に、他の山が邪魔となり、通照山との通信はできないし、旗振りの伝承も見つからず、笠岡市皿山は旗振り地点ではないとの結論に達したという返信(平成12年12月8日付)を、笠岡市史編さん室の次長、山本稔氏からいただいた。

★福山市引野町に皿山の地名があるので、笠岡市立図書館の副館長は、福山城博物館の職員井上さん、同博物館友の会会長兼福山市文化財保護委員長にも問い合わせたが、そういう伝承はないとのことであった。なお、友の会会長の話では、福山水野勝成公の時、神島八十八ヶ所の遍路さんが自分の村の幟や旗をもって参りに来るので、地元神島から苦情が出て幟や旗を振ることも禁止、持参することも禁止したという伝承があるという。

★筆者の地形図上での計測では、通照山と皿山の通信は可能と思われる、現地での

調査でも、皿山方向は進られていないようだった。通照山では、どこと通信したという伝承は残っていないので、確認が困難である。筆者の推測では、皿山そのものではなく、すぐ北の169・8の峰、北西の182・0の峰が旗振り地点であった可能性もあるとみている。いまだ知られざる旗振り山が近くに眠っているのかもしれない。広範囲での詳しい調査によって、その謎が解明されることを願っている。

【旗振り場の資料の補遺】

●『角川日本地名大辞典 別巻1 日本地名資料集成』(1990年)には、池田末則「大和国地名用字考」(812・822頁)の中で、十三峠、安康陵(伝説)、相馬振り山(三郷町南畑)が手旗信号の中継所であったことを記述している(61号参照)。

●『日本地名辞典』(創拓社、1992年)には、600頁(旗振山)、646頁(十三塚)のほか、413頁(中山道十三峠)にも、生駒山系の十三塚が手旗中継所であったこととふれた記述がある。

●『京阪神 Let's Go ハイキング』(日

本交通公社、昭和57年)の「鉢伏山から鉄切山へ」には須磨の旗振山(126頁)、「明石から舞子へ」では米相場を知らせた旗山(朝霧公園)の記載(129頁)がある。郷土史家の川口陽之氏の執筆である。

神戸市垂水区の羽根田幸義氏からの手紙(平成14年10月)によれば「自動車の板金工場を経営されていた川口さんは、亡くなられていますが、小柄な方で以前に2、3回一緒に山を歩いたことがありました」という。

川口氏は明石の旗山は朝霧公園にあつたと記述しているが、65号で紹介したように、山下俊郎氏(平成13年度より明石市立図書館)の平成3年の調査で朝霧駅の北方300メートル余りの小さな山で旗振りが行われたことが判明している。

平成14年8月26日、山下氏に電話で確認したところ、明石市大蔵八幡町のおばあちゃん(水道屋さん宅)は子供の頃、隣に住んでいた旗振りさんについていて、旗振りを目撃したという。周辺より一段高くなっていて、清灰色の粘土が見えていたという。山下氏はおばあちゃんに案内してもらってその場所を教えてください

たが、今では土取りのために原形をとどめていない。場所は南から登ると道が少し方向を変える所の右手で、道の東側である(65号で道の西側と書いたのは、明石市遺跡地図の東山遺跡のマークから判断した筆者の勘違いであったのでお詫びして訂正する)。その地点からは淡路島の展望が大きく開ける。土取りをしていたのは藤本さんで、須恵器が出土して、それが場所的に一致するので古墳跡であることは間違いないという。東山遺跡の一部である。「遺跡畑山」の標柱が立っている場所はずっと北であり、明らかに違っている(65号)。

なお、山下氏自身の聞き取り調査の結果は全く公表されておらず、今後まとめる予定はないという。ちなみに、山下氏は『新明石の史跡』(1997年)の執筆者のひとりである日本考古学会会員である。

●明石市教育委員会編「ふるさとの道をたずねて」(昭和47年)の125頁には、大蔵谷東部、朝霧駅北西へ三百メートルに位置する畑山(皿山)について次のようにある。

「朝霧川口を北へ、山電、国電の踏切を、落着かない気持ちで渡るとすぐ、東へ登る坂道が見えてきます。」

「坂を登りつめた台地が畑山で、山上にある畑と言うことで、この名がつけました。見通しが非常によいので、大阪の堂島の米相場のようすを知らせる旗を振る中継地として利用されたので、旗山とも呼ばれています。」

東の鉄樹山の信号を見て、西の金ヶ崎方面へ信号を送ったようです。」

●「三重県ふるさとの散歩道」(国土地理協会、昭和60年)の240頁には、高旗山について「江戸時代には、大板堂島の米相場を速報するための旗標が用いられる山として知られるようになり、高旗の名が起ったといわれる」とある。

なお、地形図には「御斎峠」とあり、60号でも使ったが、この本には「御斎峠」とある。地名の由来は「京都遊賀南部の山」(ナカニシヤ出版)にあるように、鎌倉時代、この峠で高僧を接待(とき)したことに由来のなら、本来は「斎(僧の食事)」が正しい。「斎」には食事の意味はないが、人名などでは「とき」と読むこともあるので、斎と斎は同意のように用いられている場合が多い。

地名の語源から考えると、「おとぎ」とは「小峠」からの転訛であり、「おと

き」の話は峠名に付会したものでらう。本来は「おとうげ」だから、「おとぎ」と読む方が望ましいのではないだろうか。

●後藤仁郎「浪花おもしろ史(一〇一話)」(大阪ミニガイドシリーズ「歴史の散歩道」第十九集、昭和63年)の「第五十五話 火縄相場」には江戸時代の堂島の米市で面白い習慣を紹介している。二寸位の長さの火縄が消えた時が火縄相場で、一番大事な相場値(米の価格)として町奉行所に報告されたという。

●中島利一郎「日本地名学研究」(日本地名学研究所、昭和34年)の「難訓地名の研究―武蔵奥多摩の人里の読み方に就て―」において、百済の地名は多く「所大里」などのように「大里」で終わっており、朝鮮古地名にはこのような「邑」を意味するものが多いことを述べた後、「筑前地方の地名に、加夫里を初め、旗振、背振などいふ地名のあるのは、この朝鮮語の影響であると思ふ」(135頁)とあるが、この「旗振」という地名の所在地は確認できていない。佐賀県唐津市にある展望の良い鏡山(284m)は、別名を領巾振山といい、6世紀、佐用姫が領巾を振って見送ったという伝説が残る

未開の大自然カムチャツカ半島

アバチャ山

昨秋、新ハイ関西一〇周年記念キナバル山登山の際、ツアーリーダーの〇氏より、「盛況を極めている海外登山のなかで、いまだほとんど手つかずの自然が残り、最近とみに人気が出てきているのが、今までは近くで遠かったカムチャツカ半島の登山である」と聞いた。私は、毎夏恒例の北海道登山をさらに北方にのぼし、A社の登山ツアーに参加した。

カムチャツカ半島はソ連崩壊前は軍事基地としてソ連人にすら開放されておらず、崩壊後は軍関係者の本土引き揚げによって人口は激減し、日本の本州より少し広い面積にわずか35万人。しかもその八割が州都ベトロバプロフスク・カムチャ

金谷 昭

ロシア連邦

ツキーに住んでいる状況で、いかに未開発かがうかがわれる。この半島に火山が160、そのうち活火山が29もある。ほとんどが未開のなかで、富士山に似た端正な山容のアバチャ山(2741m)が比較的開発され、中腹のアバチャ高原(高度800m)にキャンプ地が設けられている。高度差1940mを約12時間をかけての健脚向きではあるが、一日での往復登頂が可能である。

ベトロバプロフスク・カムチャツキーへは日本からの直行便がなく、新潟から臨時便でウラジオストクへ行き、さらに乗換便に頼らざるをえなかった。新潟空港に集まった今回の登山ツアー参加者は

(佐賀県の山)山と淡谷社、1994年)。
起源の古さから考えると、「旗振」も、「領巾振」も、相場通信とは無関係の地名といえよう。

●感応寺山(三國ヶ嶽)に旗振り場があったことは63号で紹介したが、その場所は不明であった。ホームページ「山喜多の山策記」では、北山悟氏が平成14年4月6日に旗振り場にふさわしい地点を探するための踏査を試みているので紹介することにしよう。

山頂の三角点(天上畑)では植林と雑木で展望がない。しかも、すぐ南の662mピークが邪魔になり、旗振り山のさししょう山を見通すことができない立地である。一方、山頂から東方に位置する天狗岩(標高約630m)では、その上からの眺望は絶景だという。次の送信場所である多紀アルプスはもちろん、さんしょう山もはっきり見えて、ここが旗振り場にふさわしい地点と考えられる。

山喜多さんのホームページを開くには、インターネットの検索で「旗振り山」と入力すればよい。(つづく)

(平成13年5月12日成稿・11月13日補訂)
(平成14年10月22日追補・12月21日追加)

13名。いずれも海外登山の豊富な経験の持ち主で、元気印の中高年たちばかりであった。

ほとんどが日本人客で満席のロシア製ツボレフ機は、高緯度のため白夜に近い22時(時差はサマータイム1時間を含めて4時間)に夕暮れせまるベトロバプロフスク・カムチャツキー空港に到着した。新潟とウラジオストクとの二度の入国審査、特に後者は厳しい審査であった。また機内の空調が送風のみで地上待機時は蒸し風呂のような暑さとなり、すっかり疲れ果て、やっとの思いで地上に降り立った。ここでは日本人全員がパスポートを取り上げられそのままホテルに向かったが、果してパスポートが無事に戻ってくるのかどうかいささか不安であった。

空港には日本語を話せる現地ガイドと日本製の中古バスが待っていた。バスポートは戻らぬままに、ようやく日没となった23時半頃、深い森に囲まれたパラトウシカ温泉に到着し、旅装を解いた。ホテルは以前より改善されたとのことで、各室には温泉の温水シャワーが備えられ、旅の汚れを落とすことができた。

翌日、バスポートが届けられるのを待

つ間にドルを現地ルーブルに両替する。レートは1ドルが31ルーブル(1ルーブルが4円)であるが、円からの両替はできない。また使い切れずに余ったルーブルは国外持ち出しが禁じられていた。必要額だけの両替であるが、現地の物価がわからないので、ルーブルが不足のときは現地ガイドに両替をお願いすることにした。

待っていたバスポートがようやく手元に戻ってきて全員ひと安心。アバチャ高



原キャンプ地に向かう。出迎えの車はタイヤの直径がゆうに1メートルを超す六輪駆動の装甲車で、乗降の際は折り畳み式の階段を使用せねばならない。

途中バザールに寄るが、終戦後の日本の闇市を思わせる。食料品は水産物を中心に品数は豊富である。日用雑貨や衣類は日本製に比べて品質は劣るようだ。酒類や魚の燻製を購入した人がいた。ここでのトイレは清潔とはいえず、そのうえ有料2ルーブルを払わざるをえなかった。

バザールを後にしばらく行くと舗装は切れ、シラカバの原野のなかの伏流した河川敷を行くようになり、車は左右上下に大きく揺れながら、ゆっくりと登っていく。前方目の前には上部にガスのかかったコニーテ型の火山コリアック山(3456m)がある。そのうち樹木が低くなり、火山礫と灌木の高原に入っていく。突然、道脇に架線のない電柱が出てきて上部に続いている。かなり走った頃、電柱列の終点に、かなり古くなったトラレラーハウスが15棟程立ち並ぶキャンプ地が出てきた。曇り空と呼応するかのよう

上部には10数棟のキャンプ地が見られるが、スキー用のキャンプ地で、付近の雪が消えたので閉鎖されているようだ。一昨年ブーチン大統領が夫人同伴でスキーを楽しんだ所といひ、またロシアのスキーのオリンピック選手の合宿地となっているとのことであった。

わけわれは4棟に分宿。各棟は二段ベッドで8人収容可能。テーブルと椅子があり、室内はかなりゆったりしていた。トイレは宿泊棟から100メートルほど下にあり、男女別棟の掘立小屋であった。

到着後、キャンプ地の村長と登山ガイド4名の紹介があったが、いずれも鼻筋の通った美男子ぞろい。料理は村長夫人が腕を奮い、また彼女は医療の経験があるらしく登山者の健康管理にもあたっているとのことである。

ガイドから「今年は雪解けが例年に比べて早く、登山道の雪は少ないようだが、安全のため一応八本爪以上のアイゼンを持参すること」と言われ、今夜のうちに登山靴へ装着して調整するよう指示があった。最近かなりの降雪があり、アイゼン持参は正解であった。

明ければ登頂の日である。そんなによ

い天気ではないが発発することになった。出発は7時40分、北極に近いだけに白夜とまではいかないものの夜は23時まで明るくてヘッドランプは不要。ミネラルウォーターはガイドが持参してくれた。各自に配られた弁当は厚いハムやチーズを挟んだサンドウィッチ・ビスケット・チョコレートと、丸ごとのリンゴとオレンジ各1個で、それも大きくて重かった。女性の方からサンドウィッチを1バックをいただいた。これは長時間登山



アバチャ山 (アバチャ高原キャンプ場より)

クロ等の説明があった。今年はずっと雪解けが早く、終わっている花が多かった。ゆるやかな高原からガスのなかにのびている赤茶けた尾根に取りつく。傾斜がだんだん急になっていくとともに高山植物は小ピークらし

の下山時の空腹解消に役立つ。

キャンプ地を出てゆるやかな高原の車道をたどり、しばらくして右側のハンノ木のなかを歩道に入ると、大きな沢に降り立ち、飛石伝いに対岸に渡る。例年ならここは雪渓となっているらしい。対岸の台地が上がって行くと、ケルンが三ヶ所出てきた。ロシア語の銘板が付けられた遺跡であった。このあたりは高山植物が多く、花に詳しい女性から、ウ

き所に登り着くとすぐ上に次のピークが出現し、何度か騙されていくうちに道は左に振り、ややゆるやかに登ってきた。そろそろ雪が出てきたがアイゼンを着けるほどではない。さらにゆるやかとなった登山道を行くと、大きな岩とアンテナが出てきた。ここは下から見える猿岩というジャンダルムで、岩に高度2011メートルとペンキで描かれていた。猿岩の一部が岩室となっていて、内部には火山の計測器が置かれ、使用できない。

テントを設営して登頂したロシア人グループがいて、われわれを歓迎し、温かい紅茶を飲ませてくれた。今回のツアーを通して感じたことだが、ロシアの政治家や官僚に比べて、一般国民は人懐っこく、親切で温かかった。

ここで昼食をとり、トレッキング組3名と別れ、いよいよ山頂へ高度差700メートルの急登に出発する。すぐカール状地形が出てきて、その上端のトラバースに入ると、登山前の説明と異なり、道は雪に隠され、アイゼンなしでは滑落の危険がありとても無理。登山リーダーよりアイゼン装着の指示が出たが、N氏は昨夜の指示にもかかわらずアイゼンは未調整。



岩室より振り返るアバチャ山
 午後から高原のお花畑へトレッキングしたが、雪解けが早く花は終わっているものが多い。トレッキング後は原野のなかを流れるピーストラ川の川下りとフィッシングを楽しみ、

登頂翌日は午前中は休養にあて、午後から高原のお花畑へトレッキングしたが、雪解けが早く花は終わっているものが多い。トレッキング後は原野のなかを流れるピーストラ川の川下りとフィッシングを楽しみ、

痛くなるほどに高く急峻で、われながらよくぞ登ったものである。
 下山は登りと異なりスキーマのキャンプ地へ降りることになった。少し下がるとガスのなかに入り、展望はなくなる。砂礫の道は富士山の御殿場口と同じ砂走り、飛ぶようにどんどんくたつていった。かなり降りてくるとガスが晴れ、ラクダ山とスキーマキャンプ地が望めると尾根はやせてきて、その末端より雪渓を横断して高原に降り立った。その雪渓は一般にはスプーンカット面であるのに対し、雪面に土の円錐が立ち並んでいる奇妙な光

景を呈していた。19時40分、まだ日も高いキャンプ地に帰着。高度差1940mを12時間をかけて往復したのだが、一同よくぞ頑張ったものである。
 登頂祝賀パーティとなった夕食は、ポルンチを始めとするロシア料理に各種の飲み物に果物と盛りだくさんであった。参加の1氏はそのすばらしい歌唱力のロシア民謡で一座を大いに盛り上げ、忘れ難い思い出の一夜となった。なお登頂者には村長よりカムチャツカの大地の守護神「鳥のクフト」からの、日本語で書かれた認定書が授与された。

帰途は近くのマルキ温泉のアウトドア入浴をロシア人と共に楽しんだ。
 帰国前日は世界遺産に登録されているナリチエボ渓谷へのヘリコプターの旅が予定されていたが、天候不順で中止。かわって市内観光となったが、街の風景は夏とはいえ寒々しく、過疎の極寒地であることがひしひしと感じられた。
 帰りの飛行機も行きと同じく出国審査の厳しさは変わりなく、特に乗客1人の持ち込み重量は機内持ち込みの手荷物を含めて20kgグラムである。各自土産で重量が増えているので、全員が重い登山靴を履き、厚着をして審査に臨み、重量制限を無事クリアした。
 カムチャッカ半島の産業は漁業のほかになく、今後も観光に頼らざるをえず、やがて観光開発されていくであろうが、最高峰クリチエフスカヤ(4688m)を始めとして未開発の山が多く、これからは登山愛好者のすばらしいフィールドとなる可能性を秘めている。
 (平成14年7月29日〜8月5日歩)

★参考 本誌37号に生駒登峰氏の「アバチャ山」がある。

彼はアイゼンを装着せずに行くことになった。
 装着後、登山リグターは「ここから見上げる頂上付近の速く流れる雲が活火山の噴出硫黄ガスであれば危険なので、もう少し登って登頂の可否を判断する」と言う。
 カール状地形を過ぎ、頂上への急斜面に取りつくと、ジグザグのルートは完全に冠雪してウインドクラストとなり、滑落の危険性が増してきたので、ついにツアーリグターはN氏のアイゼン装着を強制した。幸いなことにS氏が六角レンチを持っていたので、少し時間がかかったが靴に調整装着できてひと安心であった。この件について他の参加者から非難の声があがったのは当然であるが、本人は雪山の経験がなく、危険性がわかっていなかったようであった。
 頂上近くになって風が収まってきたので登頂することになった。案内書に出ていた頂上直下の濃茶の砂礫の蟻地獄の斜面は数日前の積雪に隠され、また頂上より垂れ下がっているはずのロープも雪に隠されて見えなかった。しかし、アイゼンが気持ちよくきいて、スリップの危険

は感じなかった。固定ロープの一部が雪の間から出てくる頃、登山リグターが上部を指しての「トップ(頂上)」の声に励まされて頑張ると、硫黄のききな臭い匂いとともにも頂上の露岩に飛び出した。時計を見ると15時40分を指し、登頂には約8時間を要したことになる。
 頂上は露岩の上に雪が溜り、岩にロシア語の山名板がはめ込まれていた。ガスで展望はきかなかつたが、時どき頂上火口壁のマグマがガスのなから現れてくる。一同無事登頂を喜び、記念写真を撮り、至福のひとときを過ごした。
 休憩後、ガスのなかをお鉢の硫黄噴出口近くまで往復、下山にかかる。ウインドクラストした急傾斜の雪面にくい込むアイゼンの感触を味わいつつ慎重にくだっていく。岩室近くになってガスが晴れてくると、ジャングルムの猿岩と、登りには見えなかった北斜面の氷河とそのクレバスが出現した。傾斜もゆるやかになって雪の感触と付近の景観を楽しむことができた。
 岩室でアイゼンと防寒服を脱ぎ、振り返るとアバチャ山はそのコニーデ型の頂上を現すようになった。見上げると首が

私達におまかせ下さい。待っています!

●詳しくはホームページを見て下さいね。
<http://www.yoshimisports.co.jp/>

登山用品専門店
とスキーのヨシミ
 〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
 TEL 06 (6772) 7231

JR天王寺駅北出口
 より東へ徒歩5分

連載

湖西の深山、三重嶽へ

さんじょうがたけ

湖西

磯部 純

前から登りたいと思っていた三重嶽へやっと登ることができた。以前、村田リーダーの例会「近畿百名山に登る」で、この山へ登る企画があったときに参加できなくて残念でならなかったのだが、今にして思えばそのほうがよかったのかもしれない。同じルートを単にピストンすることなく、別のルートをくぐることができ、また、ピラデスト今津からの長い林道を歩かずにすんだのだから……。

三重嶽は滋賀西北部の奥深い所に位置し、登る人も少なく、昔はやぶ山として知られていた山である。それが、いざ登ってみるとやぶも少なく、古い柚道や踏み跡が残っていて、やぶ漕ぎを覚悟してい

ただけに拍子抜けの感がしないでもなかった。もっとも、私たちが登った後で、美浜山遊会、今津町産業振興課や今津山学会の人たちの手によって、湖北武奈ヶ嶽から三重嶽を経て近江坂へ至る縦走路が切り開かれ、また、今回登った石田川・河内谷出合からの尾根ルートも整えられたと聞くにつけ、より簡単に登れる山となってしまったようだ。

京都組4人は京都駅で待ち合わせ、JR堅田駅へ7時28分に到着。駅ではすでに守山の彼と鈴鹿のお嬢が車で待っていた。これでこの日のメンバーは新ハイ岩野組の5人と、馬場に住む私の山友の計6名。豪雨の被害が多かった梅雨の合い

あり、東屋が建っていた。この林道分岐広場へ駐車する。
足まわりを整えて9時出発。分岐から林道を西へ向かい、石田川沿いを二つ目の尾根まで歩く。あたりの山は緑におおわれ、所どころヤマボウシの白い花が目飛び込んでくる。尾根の先端を廻り込むと、林道右脇の小枝に赤い布がつけられている。そこが三重嶽から南へのびる長い尾根への取付点である。踏み跡が薄暗い檜林の急斜面にしっかりと刻まれている。

9時5分、尾根へ取りつく。登り出し

て間もないのに息が弾んでならない。起きる時間が気になって、夜中に何回も目を覚ましたからかもしれない。前を歩くとお嬢は元気づけるほど元気で、私のハアハア吐く息の音を聞いて、「死んでしまふんではないか」なんて冷やかすからたまらない。先は長いというのに最悪の出だした。登る道脇のいたる所にコアジサイが花に露をつけている。尾根にのるとササユリも匂いを振りまいていた。気がつくとも尾根は右の上の方にのびている。たどってきた柚道は、いつの間にか山腹を捲いて西へ向かっていたのだ。



このまま道をたどっていたのではどこへ行くのかわからない。戻るのも面倒と右手の急斜面を直登すると、登り切った所が標高592m北の平かな尾根だった。そこでひと息入れ、踏み跡を北へたどる。

あたりはいつの間にか杉林へと変わっていた。林は下刈りされた広くてなだらかな斜面で、どこでも歩ける。その斜面を左上に突っ切って尾根にのると、尾根には古い道が刻まれていた。左は雑木の林で右は下刈りされた杉林のゆるい境界尾根である。突然、前から「ウサギ！」の声。われわれ侵入者の足音に驚いて逃げ出したにちがいない。ただ、最後尾を歩いていた私は声を聞いただけで、ウサギの姿を見ることはできなかった。

やがて、道は確たるものとなって、西側の林のなかに入っていく。そこにはすばらしいブナの林が広がっていた。直径20〜30cmの太さのブナの木をあらゆる方向に見る。いぜんとして尾根の東側には杉林が続いているようだったが、全くそれを感じさせない自然林の美しさだ。その美しい林に見とれているとわれを忘れてしまいそう。

尾根を登るにしたがって、ブナの木も太いのが多くなってきた。静かなブナ林のなかを歩くと感激すら覚える。その林の間にエゴヤヤマボウシの花が満開。ふと見るとガスが下がってきたのか、ブナの林が霧におおわれ始める。ポッと霞ん

三重嶽山頂の山名標示板



間をぬってのマイカー山行であった。家を出るとき降っていた雨もあがり、北へ走るにしたがって雲は高くなってくる。酒波の奥のピラデスト今津を通り過ぎ、処女湖のほとりのくねくねとした細い道を西へ走る。道の両側に山が迫ってきて、深山に入り込んだことを実感させてくれる。やがて、谷を抜けると石田川と河内谷との出合。そこには広い平地が

だなかに太いブナの木の影、まさに幽玄の趣がある。しかし、その感傷に没る間もなく、霧はすぐ消えてしまう。一瞬の夢とも思える光景だった。その静かな林に響きわたる「ツーツク、ツーツク」と鳥の声。しかし、その鳥の名を知っている人はだれもいない。

道の上におおいかぶさるやぶを払いながら登っていくと、後ろから「ハナミズキ」の声。こんな人里離れた山の上にハナミズキなどあるはずがない。よく見ると、何と花全体がピンクに染まったヤマボウシではないか。ヤマボウシの花は白いのが普通だが、ピンクの花はめったに見られない。全員が集まり、花をモデルに撮影会が始まる。

それまで歩いてきた立派な道が左の斜面へ向かってしまうと、道と別れて尾根にのる。尾根はやぶが多くなってきたが、かすかな踏み跡が残っていた。雪が多いためか、尾根上の細い木々は斜めに生えている。それをくぐったり跨いだりかわして行く登りだ。尾根の傾斜がゆるくてガラガラに登りだといっても、このように足を持ち上げて歩けば疲れてくるのは当然。歩く速度は遅くなるし、木を跨ぐ

のに足が上からずにもたもた。それを見て後ろのお嬢が「磯部さんの後ろを歩くと楽だ、楽だ」と言ってはやし立てる。自分ではいつもの調子で歩いているつもりだが、彼女にとっては歩くのが遅すぎると感じる。ほんとうにこのときほど、年齢を感じたことはなかった。

細い尾根を登り、傾斜がゆるくなると急にササが多くなる。そのササをかき分けて右方向へ進み、しっかりと踏み跡に出た所から左へ登ると、三重嶽山頂だった。12時35分の到着。

標高974・1m、2等三角点のある山である。山名は三つのピークがあることから三重嶽と名付けられたといわれているが、点名が「山上ヶ岳」であることからすると、その読みを「ミエガタケ」ではなく、「サンジョウガタケ」と読むのもうなづける。

三角点は山頂広場の真ん中に立っている。人が来ることが少ないからなのか、真新しい標石のままで残っている。三角点は南を向いていて、標石の頭の四角は標準より5m程大きい。広場の東、北は林に囲まれ、西方の林の間に小高いピークが見えている。唯一、南側だけ林が途

切れていて、下界を見下ろすことができた。左に細長く琵琶湖が光り、竹生島・津田山が黒く見えている。正面遠くには比良の山々があったが、雲が山をおおい、わずかに武奈ヶ岳だけが雲の上に頭を出していた。風はなかったが、汗に濡れた肌に寒さがしみる。

ここで待望の昼食。各人、持ち寄りの総菜を出して、岩野さんをサカナに喉を潤す。ワイワイ、ガヤガヤ、話に花を咲かせ、笑い込んでいるうちに、アツという間に下山の予定時間になった。

下山路は東の河内谷林道へくだる最短尾根ではなく、三角点から東へ250m程くだった地点から東南へのびる尾根をくだることにする。もちろん、このルートをくだるのはだれもが初めてだ。登ってきた尾根と違って、山頂から東へのびるゆるい尾根をくだる。くだり始めてすぐお嬢が騒ぎだす。先ほどまでヤッケのポケットに入れていた車のキイがないとか。ザックの中身を放り出し、やっと底の方からキイを見つけ、一件落着となる。体は元気いっぱいでも、頭のほうはそろそろなのだろうか。ほんとうに人騒がせな人だ。

2時間程の灌木の林の尾根に踏み跡がついている。びっしりと葉が茂り、あたりの地形は見渡せない。頼りになるのは地形図と磁石だが、地形図を見ても尾根分岐を特定するのは難しい。そこで、踏み跡が左に向く所を見定めて右へ向かうと目的の尾根にのることができた。この尾根にもかすかな踏み跡があり、ピンクのテープが吊り下げられている。



下り尾根のブナの大木

支尾根へのるとすぐ目の前に太い立派なブナの木が三本現れる。幹の径が70cmはくだらない。あまりの立派さに、ただただ関心するばかりだった。この尾根をくだっていくと、いたる所に太いブナが残っている。鈴鹿にもブナの木は多いが、それとは趣が異なる雄大なブナ林だといっても過言ではない。

かすかな踏み跡をたどり、尾根をはずさないようにくだる。太いブナの木が見られなくなると、太い杉の木が目につきだす。植林された杉の木とは思えないように不規則に立っている。急斜面を小枝につかまりながらくだると、今度は細尾根。尾根の両側は断崖のような急斜面だ。やむをえず先へ進むと、急に列は停止。見ると、行く手の胸程の高さの木の枝にマムシがかま首を持ち上げ、じっとこちらを睨んでいるではないか。「触らぬ神に祟りなし」とばかりに、右と左の二手に分かれて迂回する。やぶをかき分け、細尾根の先の小ピークから方向を東へ変えて尾根の先端まで行くが、シャクナゲの密生地の先は断崖のような急斜面で、くだることができない。少し戻り、南の急斜面を滑らぬようにくだって河内谷林

道へと降り立った。山頂から1時間30分の尾根下りだった。

最後の細尾根ではやぶをかき分ける連続で、おまけに急斜面の下りで苦勞させられたが、情緒あるブナ林のある尾根は思い出に残る尾根だといってよかった。ここから、車を置いてある林道分岐まで長い林道歩きの始まりだ。道の両側にはウツギ・ガクアジサイ・ギボシの花が絶えることなく続いている。モリアオガエルの泡も何かの実のように枝からぶら下がっていた。

40分の林道歩きのすえ、分岐広場の車へ戻る。ちょうど、14時45分。分岐の東屋で着替えをすまし、さっぱりしたところで、ザックの残り物を出して反省会とする。

16時20分、反省会を終え帰途につく。いつしか空には陽が顔を出していた。

(平成13年6月21日歩く)

△コースタイム△

河内谷林道分岐広場(5分) 尾根取付(2時間30分) 三重嶽(1時間30分) 河内谷林道(40分) 河内谷林道分岐広場
△地形図▽2万5千〃熊川

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第37回・最終回)

ついに1等三角点548座を完登

坂井久光

ついに548座完登のピッシリ岳にて



平成8年7月28日、一行は健脚の青年を先頭に急斜面の山腹をジグザグに草地を登って行った。出発は七時半で登頂は10時。江良岳(714m)の山頂は小広く、寛保岳は活火山との表示があり、噴煙を上げていた。展望はよいが、北海道本島は霞んでいた。一同持参の珍味美味を分かち合い、ゆっくりと昼食をとってから下山。11時に出発し、往路を12時10分に下山した。建設会社の好意で、船が来るまでの間冷房のきいた部屋でおいしい冷茶を御馳走になり、一同感謝感激。13時、船が着岸したのでお礼を言って島の人と別れを惜んで乗船した。船中では、ダイバーが採ったウニやホヤ等の即席料

理に舌鼓をうち、15時20分江良港へ。伊川荘で荷物を車に積み込み、富田氏一行と別れて一路北上。江差の湯の華温泉で入浴後、乙部町の海岸で車泊。

29日、札幌の北大に宮島氏を訪問。今回の完登を目指す予定の立牛山(8月5日)からピッシリ岳(8月7日)山行の打ち合わせをした。その前に国土地理院を訪れ、前島技官と対談。「点の記」を見せていただいたり、今回の山行の概略を話して辞した。その夜は山崎さんの友人で「札幌山岳会」のナイスガイ、星さんのマンションで一泊。久しぶりの再会で大いに盛り上がり、豪華な夕食後就寝。

30日、再会を期し星さんと別れて一路

り、夕食後駐車場で車泊。

31日、京都から参加の久馬・奥田の2人を旭川空港で出迎え、富良野スキー場へ行き、キャンプの一夜を過ごす。4人で豪華料理をつくり、美酒に酔い就寝。

8月1日、狩勝峠を越えて阿寒湖へ。博物館を見学後、湖畔の雄阿寒岳登山口へ。私は以前登ったので、たまった洗濯物を洗うため留守番した。一行が下山後、屈斜路湖畔の和琴温泉に行き、入浴してから近くの空地で野営。

2日、サマッカリヌプリ山へ向ったが、津別峠が工事中で通行止のため、美幌峠経由の遠廻りを余儀なくされた。津別町からスキー場、津別温泉保養センターへ行き、林道の状況を訊いた。「点の記」にある山頂近くまでの未舗装林道を谷奥へつめた。分岐を右折して尾根筋沿いに走り、倒木を排除しながら行くが大木の倒れた所で駐車。その先200mで林道終点らしき広場がある。林道はさらにのびていたが、頂上と離れるようなので、ここからチシマザサの斜面を左に登って行くこと切り開きに出合った。それをたどって登ると一峰を越え、ハイマツ帯を巻きながら行き山頂(898m)に登頂。一

同万歳三唱。曇り空で展望はなかったが、快晴ならば眼下に屈斜路湖や阿寒火山群が一望できたであろう。少憩後下山。切り開きをたどると旧終点の下から見えて左端に出た。最初に探したが、反対側にあったため見落とした。その後、斜里町から宇登呂を経て岩尾別温泉に行き、露天風呂に入った。その夜はカムイワッカの滝のゲート前の駐車場で野営。

3日、滝への道を沢登りして、滝の手前からやぶ漕ぎして尾根道に出て硫黄岳へ。久馬・奥田の2人は山頂直下の分岐で休憩。山崎さんは初めてなので2人で登頂。折から岩尾別を5時に出発した北大出身の川殿氏(釧路市)がいて、これから岩尾別へ戻ると言う。あまりにも無理な計画で、山崎さんは車で岩尾別へ送ってあげてからと言って3人で下山直下から5人となり、往路をたどってエゾゴザラの咲く雪渓をくだった。直接滝へは降りずに、ゲートの先500mの登山口へ下山した。ゲートを経て岩尾別へ行き、川殿さんと別れた。露天風呂に入り、久馬・奥田は「地の涯ホテル」で一泊。私らは車泊。

4日、斜里町の北の美術館を見学し、

次いで博物館を見た。その後、網走の流水博物館を見学し、紋別市の森林研修センターで泊まった。曇みの上は久しぶりでゆっくり休めた。

5日、昨日の雨はすっかり晴れ、鴻ノ舞住友鉱山跡を見て白樺峠へ。向こう側から宮島さんが車で登って来て、一行5人で立牛山(630m)へ。タツは樺ウシは群落の意。山形氏の通った林道はやぶと化し、峠のすぐ西の林道を進んだが、左下に曲折した所で山道に入った。しかし、先が徐々に悪くなってきたので左の谷側へくだった。林道と出合い、後は難なく鞍部へ。ここからは新しい植林の切り開きがあり、左の方の切り開きをとって尾根に取りついた。踏み跡程度の歩きやすいシラカバの疎林で山頂三角点へ。5人で万歳三唱、すぐ上に登るとオホーツク海や紋別市街が見えたが、他方は林で展望なし。少憩後、テープを伝って「点の記」ルートを下山。テープに当会会員の秋村さんの文字があった。夜は西興部村の保養センターで入浴後、付近で野営。

6日、滝上町役場で鷹岳の状況を訊くも、西興部村の方だと言う。そちらへ電

新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/B6判368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を収めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/B6判360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9版発売中/A5判320頁/定価1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判320頁/定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷B6判354頁/定価1680円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編
B6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判313頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判288頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 第22巻 **阿武隈の山を歩く** 新ハイキング・ペンクラブ 著
A5判204頁/定価1680円 阿武隈の山115座の紀行とガイド
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話/Fax 03-3915-8110
振替00130-9-146915

●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

話するとあの辺は道庁営林局の所管で登路はないとのこと。「点の記」の記録を頼りに荒れた道(元林道)をウツツ岳(818m)へ。きのう偵察したが、地形図に道が明確に記されていないので、現在地が確定できない。小雨のなかをさらに奥に進んで新しい林道分岐を発見した。ここで現在地を3人で推定し、行ってみると分岐の広場にテープがあった。ここが切り開きの道だと断定し、一同装備を整えて出発。急なブル道を行き、フキやイタドリを折りながら登ると尾根筋の急登となり、稜線に出てゆるい上り下りを行く。茂った箇所もあったが、切り開きを忠実にたどり、きのう偵察時に見た一本のエゾマツが立つ山頂へ着いた。5人で万歳三喝。ガスのため展望はよくなかったが、快晴なら展望広大な山で、ウエンシリ岳(悪い山)や立牛山を見られたであろう。少憩後往路下山。先月約束した、週刊朝日の穴吹氏(編集企画部長)の代理喜多記者との待ち合わせの羽根町へ、朱鞠内湖畔を経て行った。ここですの完全登祝いの食料を買いそろえて、築別岩坑の跡に建つ森林センターへ行って泊まった。温泉もあり、セルフサービスだが宿

料は2食付4000円で、食事もなかなかよかった。あすは1等三角点500以上548座完全登のマイ・ライフワークの山が全て完了する。その夢をかなえる日がいよいよくるのだと思うと、興奮してなかなか寝つかなかった。明けて8月7日、センターを7時頃に出発。先ず営林署に行き、林道ゲートの鍵を借り、喜多記者を町役場で約束の8時から8時30分まで待たされた。なぜか理由がわからず、不可解な気持ちで捨てきれなかった。穴吹氏とのなれそめは、今西博士の十二支会取材のときである。私が「一等三角点研究会」を創立しているのを知り、取材に京都から来た。その折に穴吹氏を越畑から直登して地蔵山を案内し、それが週刊朝日に掲載された。それを読んで日本経済新聞の「マイライフワーク」を連載していた白崎記者が拙宅を訪れ、私は友人といっしょに比叡山の1等三角点へ案内した。その記事が毎週土曜日に連載されていた新聞に載り、それを見た深川市の田中三郎が、私に來道を乞い、音江山を案内してくれた。以後、北海道の

登山情報を知らせてくれ、何日かは泊ってもらった。彼は東京のエイジレス賞を授賞し、昨年亡くなったが、1等三角点百名山を完全登した。さて、上羽根まで舗道だったが、その先は地道となり、大きな水溜りもあって悪かったが、奥まで一般車でも走れた。林道終点には、ピッシリ岳登山口の看板が立つ駐車場があった。9時30分に出発し、よい切り開きのある登山道(5.5km)を3時間半で登頂した。天候は快晴、小広い山頂にはピッシリ岳の標柱が立ち、1032mの標石が埋まっていた。周囲はハイマツとネマガリダケとダケカンバの疎林で、展望は360度。一同から「完全おめでとう」と握手され、感謝感激で胸のつまる思いであった。これまで私をよくサポートしてくれた山崎さん始め、一同に厚く礼を述べ、メロンやワイン、珍味とうまい酒が次々に出た。米なかった記者の分が余って持ち帰ったが、一同十分に食べ、ゆっくり休んで、往路を下山した。(完)

(文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。)
*次巻に548座の全てを登頂日順に掲載の予定。
(編集室)

和歌山城を訪ねて

松永恵一

和歌山城

「うわあ、燃えてるわ」
「近いなあ、六十谷へも来るやろか」
「分かんないでえ」

火の海になっていく和歌山市は、六十谷から見れば焔が煮えただけに見えるようだった。全体が赤い中で、和歌山城が黒い陰影になったり焔光を浴びて赤くなったり、高くで揺らめいて見えていたが、すぐに燃え始めた。

「ああ、お城が……」

文緒がいったとき、花も見ていた。天守閣が火を吹き上げている。怒りをこめて空を灼き、燃えさかり、燃え狂い、やがて一瞬にして崩れ落ちた。

(有吉佐和子著「紀ノ川」)

和歌山城の石垣

石垣を観察すると、石材、積み方が築かれた時代によって変化し、三代にわたって整備されたことが実感できる。一の橋から入った一中門跡付近の石垣は、花崗岩を整形した石材を隙間なく積み上げた「切込みハギ」と呼ばれる手法で、その美しさに圧倒される。江戸幕府八代将軍となった吉宗の時に改築されたという。伏虎像を過ぎると、右手に城山を補強した地場産の通称「青石」と呼ばれる緑泥片岩の自然石をそのまま積む「野面積み」の石垣が続く。大きさも不ぞろいで、表面はでこぼこ。勾配もゆるく一見粗野に見えるが、排水性に優れ意外に頑丈な積み方。頂上の天守台周辺と同様、豊臣期に築かれた。

表板の石段を上ると、左手に見事な石垣が続く。石の表面は粗削りで、黒っぽい和泉砂岩を使って築かれている。「打込みハギ」という手法で、浅野期および徳川期に築かれた。注意深く見ていくと、「刻印」を発見することもできる。

頂上の天守台周辺には、青石に加え、五輪塔や宝篋印塔の台座等、雑多な石材が積み上げられている。

先の大戦が終わりを告げようとする昭和二年(1945)7月9日夜、和歌山市は米軍機大編隊の空襲をうけ、市街地の市内の68%、2万7千戸が焼失。大魔鳥のようなB29が旋回しながら執拗に投下する油脂焼夷弾の雨を浴びて、幕末の嘉永三年(1850)に「有形の通」に再建された天守閣は焼け落ちた。

和歌山城は天正一三年(1585)、鉄砲で最後まで抵抗した根来・雑賀衆を屈服させ紀州を平定した豊臣秀吉が、紀ノ川の河口に近く、四方の眺望もすばらしい標高48・9呎の虎伏山に自ら縄張りをも命じ、弟の秀長に築城を始めた。普請奉行には城造り名人の藤堂高虎等が任命され、秀長の城代として桑山重晴が

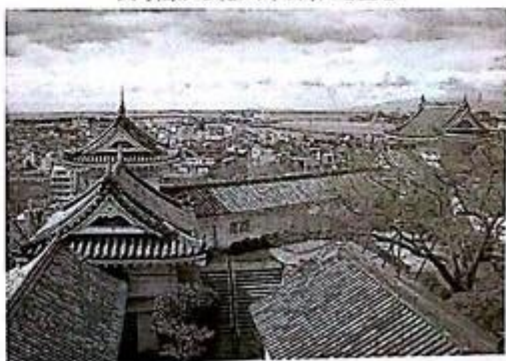
和歌山県立近代美術館・県立博物館

和歌山城の南側に1994年、県の文化創造の核となる施設として開館。手前に美術館、県立博物館はその隣にある。斬新なデザインの建物は、建築家黒川紀章の設計。周辺の景観に美しく溶け込んでいる。

日本画の巨匠川端龍子(かわばたりゅうし)は和歌山市の呉服屋に生まれ、洋画の裕伊之助(ゆいすけ)は海草郡下津町の出身。近代美術館の収蔵品は、郷土を代表する美術家の作品を収集した郷土作家コレクション、近・現代版画コレクション、戦後の関西に興った前衛美術の戦後美術コレクション、玉井一郎氏より寄贈を受けたコレクション等、多岐にわたる。

月一回のミュージアム・トークの開催や年四回のニュースの発行、講演会や音楽会などを適宜開催している。二階のレストラン「三年坂ベレンネ」からは、ライトアップされた和歌山城が一望できる。県立博物館の常設展示室では3万年にわたる、きのくにー和歌山県の人々の生活と文化について展示している。二階には古くから信仰を集めた高野山や熊野大社に関する写真が展示されている。

天守閣から紀ノ川の河口を望む



在城した。慶長五年(1600)、関ヶ原の合戦で戦功をあげた浅野幸長が37万6千石をもって入城した。元和五年(1619)、徳川家康の第十子頼宣(南祖公)が、55万5千石で南海の鎮めとして入城、徳川御三家の居城として、250年に渡り紀州徳川家治政の基を開いた。弘化三年(1846)、天守閣に落雷焼失。当時幕府は天守閣の再建は許可していなかったが、特に再建を許された。

和歌山ラーメン

「TVチャンピオン」で2年連続して「日本一うまいラーメン」として取り上げられた和歌山ラーメン。テレビで紹介された「井出商店」は、周りの風景から浮いた古い木造の建物。大きな黄色いシート看板が目立つ。多いときには数時間待ちになるほどの人気ぶり。

店内は狭い。真ん中のテーブルに8人、両脇のカウンターに5人。客がどんどん回転していく。中華そばは、濃い醤油色のスープに柔らかな細麺、チャーシュー・メンマ・ウメカマボコ・青ネギ。火加減を間違えて偶然できたスープは、豚骨をしっかりとベースにして、紀伊徳川家御用産品の風味豊かな湯浅醤油を使い、濃厚だがまろやかでしつこさはなく、麺と絶妙のハーモニー。

卓上に置かれた早すし(鯖押しずし)、巻き寿司、めはり寿司、ゆで卵。待ちながらゆで卵を食べ、寿司と中華そばと一緒に食べ、精算時に自己申告するのが、和歌山通の食べ方。

「札幌」や「博多」ラーメンなどとは全く異なる個性的な味。豚骨醤油味は、昔ながらの屋台の味を思い出させる。



紅葉溪庭園

コース概観

和歌山は黒潮文化圏。温暖な気候に恵まれた豊かな土地は、八代将軍吉宗、麻酔薬「通仙散」を開発して世界初の全身麻酔手術で乳癌の摘出手術に成功した華岡青洲、生物学の巨人南方熊楠、松下電器を創業した松下幸之助を生んだ。いずれも独創的でスケールの大きな人物。大阪難波から電車で約1時間の和歌山市に巨人の面影を探しに出かけてみた。



和歌山城付近略図

南海和歌山市駅下車。地元の人々は「市駅」と呼ぶ。市駅南側の交差点で大きな道に別れ、右折して市堀川沿いの道を南に進む。和歌山市中心部を流れる市堀川は城の外堀りの役目を果たしていた。

船大工町のファミリリーショップ・クイノセの前に、勝海舟寓居地の石碑が建つ。「文久3年車艦奉行勝安房守紀州藩海岸防衛工事監督のため幕府より和歌山に派遣せられし時此処に寓居す時に門下坂本龍馬も亦来りて事に従ふ」と記す。

橋丁の駐車場の一角に「南方熊楠生誕地」の碑がある。世界的な天才博物学者南方熊楠は慶応三年(1867)4月15日、この地で誕生した。幼少から読書が好き、記憶力に優れ、当時の大百科事典『和漢三才図会』(105冊)や『本草綱目』などを筆写している。

昭和天皇の御歌(昭和三十七年) 雨にけふる神島を見て 紀伊の国生みし南方熊楠を思ふ

寄合橋の北詰にある酒造会社「世界一統」の場所は、五代藩主吉宗によって建てられた藩校学習館の地。綺麗なシルエットの寄合橋は、和歌山大空襲の焼夷弾の痕跡を現在に伝えている。寄合橋を過ぎ

ると川は直角に東へ曲がる。城北橋のあたりから川辺の遊歩道におりて歩く。中橋を過ぎ京橋へ。南へ向きを変え、道端に「京橋門跡」の碑。二の丸の入口だった。和歌山城の内堀が見えてくる。

平日に訪れたなら、市役所に寄り「わかやまし観光ガイド」をもらい、一四階の食堂横から目の前に広がる和歌山城の絶景を見る。こんもりと緑茂る虎伏山に白亜の天守閣がそびえ、御三家の威容にふさわしい風格を醸し出している。

和歌山城の入口は五ヶ所ある。重要文化財の岡口門は浅野幸長が表門として築いたもの。徳川頼宣が大手門を一の橋口に改めたため、搦手門となった。松の丸角櫓跡、岡中門跡の高石垣が美しい。大手門は一の橋とともに昭和五八年に再建された高麗門形式。追廻門は朱塗りの冠木門。門外に馬場の迫廻しがあったことから名がついた不明門。城内で一番の高さを誇る23・4層の高石垣。直線から弧を描いていく姿が優雅。

一の橋の太鼓橋を渡り、大手門から入る。敵の進入を防ぐため、石垣が鍵の手状に配置されている。すぐ右の二の丸には藩主御座所・政庁・大奥など紀伊徳川

家の御殿が建っていたが、今は庭園となっている。伏虎像を左にとり、表坂登り口から長い坂道を登り、天守閣へと向かう。階段、坂道、石垣は、緑泥片岩が積み重ねられた山全体を緑色に染めている。樹木におおわれた通りに「七福の庭」の石組みがある。眼下に動物園が見える。本丸表門跡から石段を登る。森にはタイワンリスがいて、時どき出える。本丸は現在給水場となっている。本丸御殿の台所は光恩寺の庫裡として残る。

天守一の門跡から白亜の塗込め造りの三層大天守を見上げる。二層の小天守と二つの隅櫓(乾櫓・二の門櫓)を廊下状の多間櫓で結んだ連立式天守閣。天守閣の前の広場には、「鞠と殿さま」「てんでん手まり、てん手まり」の歌碑が建つ。天守閣への入口が楠門。総楠木造りであったという。白亜の天守も築城の頃は、腰板張りの黒い天守であったと「御天守起し御図面」は伝える。

城は郷土のシンボル。戦後いち早く紀州人の熱意で復元された。戦後復興の象徴和歌山城は、市民の熱い思いを今に伝え、青空に雄姿を浮き立たせて街を見下ろしている。

天守閣内部には甲冑など紀伊徳川家ゆかりの品が展示されている。紀ノ川の河口、淡路島が一望できる。この河口は古くから水陸交通の要地で、大和朝廷の朝鮮半島出兵の基地となった所である。裏坂を下る。よく整備された表坂よりも裏坂、新裏坂のほうが往時の面影を色濃く残している。西の丸庭園、通称「紅葉溪庭園」に向かう。白い土塀と青石の石垣が迫る美しい小径を通る。紀伊徳川家初代頼宣が造営した庭園は、園の名勝

に指定されている。秋は起伏に富んだ庭を楓が燃え上がるように色どり、大小三つの滝音が響く。池に突き出て建つ釣殿「鳶魚閣」。茶室「紅松庵」で抹茶を楽しむながら、庭園を愛でる。「山吹溪」「鶴の溪」を通り、追廻門から市街に出て少し行くと、八代将軍吉宗の乗馬姿の銅像が建っている。県庁前交差点から見る天守閣は美しい。振り返ると和歌山県立近代美術館、博物館が近代的なデザインで出迎えてくれる。

- ▲コース▼
 - 南海和歌山市駅(10分)和歌山城(20分)
 - JR和歌山駅
 - △地形図▼2万5千1和歌山
 - △費用▼
 - 南海難波駅〜和歌山市駅 890円
 - 和歌山駅〜JR天王寺駅 830円
 - △問い合わせ先▼
 - 和歌山城天守閣 073(422)8979
 - 紅葉溪庭園茶室紅松庵 073(431)8648
 - 和歌山県立美術館 073(436)8690

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑨

「北山」

西尾 寿一

方位を名乗る山の数は多い。東西南北いずれの場合も多数にのぼるが、なかでも北山は群を抜いている。それはその山の命名地の性格を反映しているからだろう。

特定の山を「北山」と命名する場合には必ず、その山の南に位置する場所に相当規模の都市または政治的に有力な支配力をもつ町があるとされる。京都市の場合がその典型であるが、京都はそればかりではなく、東山・西山までがワンセットになっている。

京都は、平安京造営の際に風水思想が採り入れられており、南が開け三方が山に囲まれ、それぞれの山は一括して方位で呼ばれてきた。むろん個々の峰に名前が付されているが、大ざっぱに三分割されて呼ばれるのは、あくまで平安京を中心に考えるからにはかならない。

で、東は途中街道以西、西はJRの山陰線までとする。

この二案が有力であったが、二案とも有力な根拠があつてゆずるべき理由も見あたらない。

一案は森本次男氏などが著書で採用したので、分水嶺以北は「丹波高原」として区別されている。なるほど、われわれが俗に「城・丹国境尾根」と呼んでいる分水尾根の北と南とは山の性格が若干違っている。北側は「丹波高原」と呼び、準平原（小さな山が波のように連続しているが野や原のような地形ではない）であるのに対し、南側は分水尾根を水源として、小型ながら立派に山塊の形をなしている。小さいがゆえに尾根や谷筋が自由に歩かれ、スポーツ的（肉体的）よりも、思索的（精神的）な山行が行なえる山城となっている。

地形・植生・環境・歴史、どれもが少しずつ違った色彩をもち、アプローチもかなり違った取り組むを必要とするものである。

第一案は十分批判に耐えうる諸条件を備えているように思えるのである。これに対して、第二案のほうは若狭ま

北山はむろん都を中心とする背後の山（山背）を指し、東山は都の東をふちどりその間に比叡山が立つ。西山は方位の通りで北山との間に愛宕山がそびえている。規定で引いたような見事な平安京の地形的配置は京都が盆地であることの証明となるが、京を懐懐する町もそれをまわって「小京都」ができた。

「コンサイス日本山名辞典」（三省堂）にはほかに「北山」を五点あげている。宮城県川崎町の364mの低山。岐阜県美山町の908mの山。和歌山県かつらぎ町の587mの山。

以上は単独の山名であり、京都の場合とは異なり、きわめてローカルな「北山」である。それらは特定の村落からみて「北山」であった可能性もあるが、今では判断のしようもない。

島根県の島根半島の山地全体の総称とされる山域は、出雲地方の北辺の山背と言つてよい位置である。この形式ではほかに高知市の北部一帯の山岳地帯を「北山」と呼ぶことが知られている。島根と出雲とは同じ形式であるが、京都の場合のような東山・西山の付属連山は見あたらない。

で「北山」が及ぶことになる。他県にまで及ぶとなると地域ナショナルリズムがさわぐが、これも根拠がないわけではない。

平安京が造営されたときから、もともと境界などではなく都の山背そのものが北山だったから、丹波とされる京北の周山や黒田あたりも都と密接な関係をもっていたからである。この場合分水嶺に境界があるのでなく、北へどこまでも突き抜けていく思想がある。つまり、京都の北はどこまでも京都の都を衝る山の壁であり、都を守る人の隠所であり、産物の流通路であり、生産地であり、産物の秘所でもあったと言ふべきかも知れない。

そのような性格をもつ丹波高原を北山と一体化して考えることはむしろ自然の理にかなっていたのだから。

その広域の「北山」をかつて出雲族がたどってきたのだという説がある。無論、山背に都が出来るはるか昔のことである。そのことを北山を歩きながら肌で感じ、音で聴いたという人がいる。「北山クラブ」の前会長で北山に関する著書も多い金久昌彦氏である。この人の「北山の峰」

北山がなくて東山と西山がある場合もあるが、京都のように三点セットの豪華なものはないのである。京都が完璧な風水思想で造営されていることが改めて納得させられるのだ。

京都の古称である山背は大和からみれば北山の背裏に存在する土地となるから、ひょっとするとドリームランドのあたりは大和の北山だったのかもしれない。

さて、京都の「北山」である。「北山」は特定の山を指しているわけではないが、由来は単純明瞭でだれにも理解されやすいが、それならば「北山」の区域はいったいどこまで及ぶのか、という問題にいきあたる。

おそらく昔の都の人たちはそんなことを考えもしなかったはずで、今まで何ら問題が生じることなく過ぎてきた。今後もそうなる可能性が高いが、あるとき、われわれ登山者が山城の区分をする段階で、この問題に突きあたる破目になった。それは大別して二案ある。

その一として、「北山」は京都市内へ流れる加茂川の水源の分水嶺までとする案。

その二が、日本海まで陸続きの無限大（全三巻）は北山のバイブルだった。これこそ北山広域論の極意であり容易に動かしたい説でもあった。

さて「北山」のどちらの説に軍配を上げるかの判断もつかぬまま、筆者はなおうろたえて優柔不断の池におぼれているのであるが、要は、機械的な区分の問題というより好みの問題であらう。

地理的合理性か、文学的感性か思案のしどころである。地名論議は合理主義のみでは片づかないおもしろ味が、こんなところにも垣間見えている。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

〈山のレポート〉

〈山・詩・夢〉

千曲川と夫神岳

紀平 龍雄

あの光るのは千曲川ですと指さした
山高帽の野菜くさい手

この歌を詠んだとき、私は千曲川を見たいと思った。そして、これが1923年(大正12年)、北原白秋が信州上田で詠んだものと知ったとき、「行こうと決めた」。

川が光っているのは、久しぶりに春の陽を受けて、千曲川が喜んでいいるから。それを高台から眺めている。いつもは農作業に精出す、だから節くれだった手であり、農夫の頭に山高帽が載っているのは、今日がめでたい日だから。精勵刻苦、農業に励みつ、学問や芸術・文芸にも熱心な信州人の誇らかな顔がある。

千曲川は梓川などを合わせ、新潟県に入っては信濃川と名を変え、日本海に注ぐ日本一長い川である。「あの光るのは」

そして夫神山に登ろうと決めている。しかしこんな歌を見ると春にならなくとも今すぐにでも飛び出したい。夢は膨らむ。

(付)冒頭の歌「あの光るのは千曲川ですと指さした山高帽の野菜くさい手」を見て、高村光太郎の「あれが阿多羅山、あの光るのが阿武隈川」を思い浮かべるかもしれない。詩集「智恵子抄」の巻頭詩「樹下の二人」の有名な一節である。

しかし白秋が光太郎を真似たのではない。前述のように白秋の歌は1923年に詠まれ、光太郎のは1941年に出版された詩集に出ている。

光太郎と白秋は同時代の詩人であり(光太郎が2歳年上)、ともに「パンの会」のメンバーである。そして評判を呼ばなかった白秋の詩集「海版」であったが、「あの光るのは」の歌は光太郎の心に深く刻まれていた。真似とか引用とかいうほどではない、それが光太郎の記憶に蘇り、この詩に歌われたのだろう。

「あれが阿多羅山、あの光るのが阿武隈川」の一節は詩の最初の行にあり、この詩のいわば標題である。そして最終行にもあるから、結論でもある。しかし

には、信州人の千曲川への自慢心がこめられており、「山高帽の野菜くさい手」には、白秋の、信州人への敬意がうかがえる。

ハイカラで、いかにも白秋らしい歌。しかしめずらしく破調の口語体である。華美絢爛、言葉と韻律の魔術師、とても白秋らしくない歌だ。それでもこれだけ私の心を捉えるのだから、やはり白秋らしいのだろう。

白秋の義弟である版画家山本剛が、郷里の信州上田を拠点に農民美術運動を進めていた。この年の4月、ここに日本農民美術研究所が創設され、38歳の白秋も開所式に招待された。

歌集「海版」には「開所式と丘の上の宴会」の詞書で十二首が収録されている。この歌のほか、「シルクハットの県知事さんが出て見てる天幕の外の遠いアルプス」なども微笑ましい。

この旅には妻、幼児2人も同行している。家族サービスだろう、その後の数日は上田の西方10^分ばかりの、早春の別所温泉に遊んだ。「海版」を読み進めると、次から次と、溢れるように歌われている。白秋はよほど気分がよかったにちがいない

真ん中にもあって、ここは具体的で、次のように続く。

あれが阿多羅山、あの光るのが阿武隈川。ここはあなたの生まれたふるさと、あの小さな白壁の地点があなたのうちの酒屋。それでは足をのびのびと投げ出して、このがらんと晴れ渡った北国の木の香に満ちた空気を吸ほう。

少なくとも智恵子生前の詩である。智恵子が精神分裂になる以前か、その兆候があらわれ始めた頃かもしれない。とすれば、

「智恵子は東京に空が無いといふ
ほんとの空が見たいといふ
……阿多羅山の山の上に
毎日出ている青い空が
智恵子のほんとの空だといふ」

(同一「あどけない話」)

から、光太郎が智恵子を故郷へ連れて行ったときの詩かもしれない。

別所温泉の裏山、夫神岳(1250m)へ登ったときの歌もある。幼児は宿に残したまま、夫婦2人して手を取り合うように山路を登っている。

雄子なく薩山なだりこもごもに
芽賢明えたり丹つつじはまだ
*どこかでキジが鳴き、日陰の谷あい
にナダレの響きが聞こえる。もう早くも芽賢が青く萌え出て、しかしピンクのミツバツツジには少し早い。

ずっと以前、私は小諸に一泊したことがあり、そのときに上田の街も少し歩いた。上田市観光課に夫神岳のことを問い合わせると、トレッキングマップが三冊送られてきた。

夫神岳は別所の街からはきれいな三角錐に見えるらしい。昔、東山道を行き交う旅人の目印にもなった。山頂に雨乞いの神がまつられ、毎年7月、別所の人々は「岳の織」の祭りをし、織を奉納する。だから地元では親しく「岳の山」と呼んでいるとある。

4月から5月上田と別所温泉へ行こう、

オリジナルザック & 登山用品専門店

イモック山遊行くらぶ

- 4月27日(日) 鈴鹿山系 錦向山(1110m)
- 5月18日(日) 母馬の最高峰 水ノ山(1510m)

○詳細はお問い合わせください。
イモック山遊行くらぶ

〒953-0030 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カアゾビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00~20:00 日曜日不定休

◆ウォーキング W◆
2気室切替式超軽量モデル

☆32/☆
*カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
*重 量 1550g
*素 材 高密度ナイロン
*価 格 ¥15,000

☆28/☆
*カラー マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重 量 1400g
*素 材 高密度ナイロン
*価 格 ¥13,000

・両面内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内裏により体型に合わせて形状を変えることが出来る。ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付内側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの縫製により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。



夢前の播磨富士

明神山

一般コース(★)
慶佐次 盛一

明神山は播磨中央の好位置にあり、どこからでも美しい姿を見せてくれる。標高こそ低い里山だが、どことなく気高さや風格を備えた山で、私の好きな山の一つでもある。

江戸時代に著された「播磨鑑」には、明神ヶ嶽の名で呼ばれ、旅人は馬上から振り返り、船上からも眺めた。山上には嶽明神がまつられていたが、参道が険しく麓の神種に移してまつられたと記されている。

その気高い美しさに、昔から神が宿る山として信じられた信仰の山だったのだろう。最近ハイキングコースもでき、麓には農業公園も開設されているが、山

への登り下りは相変わらず厳しくて時間がかかる。タクシーを利用してアプローチを短縮したほうが楽だろう。

私たちは姫路駅から前之庄行き神姫バスに乗り、役場前のバス停で下車する。さっそく迎えにきたタクシーで、農業公園を通りBコース登山口の岩屋池まで10分着く。歩けば1時間強はかかるから、以後の行程にゆとりができた。

あいにくの小雨で、傘をさしながら男女6名で先へと進む。右に観音滝への分岐がある。別名招福観音とも呼ばれ、江戸時代には修験者がこの滝に打たれ、嶽明神に参拝したそうで、とくに女性の信仰が厚かったそう。

丸太橋を渡る狭い山道となる。5月中旬で、コガクウツギの白い花が盛りだった。よく踏まれた山道を進んでいると、「長滑め」の標識が現れる。

傾斜はゆるいが、約200mのすべり台のような滑滝が白い流れをつくり、ここは滑らないように滝の縁に沿って進んだ。

滝を過ぎすと、あとは植林帯のなかをひたすら登るだけ。稜線が近づくと、登路は傾斜を増してジグザグを描き、最後

等三角点が埋まり、大小の岩が群れる。以前は、嶽明神の祠がまつられていたと思われる石組があったと記憶しているが、見当たらない。東側からCコースが合流し、小明神へのコースには「経験者向き」の注意書きがあった。

小雨は止んでいたが、濃い霧に包まれて何も見えない。晴れていれば北に雪彦山、東に薬師山や七種山など、播磨の山々が360度に展開しているのだが残念だ。

食事をしながら霧が去るのを待ったがいせんとして濃い霧に包まれたままであ



る。諦めて、湿った急坂に注意しながら元のAコース・Bコースの分岐点まで戻った。

道標に従いAコースへと進む。ゆるい傾斜の起伏が続く稜線で、所どころ岩稜も見られ、ヤマツツジやモチツツジの花もまだ咲き残っていた。お天気なら、けっこう左右の展望を楽しみながら歩ける稜線である。

「のぎり岩」と呼ばれる真つ二つに割れた小岩を越すと、間もなく西の丸425mの小さなピークに着く。

今までのゆるやかな稜線がここから一転して急降下となる。雑木のなかの足場の悪い所には数ヶ所ロープが張られているので、ここは時間をかけてゆっくりとくだる。

少し傾斜がゆるむと、一枚岩の長い岩稜が続く。「マンモスの背」と呼ばれる岩稜で、ロープも張られる眼下には朝顔の農園が見下ろせた。続いてまた岩稜が現れるが、ここにもロープがあった。

やっと姿を見せた明神山



はロープを頼りに稜線に出た。ここはAコース・Bコースの分岐点で、道標に従い明神山へと右折する。稜線は雑木におおわれたコースで、岩混じりの急傾斜の登りとなる。左側の助野からのコースが合流するとますます傾斜は増し、這い上がるように明神山の頂上に着いた。

私は20年ぶり三回目の登頂である。3

傾斜も次第にゆるみ始め、コックパネウツギの黄色い花が咲く稜線を進み、高圧線鉄塔の下に着く。ここまで来るともう安心、すぐに麓の道に出て岩屋池の下となり、道標に導かれて農業公園に着いた。

オートキャンプ場やコテージ、「ゆめやかた」などの施設があり、季節にはバス便もあるようだ。ここから天を突くような明神山も見えているが、頂はまだ霧におおわれたままであった。

あとはバス停まで車道を歩くだけだ。麦畑や蕎麦畑が広がる道を進んでいると空も晴れ上がり、背後の明神山もやっと姿を現し、私たちをいつまでも見送ってくれた。

- ▲コースタイム▼
- 岩屋池(40分) 稜線A・Bコース分岐(30分) 明神山(25分) 稜線A・Bコース分岐(25分) 西の丸(40分) 岩屋池下(7分) 農業公園(1時間) 役場前
- ▲地形図▼2万5千11前之庄
- ▲問い合わせ先▼
- ナンバクツー

079331610058

山城のある

ふとおやま

太尾山から六原山へ

みくほちやま

初級コース(★)

西尾 寿一

山城を広義に解釈すると、米原のすぐ東に壁のように立ちはだかる山城も当然、鈴鹿の山に組み入れてもおかしくない。

米原といえは中山道と北国街道の分岐点で交通の要衝なのだが、町なかを知る人は少ない。

とくに町の背後に控える太尾山という、昔山城のあった山など関心の外だったろうと思う。もの好きにもそんな低山を歩いてみて、思った以上に収獲があったので見直してみようという気になった。春浅ければヤブツバキの咲き乱れる道だ。

JR米原駅の東口に出ると、広い駐車場と近江鉄道がある広場を突き切つて東へ直進する。国道を渡り、旧市街の角の

家に遊歩道の案内がある。正面(東)の古くからの好ましい街道の趣深い道を進むと、立派な地蔵尊が二ヶ所ある。よく清掃されていて気持ちがいい。

突き当たりが青岸寺、右に湯谷神社でこの二寺社を中心に遊歩道が周回していて左右どちらからでも元に戻れる。その手前に木造の二階建てで丸い時計と二宮金次郎像のある昔なつかしい小学校がある。のぞきこむと、現在は「少年センター」として大切に使われているという。

青岸寺はなかなかの古刹で、昔は湯谷神社も湯が出たと文献にあるが、たぶん鉱山関係とみた。

それらの背後に屏風を立てたように扇形にそびえるのが太尾山である。

六原山まで足をのばすなら左廻りで取りつのがベストだ。まず寺の前を左へ廻りこむと、八田山(入口の丘状の山)との分岐になり、さらに右上方へ急登すると岩尾根となり、視界が開ける。米原駅の喧騒の奥に佐和山・礪山が見え、琵琶湖が一望である。さすがに街道をならむ山城の性格が納得できる。

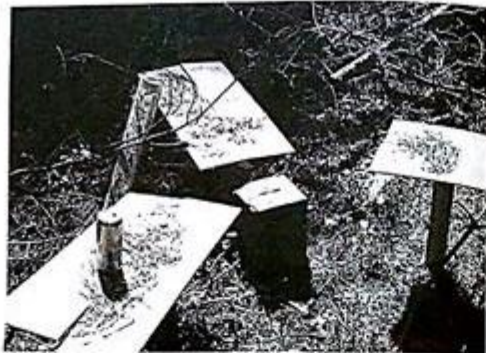
主尾根に出ると、左に番場へ行く道が分かれ、右をとる。送電鉄塔のあるピー

太尾山より礪山(右)と物生山(左)



クは右を捲いていったんくんだり、再び登ると盗人岩だ。山系中央の大展望台でひと休みによい。物見・国見とはこのことで、下界の全てが看視でき、ほどよい山の高さが国防にも盗人にも利用価値があったということだろう。展望はここが一番で十分に楽しむ。

次のピークは本丸のあった所らしく平らな台地となっているが、かなりやぶが



六原山の三角点

茂っている。すぐ下降となって堀切(キレット状)があり、右は湯谷神社へ、左は番場の変電所へくだる。なおも直進して登ると再び平らな台地があり、郭跡と思われる。そこから尾根は分岐し、右は湯谷神社へ、直道は鉄塔の巡視路伝いに六原山へ行ける。しかし、入口がわかりにくいので、松茸山のピニールテープの境目の道を南へたどれば自然に入れる。少しくだると再び堀切がある。山城の規模も相当なものだったようだ。

ここから六原山までは少々遠い。あわてずゆっくりたどると裸地に出て、鉄塔がある。展望も悪くないが盗人岩ほどではない。次のピークの登りで道は二分し、



太尾山・六原山付近略図

右のトラバース道を行くと峠に出る。旧中山道から登ってくる林道の終点だ。六原山へは右の尾根の袖道に登って尾根のT字路を左にとると次の鉄塔に至る。ここには旧中山道へくだるよい道があるので、六原山はここから往復する。約15分で三角点に行けるが山頂一帯はなぜか掘り返されている。最近では山城調査が盛んで、各地で発掘作業が行われている。近くの鎌刈城からはたくさんのお宝が発掘されたと聞いているので、六原山もその可能性がある。すぐ下に名神高速もあって物見の岩くらいはあったのだろうか。

(平成14年3月歩く)

▲コースタイム▼

JR米原駅(15分) 青岸寺(40分) 盗人岩(10分) 本丸跡(1時間) 裸地(40分) 六原山(30分) 摺針峠(15分) 近江鉄道鳥居本駅

△地形図▽2万5千Ⅱ彦根東部

(里山シリーズ14 彦根・多賀)

「自然いつばい」公園の森

たかとりやま

高取山(たかびの森)

一般コース(★)

長宗 清司

湖東の多賀町には、二つの大きな川が流れて琵琶湖に注いでいる。このうちの犬上川流域にある高取山(611・616)を訪れてみる。

愛知郡愛東町の角井峠に水源をもつ犬上川(南谷)は、大秋をすぎるとすぐ多賀町に入り犬上ダムとなる。昔、下流の甲良町金屋にあった「一の井」という井堰から取水する村々では、たびたびの干ばつにより水争いが絶えなかった。そこで、この水争いの根本的解決策としてダムが建設された。

この南谷川相で、大君ヶ畑から流れてくる北谷と合流して川幅も20倍余の本流となる。藤瀬の郷を経て大瀧神社に至る。

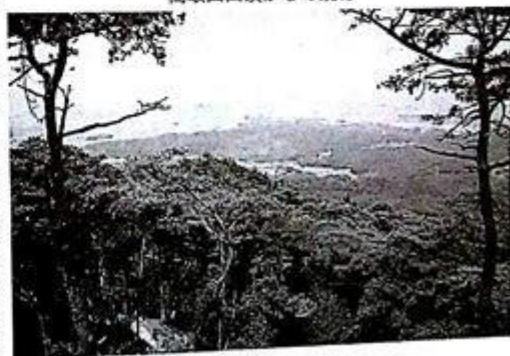
る。

高取山へは、JR琵琶湖線河瀬駅から菅原行きバスに乗り、この大瀧神社前で下車。そこから南へ2.5キロ山手に入った所に、多賀町が平成4年建設した「高取山ふれあい公園」(愛称たかびの森)内の「どんぐりの道・たかとの道」のコースを利用して、パノラマハイキングを楽しむ。

大瀧神社の祭神は、高瀧神・闇瀧神・分水神である。駒札には、京都鞍馬の貴船神社にもまつられている水神で、旧大瀧村の総鎮守として、また犬上川流域の水利を司る神として広く崇敬されている。現在の本殿は、標木および高欄擬宝珠、寛永15年(1638)の銘があり、多賀大社、胡宮神社と共に徳川家の運営によるものである。と記してある。大瀧神社境内の御神木杉あたりから見下ろす岩瀬あたりは、「大蛇ヶ淵」と呼ばれている。上流に犬上ダムが建設されるまでは大瀧の名に恥じない堂々たる瀑布であった。

神代の昔、この滝淵に大蛇が棲んでいた。近辺の住民に仇をなす祟り神であった。伝説によると、ある日「犬上の君」

高取山山頂からの眺め



が狩りに出て、この淵を見ながらの休憩中にうたた寝されていた。ところが連れてきた愛犬小石丸があまりにうるさく吠えるので、たまらず剣を抜いて犬の首を切り落としたところ、その首は高く跳ね上がり、樹上から主人を狙っていた大蛇にかみついて主人の危険を救った。犬上の君は、わが心を恥じ、塚をつくり忠犬をねんごろに葬った。その塚に植えられ

た松の枯株が今も大瀧神社の鳥居前に保存されている。

滝を見て神社をあとに、一度車道に戻り、川上の橋を渡る。案内板や標識に従い歩くうち、明るい谷筋の道に入る。小川の流れに沿って公園内の事務所(交流センター)に向かう。管理協力金一人2000円を支払い、右の「森のステージ・オートキャンプ場」の奥の「パノラマハイキング」の矢印看板が立つ遊歩道入口から「どんぐりの道」に入る。始めはアカマツの明るい林内をぬうように歩く。やがて、尾根筋に出て最初の休憩所できと思つく。風が通り心地がよく、展望に



は絶好の場所だ。晴れ具合によっては琵琶湖も望める。左の谷を見下ろすように道は右に左に起伏を繰り返す。「とりの道」との分岐点からは登りは急になるが、幅の広い道は歩きやすい。「たかとの道」の途中の展望台から50ほど急登して頂上に着く。といってもこんもりとした山容で、頂上と気づかない峠状の平凡な山頂である。

このあたりに来ると、もう公園の雰囲気はなく、自然に満ちあふれた山の気配が十分満喫できる。樹間から下に交流センターやキャンプ場が一望できる。

帰路は、引きかえすか、さらにこの道の延長をたどれば「とりの道」の別の分岐点と合流し、「きのみ道」「くすりの道」とつないでもとの交流センターに戻れる。

一般ハイカーならこれで十分だが、さらに足をのばしてみたいベテラン(読図可能な人)には、高取山から尾根を直進して八ツ尾山アタックをおすすめする。下山は、そのまま東進して地図に残る林道跡をさぐり、これ

をくだれば藤瀬の集落に出て川向こうのバス停に出る。健脚で、探案好みの人は、尾根から右の谷に降り、菅原集落と上流にある犬上ダムを訪れるのも一興だろう。ダムの周辺は花や木々が多く、春秋には釣りや行楽客も訪れる。菅原集落に分校があった時代に、児童が餌付けしたおかげで、このあたりは現在「おしどりの里」として有名で、ほかに60種もの野鳥が確認されているほどに、野鳥観察にはもってこいの場所となっている。ただバスの便数が少ないので事前に調べて出かけること。(平成14年8月3日歩く)

- ▲コースタイム▼
 JR河瀬駅(バス20分)大瀧神社前(30分)交流センター(1時間)休憩所(45分)展望台(10分)高取山(1時間)交流センター
 ▲地形図▼2万5千■高宮・百濟寺
 ▲問い合わせ先▼
 多賀町役場 ☎0749(48)8111
 高取山ふれあい公園(森林体験交流センター) ☎0749(49)0635
 湖国バス彦根 ☎0749(25)2501
 近江タクシー ☎0749(22)0106

2等三角点のある山

六所山と文殊山

山形 歳之

木之本から北国街道を北上し、栃ノ木峠を越える。隣の木ノ芽峠(鉢伏山2等三角点)に登ってから10数年が過ぎた。私が三角点を目指してから20数年になるが、浜の真砂の何とやらで、三角点の数は尽きることがなく、いまだに登り続けている。最初は近場から始め、やがては近畿周辺に及び、今や越前の国まで足をのばすことになった。もちろん、今までは越前の山には登っているが、これからは2等三角点の山を集中的に登ることになるだろう。

栃ノ木峠から今庄にくだる。日野川越しに越前富士が形よい姿で迎えてくれる。この日野川の左右の山々にも、いくつか

の2等三角点が点在している。低い山が多く、簡単に登れそうだが、資料が少なく登路を探すのが先決である。日帰りが無理な山行では、往復の時間を節約するため、車泊していくつかの山に登る。今回も2等三角点の山を主体として、10山程登った。

山名	点名	標高	等級	2万図	5千図
道山村	道山村	273.9	2等	敦賀	
柚山	柚山	492.1	3等	今庄	
北山	幸山	218.4	2等	鯖江	
乙坂山	本宮山	289.9	2等	鯖江	
六所山	六所山	698.3	2等	織田	
越知山	越知山	612.8	3等	織田	
文殊山	文殊山	350.5	2等	鯖江	
中津山	中津山	334.2	2等	鯖江	
岩屋山	風山	765.2	3等	駄口	
夕暮山	宮ノ尾山	720.4	4等	駄口	

このうち、六所山と文殊山を記載する。
六所山(2等 点名六所山) 初級コース(★)
今庄、武生と過ぎ、鯖江の町から国道417号線を越前峠に走る。織田町の四ツ杉で「いこいの森」に向かい西部林道に入る。この丘陵は宿舎やキャンプ場が

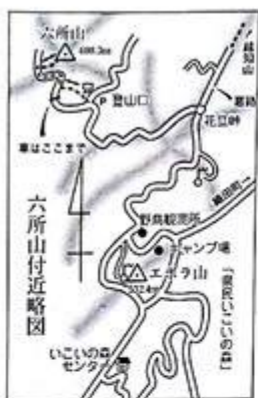
花立峠より六所山



点在し、「県民いこいの森」となっている。エボラ山のアンテナが突き出している。「花立峠」で六所山登山口の道標に従い左折し、1.5km程進むと登山口に到着する。砂利の林道が分岐し、小六所山とある。車で登れるはずだが林道入口の所在が不明なので、ここから歩いて登ることにする。ひと登りでこの林道に取りつく。行く手に六所山が姿を現し、肩の

あたりまで林道がのびていた。道端には所どころに石仏が安置してある。山が近づくと林道は荒れてきて、車は走れそうがない。

荒れた林道を肩まで登ると、丸太階段が始まる。ここにも一体の石仏があった。遊歩道はわずかで山頂に到着する。整備されたときの柵やチェーンが周りを囲っているが、今は放置されて草ぼうぼう。開発されても管理は全くされていない。展望はすばらしく、越知山のアンテナ、下の谷には武周ヶ池が望まれた。花立峠に戻り、越知山に向かったが、大変な悪路で車を取り入れたことを後悔した。越知山には北からよい車道が通じている。(平成13年5月17日歩く)

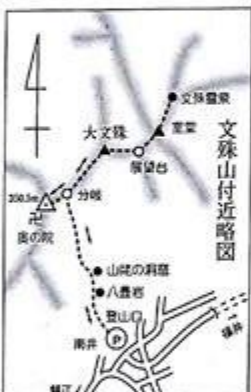


△地形図V2万5千II織田

文殊山(2等 点名文殊山)

越知山と同じく泰澄大師によって開山された文殊山は三つの峰があり、東から室堂、大文殊、奥の院と呼ばれている。このうちの奥の院に三角点がある。お寺はよく知られた山で四方から登山道がある。

三角点の山登りでは、いつも「一点の記」を参考にしているが、今回も南麓の南井町から登ることにする。村の入口から登山口の表示があり、登山口には5〜6台の駐車可能な立派な駐車場がある。多くの人が利用しているようである。登山口の案内板では1.5km50分となっていた。



登路の途中には、七疊岩・八疊岩・山姥の洞窟などがあり、お寺の境内なので太い杉が林立している。

峠からは左が奥の院、右が本堂で、本堂が文殊山である。まず大文殊に向かう。山頂には本堂と石仏を収めた小屋が建ち、越前三山の説明板や磁石石等がある。

東北の展望が開け、北陸道や福井の市街が望めた。白山と表示された方向は霞んでいた。道はさらに東の室堂にのびていたが、目的の三角点は奥の院にあるので引き返した。峠に戻って少し西に登る。胎内潜りを過ぎると小さいお堂が安置され、その横に三角点が見つかった。大木に囲まれた小広い台地で展望はなく、ハイウェイの音が激しく響いていた。

下山して車で休んでいると、バイクで来た婦人が話しかけてきた。「奥の院のお社は私の家の者が造った」とのことだったが、三角点のことは全く知らなかった。(平成13年5月18日歩く)

△コースタイムV
南井登山口(40分) 峠(10分) 文殊山本堂(8分) 峠(8分) 奥の院三角点(8分) 峠(30分) 登山口
△地形図V2万5千II鯖江

大草原の縦走路を歩く

おたにやま

大谷山(ヒルメスコ)

一般コース(★)

金谷 昭

湖北マキノ高原から西に立ち上るはだか大谷山を中心とした山並は、無雪期には緑の絨毯が広がり、また積雪期にはシミとつない純白の雪稜が見られる。とくに「日本の並木百選」にも選ばれたマキノ高原に至るメタセコイヤ並木道から見上げる早春の白銀の山容は、スケールではとてもおよばないものの、信州安曇野から見る後立山連峰を彷彿とさせるものがある。

マキノ高原から栗柄越、そして北に向かつて赤坂山・三園山へはよく歩かれていたが、栗柄越から以南の大谷山への縦走は背丈を越すササと灌木のため、歩く人はまれだった。

最近、美浜山遊会の御努力によって、栗柄越から大谷山をへて栗柄谷の河内林道に至る県境尾根のやぶが刈られ、無雪期でもとても歩きやすくなっている。

栗柄越へはスキー場の右を占める第一ゲレンデの上部から始まる「赤坂山自然遊歩道」を登って行く。古くからの峠道であると同時に山スキーツアーコースともなっていただけに、幅広く切り開かれ、登り始めは丸太の階段にするなどよく整備されている。ブナの木平の休憩所を過ぎると尾根はやせてきて、道は谷に降りる。

水場があり、ここを過ぎると道は谷を離れて山腹に取りつくようになる。ブナ林となつて、さらに登ると送電柱が出てくる。高木が灌木とササ原に変わって見晴らしがよくなる。明るい大草原の稜線近くになると「行き止まり」の案内板が置かれた南方への分岐が出てくる。この分岐を南(左)に入っていくのが大谷山への縦走路である。

以前この道は、目前の送電柱までで終わっていたから「行き止まり」の案内板がある。なお、分岐は栗柄越の手前50mの所であり、時間に余裕があれば、赤坂山への縦走路である。

木の見事な大草原が続き、左に琵琶湖を見下ろすプロムナードとなる。いったん大きくくくって登り返せば大谷山(813・9m・ヒルメスコ)に着く。

3等三角点標石を中心にして低いササに囲まれた山頂で、360度の大展望が広がる。東に琵琶湖、そして伊吹・鈴鹿。晴れていけば遠く白山・御嶽が、南に比良・三重嶽・大御影山。西に雲谷山。北に日本海、そして北に野坂山地・湖北乗鞍岳等が望める。のびやかな明るい草稜にての休憩時には至福のひとつが得られるであろう。

山頂から先、まだまだ草原が続き、縦走路も付けられ、これをたどると栗柄谷の河内谷林道に降り立つことができる。

下山はムギノ峰に戻り、分岐を右(東)にとり、スキー場の南にのびる椎木の尾根道に入っていく。しばらくくくると、古くから歩かれていただけに深く踏みかためられた溝状の道となり、見事なブナ林が出現する。春の新緑はもちろん、



秋の紅葉もすばらしい所である。さらにくだると右側に杉林が出てきて小さなコブ(562m)となる。ここは踏み跡が乱れ、少し迷いやすい所だが、右に折れて少しくだると雑木林に変わり、そのなかに道が現れる。やがて道は尾根鞍部に降り立ち十字路となる。古いスキーツアーの案内板が今も残っているが、ここを左に入って10分も歩けば、スキー場の第二ゲレンデの上部に出る。

なお、先の分岐は、前方へは「マキノ高原遊歩道」、右へは緑ヶ池をへて石庭への道となっている。

下山後は高原の温泉「さらさ」に入浴するのも一興である。

(平成14年5月19日例会で歩く)

▲コースタイム▼

マキノスキー場第一ゲレンデ登山口(1時間)ブナの木平(45分)栗柄越(1時間)寒風山(45分)大谷山(35分)ムギノ峰(1時間10分)尾根鞍部十字路(20分)マキノスキー場第二ゲレンデ登山口(地形図)2万5千110

△問い合わせ先▼ 湖西バス ☎0749(22)1210

大谷山山頂の草原



山を往復してきてもそう時間はかからない。ここからは近畿地方にはめずらしいササと低灌木の大草原の縦走が始まる。

縦走路に入るとすぐ右に、さらに少しくと左に分岐が出てくるが、いずれも送電柱への巡視路である。ササ原のなかをゆるく登ったピークが弥陀頭(792m)。これを過ぎると右に振りながらくくって登り返せば大塚山(841m・栗柄谷

一統・近江側から登る鈴鹿の山々①
とたえ 存
白谷越から竜ヶ岳へ

健脚コース(★★★★)

環部 純

竜ヶ岳への一般ルートはいくつかあるが、いずれも三重県側からだけで、滋賀県側からのルートを紹介している案内書ガイドブックはほとんど見あたらない。今回紹介するルートは、岩野さんの例会で初めて滋賀県側から竜ヶ岳へ登ったルートである。このときは、古い峠である白谷越から太尾の長池を訪れた後、白谷越まで戻り、急斜面を竜ヶ岳南ピークへよじ登った。
紅葉尾から八風街道を東へ走り、八風谷橋を過ぎる。ミスナシの尾根を左に見てから、地形図で大きく北へ廻るカーブの四つ目の所で、道脇に立つ二つ目の道路ミラーのある、道幅が広がっている

所へ車を置く。少しわかりにくいだが、ここが昔、伊勢からの炭焼きの人たちが通ったという白谷越の古道の入口である(ここから太尾の長池までのルートは新ハイ31号49ページに詳しい)。やぶに隠れている白谷越へ向かう旧道を古語録谷へくだる。すぐ道は二手に分かれるが、左をとり河原へおろす。右の道をそのままくぐってしまおうと、堰堤の上に出るので、間違わないことが肝心だ。

河原におりると、向こう岸左の方に踏み跡がある。夏には、このあたりにスズメバチが巣をつくっているおそれがあるので、蜂の姿を見たら迂回すること。植林のゆるい斜面を登り、尾根から西の谷へくだる。谷に沿って踏み跡を登って行くと、谷分岐。そこから左俣をつめると、鞍部が白谷越だ。昔、伊勢の炭焼きの人々が石神峠を越えて、この峠から太尾や大井谷・茶屋川周辺へ通うのに利用したという。今では歩くのは「山ヤ」だけで、踏み跡が残っているものは相当荒れている。

峠から右へ登れば竜ヶ岳だが、そのまま登ったのでは到着が早過ぎるので、左へ太尾の長池まで足をのばしてみよう。

カンスゲの疎林の広場から見る藤原岳と神原

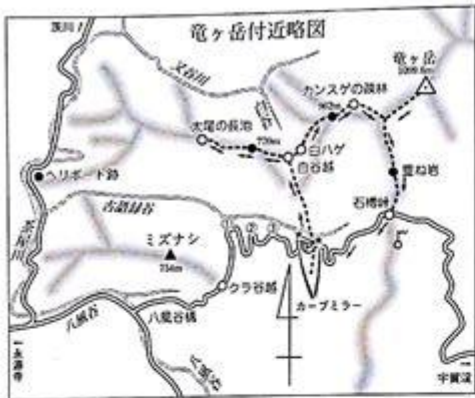


細い尾根を西へ登りついた所が標高770mのピーク。膝まで繁っている草やシダの多い疎林の山頂で、展望はほとんどない。ピークから西へ向かうと美しい二次林が続く。
斜面を右にくだり、少し西へ向かうと太尾の長池である。この池へは茶屋川尾のヘリポート跡の東の尾根を登っても来ることができる。最初にこの池を訪れ

たのが鈴鹿にのめり込むきっかけとなった山行だったが、そのときと何ら変わらぬ風情で、池は静かに眠っている。

池を見たのち、白谷越まで戻って竜ヶ岳への登りにかかる。登り出たすぐガレ場に出る。このガレ場は「白ハゲ」と呼ばれ、白谷源頭にあたる。ここから西方が展望でき、茶屋川西に横たわる尾根の上に、天狗堂が天を突くように頭を出していた。

滑りやすいガレ場を登り、尾根に取り



つく。林の切れ目から曲がりくねった八風街道を見下ろせる。登る間もなく急斜面。あたりは二次林だが、ゆっくり木々を眺めている余裕はない。直登するにはあまりに急で、斜面を北方向へ斜めに登っていく。やがて尾根に合い、その尾根を戻るように東南へ登ると、標高962m。尾根の南は切れていて、三池岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳と続く尾根が、目の前に横たわっている。

斜面を登り、ゆるい尾根を15分も登ると、竜ヶ岳南端ピークの登山道へ出た。そこから小さなピークを二つ越えたと竜ヶ岳山頂だった。
山頂には古い三角点標石が置かれ、その北側に新しい標石が埋められていた。新しい標石は磁石の南を指しておらず、少し東へ振っている。二等の字が左から右書きで、磁石の南を向いていないのはめずらしい。

ゆるい尾根を登って行くと、いつしかササがあたりをおおいつくしてくる。腰まであるササをかき分けて登るのは足の負担が大きい。低い灌木の間の歩きやすい所をぬって登って行く。

三角点広場の周囲に生えるササの背丈が高くなり、下の方まで見渡すことはできなかつたが、山頂から360度の展望。北から南に連なる鈴鹿の山々、西には鈴鹿近江の山並、東には遠く太平洋も見えるようにも思えた。

昼食はササが切れたカンスゲの疎林でとった。ガマズミや名を知らない低木の林で、近くの広場へ出ると、目の前に藤原岳が横たわっている。袴腰から落ち込む鉾山のガレ場は圧巻としか言いようがない。この場所がどこにあるのか地形図を見ても特定できなかった。ただ、高度計では990mを指していたが、陽は照っているものの、気圧が低かったので、もう少し高い地点かもしれない。

下山路は、一般登山道を石神峠へくだる。(平成13年9月9日歩く)
△コースタイム▽
白谷越旧道入口(45分) 白谷越(1時間) 太尾の長池(40分) 白谷越(10分) 白ハゲ(1時間30分) カンスゲの広場(20分) 竜ヶ岳(1時間10分) 石神峠(20分) 白谷越旧道入口
△地形図▽2万5千円電ヶ岳

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽春のチャレンジハイキング「多武峰・電在峠」 5月4日(日)小南
行(集合) 桜井駅9時、10時
(コース) (健脚向) 桜井駅→聖
林寺→横梯→北山→多武峰→西
門跡→冬野→道在峠→上市→市
橋→吉野駅(約22km) (一般向)
桜井駅(バス) 談山神社→多武峰・
西大門跡(健脚向と同じ)→吉
野駅(約14km) 参加自由・無料
(バス代等は別途、営業推進本部
大阪ハイキング係06(6775)
35666

▽近鉄万歩ハイキング「青山高原
四季のさと」 5月5日(日)小南決
行(集合) 西青山駅8時30分、11
時(コース) 西青山駅→青山高原
(三角点)→丸山草原→滝見台→
東青山四季のさと→東青山駅(約
15km) 参加自由・無料、営業推進
本部大阪ハイキング係06(67
75) 35666

▽奈良交通ハイキング「仏隆寺・
室生寺」 5月10日(日)雨天決行
(集合) 榛原駅9時30分、10時
(コース) 榛原駅(バス) 高井→
仏隆寺→室生寺(バス) 室生口大
野駅(約8km) *係員は同行しませ
ん 参加自由・無料(バス代等は

別途、奈良交通榛原営業所07
45(82) 22001

▽近鉄万歩ハイキング「西ノ京・
薬師寺を訪ねて」 5月11日(日)雨
天中止(集合) 葛洲池駅北改札9
時30分、10時(コース) 葛洲池駅
→秋篠寺→西大寺→唐招提寺→薬
師寺→甘徳町→近鉄郡山駅(約15
km) 参加自由・無料(拝観料は別
途、営業推進本部大阪ハイキン
グ係06(6775) 35666

▽読売ふれあいハイキング「歴史
街道を行く・巨勢の道」 5月26
日(日)雨天中止(集合) 吉野線葛
9時50分(コース) 葛野 巨勢寺
塔跡→阿吽寺→大穴持神社→葛木
坐御殿神社→船宿寺(バス) 近鉄
御所駅(約10km) 参加自由・無料
(バス代等は別途、営業推進本部
大阪ハイキング係06(6775)
35666

▽奈良交通ハイキング「柳生街道・
滝坂の道」 6月1日(日)雨天決行
(集合) 近鉄奈良駅東改札9時30
分、10時(コース) 奈良駅(バス) 忍
辱山(円成寺)→峠の茶屋→地
獄谷石窟(一宮の地蔵)→朝日観音
→夕日観音→寝仏→新薬師寺→破
石町(バス) 近鉄奈良駅(約10km)
*係員は同行しません 参加自由・

無料(バス代等は別途)、奈良交
通奈良営業所0743(58) 3
030

▽近鉄・南海・朝日合同企画「二
上山麓の當麻寺から大ヶ塚・富田
林寺内町へ」 6月8日(日)小南決
行(集合) 尺土駅9時、10時(コ
ース) 尺土駅→長尾神社→當麻寺→
平石峠→高貴寺→養神神社→平石
城跡→近つ飛鳥風土記の丘→府立
近つ飛鳥博物館→大ヶ塚寺内町→
富田林寺内町→富田林駅(約18km)
参加自由・無料(拝観料等は別途、
営業推進本部大阪ハイキング係0
6(6775) 35666

▽近鉄万歩ハイキング「忍びの里
から花の郷コース」 6月14日(日)
小南決行(集合) 赤白口駅8時30
分、11時(コース) 赤白口駅→白
山→秋葉神社→龍口→西谷→花の
郷・滝谷花しょうぶ園→(弘法大
師の道)→三本松駅(約11km) 参
加自由・無料(拝観料等は別途、
営業推進本部大阪ハイキング係0
6(6775) 35666

▽読売ふれあいハイキング「羽曳
野・藤井寺跡→古墳コース」
6月22日(日)雨天中止(集合) 古市
駅9時30分、10時30分(コース)
古市駅→白鳥神社→登田八幡

南海

▽近鉄・南海・朝日合同企画「滝
畑ダムから花や小鳥が迎える岩湧
の森へ」 5月11日(日)小雨決行
(集合) りんかセンター内河内
長野駅(バスのりば) 9時、10時
(コース) 河内長野駅(バス) 滝
畑ダム→天神社→滝畑民族資料館
→夕月橋→梨の木トンネル→岩湧
の森→四季彩の行司河原分岐→
流谷→天見駅(約12km) 一般向 参
加自由・無料(バス代等は別途、
南海テレホンセンター106(66
43) 1005

▽大阪・叡山電車・江若交通
▽北山ウィークデーハイキング
(シャクナゲ鑑賞)「日光院・天ヶ
岳」 5月7日(日)雨天中止(集
合) 八瀬比叡山口駅10時(コ
ース) 八瀬比叡山口駅(バス) 大原
→板光院→しゃくなげ尾根分岐→
天ヶ岳→薬土坂→鞍馬駅(約11km)
中級向 参加自由・無料(バス代
別途、叡山電鉄鉄道部075
778) 5122

▽こうじやくMtハイキング「春
の野坂岳」 5月8日(日)雨天中止
(集合) JR安曇川駅9時(コ
ース) 安曇川駅(バス) 登山口→ト

チノキ地蔵→一ノ岳→野坂岳→
一ノ岳→トチノキ地蔵→登山口(バ
ス) 安曇川駅(約10km) 健脚向 電
話申込制(一ヶ月前から) 参加費
4000円(バス代含む)(申込
先) 江若交通本社077(573)
2701

▽比良連峰アタック「約懸岳・ナ
ガオ尾根」 5月11日(日)小雨決行
(集合) 出町柳駅コンコース8時
15分、9時15分(コース) 出町柳
駅(バス) 朽木物生→ホトラ山→
ササ峠道出合→柳生道出合→イ
ワタ峠→約懸岳→(ナガオ)→広
谷出合→イブキのコーバ→八雲ヶ
原→山上駅(ロープウェイ・リフ
ト) 山麓駅(バス) JR比良駅
(約8.5km) 健脚向 参加自由・
参加費大人2600円小人130
0円(往復バス代・ロープウェイ・
リフト代含む)、京阪電鉄ハイキ
ング担当06(6947) 370

2
▽こうじやくMtハイキング「新
緑の養生ヲナ原生林散策」 5月
22日(日)雨天中止(集合)
JR安曇川駅9時(コース) 安曇
川駅(バス) 生杉→三峰峠→杉尾
峠→生杉(バス) 安曇川駅(約13
km) 中級向 電話申込制(一ヶ月前

から) 参加費4000円(バス代
含む)(申込先) 江若交通本社0
77(573) 2701

▽スポンニチファミリハイク「上
醍醐から若間寺へ」 5月25日(日)
小南決行(集合) 醍醐寺三寶院前
9時30分、10時(コース) 醍醐寺
三寶院前→女人堂→不動の滝→上
醍醐→准胝堂→開山堂→西笠取→
(東海自然歩道)→東笠取→清滝
宮→(東海自然歩道)→岩間山正
法寺→岩間寺(バス) 石山寺(約
12km) 中級向 参加自由・無料(バ
ス代別途、京阪電鉄ハイキング
担当06(6947) 3702

▽比良連峰アタック「広谷・武奈
ヶ岳」 6月8日(日)小雨決行(集
合) JR近江高島駅9時、10時
(コース) 近江高島駅(バス) ガ
リバー青少年旅行村→八瀬の滝大
橋跡→広谷出合→スケ原→細川越
→武奈ヶ岳→イブキのコーバ→八
雲ヶ原→山上駅(ロープウェイ・
リフト) 山麓駅(バス) 比良駅
(約8.5km) 健脚向 参加自由・参加
費大人2000円小人1000円
(往復バス代・ロープウェイ・リ
フト代含む)、京阪電鉄ハイキン
グ担当06(6947) 3702

▽こうじやくMtハイキング「新

緑の蛇谷ヶ峰」 6月12日(雨)雨天中止(集合) JR近江高島駅9時(コース) 近江高島駅(バス) 畑一ボボテ峠(蛇谷ヶ峰) グーリーパーク想いの森(ペー) 安曇川駅(約10分) 電話申込制(2ヶ月前から) 参加費2000円(バス代含む) (申込先) 江若交通本社077(573) 270

1

▽スポニチファミリィハイイク「鞍馬・天ヶ岳」 6月15日(雨)小雨決行(集合) 鞍馬駅9時30分(10時) (コース) 鞍馬駅-栗平坂-三角点-三又岳-天ヶ岳-百井峠-扶桑橋-くらま温泉-鞍馬駅(約12分) 中級回) 参加自由・無料、京都電鉄ハイキング担当06(6947) 3702

京都バス・比良ロープウェイ
▽フラワー・ウォッチング「比良のホンシヤクナゲ」 5月1日(雨)雨天中止(4月23日休) 4月26日(日) 出町柳駅(集合) 比良リフト山麓駅10時5分(コース) 山麓駅(リフト) シヤカ岳駅周辺(ロープウェイ) 山上駅-八雲温泉-奥の深谷(源流) 一八雲ヶ原-山上駅(ロープウェイ・リフト) 山

麓駅(約2.5時間) 電話申込制(2ヶ月前から) 定員各日共30名 参加費25000円(ロープウェイ・リフト代含む) (申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

▽ネイチャー・トレッキング「ジャクナゲ鑑賞」 5月2日(雨) 7日(休) 10日(雨) 雨天中止(集合) JR比良駅8時45分(コース) 比良駅(バス) 山麓駅(リフト・ロープウェイ) 山上駅(当日コース発表・見頃の群生遊) 中級回(ロープウェイ・リフト) 山麓駅(バス) JR比良駅(約5分) 中級回) 電話申込制(2ヶ月前から) 各日共定員120名 参加費26000円(申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

▽京都北山三角点トレック「近江今津の武家ヶ嶽」 5月3日(雨)雨天中止(集合) 出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 角川生活読書センター-赤岩三角点-武家ヶ嶽-赤岩三角点-石田川ダム(バス) 出町柳駅(約8分) 健脚回) 電話申込制(2ヶ月前から) 定員200名 参加費無料(バス代別途) (申込先) 京都バス運輸部営業課075

(871) 7521・7522

▽京都北山三角点トレック「蓬萊山・権現山」 5月10日(出) 17日(雨) 雨天中止(集合) 出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 坂下-小女郎峠-蓬萊山-小女郎峠-ホツケ山-権現山-アラキ峠-平(バス) 出町柳駅(約10分) 健脚回) 電話申込制(2ヶ月前から) 各日共定員200名 参加費無料(バス代別途) (申込先) 京都バス運輸部営業課075(871) 7521・7522

▽フラワー・ウォッチング「新緑に映えるドウタンツツジ」 5月19日(雨) 21日(休) 29日(休) 30日(雨) 雨天中止(集合) 比良リフト山麓駅10時5分(コース) 山麓駅(リフト・ロープウェイ) 山上駅-八雲温泉-カラ岳-シヤカ岳駅(リフト) 山麓駅(約3分) 一般回) 電話申込制(2ヶ月前から) 各日共定員30名 参加費22000円(ロープウェイ・リフト代含む) (申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

▽ネイチャー・トレッキング「新緑のフナ林」 6月5日(雨) 7日

(出) 11日(雨) 雨天中止(集合) JR比良駅8時45分(コース) 比良駅(バス) 山麓駅(リフト) 奥の深谷-コヤマノ岳-武家ヶ岳-イブツキのコーバ-八雲ヶ原-山上駅(ロープウェイ・リフト) 山麓駅(バス) 比良駅(約6分) 中級回) 電話申込制(2ヶ月前から) 各日共定員120名 参加費26000円(申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

6

▽京都北山三角点トレック「雲洞谷山」 6月7日(出) 14日(雨) 雨天中止(中止のときは6月28日(出)に延期) (集合) 出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 朽木学校前-明護峠-東山-行者山-雲洞谷山-大彦峠-鷹ヶ峰-桑野橋(バス) 出町柳駅(約10分) 健脚回) 電話申込制(2ヶ月前から) 各日共定員200名 参加費無料(バス代別途) (申込先) 京都バス運輸部営業課075(871) 7521・7522

▽山陽電車

イベントを楽しむハイイク」 5月11日(雨) 雨天中止(集合) 江井ヶ島駅下車(住吉公園) 10時(コース) 江井ヶ島海岸-見渡港-東一見橋-明石海岸公園-アサヒ飲料イベント会場-東一見駅(約10分) 家族回) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(73) 2520

▽山陽ハイキング「菩提山と英賀神社を訪ねるハイイク」 5月25日(雨) 雨天中止(集合) 手柄駅下車(北西0.5) 手柄山中央公園) 10時(コース) 手柄山中央公園-法輪寺-荒川神社-本徳寺別院-菩提園主神社広場-英賀神社-夢前川駅(約1分) 健脚回) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(73) 2520

▽山陽ハイキング「世界の梅公園・梅ちぎりを楽しむハイイク」 6月8日(雨) 雨天中止(集合) 山陽網干駅下車(指保川河川敷左岸) 10時(コース) 指保川河川敷-王子橋-山陽寺-春日神社-世界の梅公園(梅ちぎりを有) 龍門寺-山陽網干駅(約14分) 一般回) 参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078(73) 2520

▽山陽ハイキング「垂水・史跡め

くり」 6月22日(雨) 雨天中止(集合) 西舞子駅下車(北0.2) 大蔵山遺跡公園) 10時(コース) 大蔵山遺跡公園-多聞寺-舞子墓園-五色塚古墳-霞ヶ丘駅(約9分) 家族回) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(73) 2520

▽神戸電鉄
▽神鉄ハイキング「金剛堂子山回遊ハイイク」 5月3日(雨) 雨天中止(集合) 大池駅(大池駅北) 10時20分(コース) 大池駅-天下辻-黒甲越-金剛堂子山-鯉ノ手池-旧線走路-大池駅(約9分) 家族回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

▽木曜ハイイク「三木山森林公園ウォーク」 5月15日(雨) 雨天中止(集合) 三木駅10時10分(コース) 三木山森林公園-東バサイドパーク-三木山森林公園-東バサイドパーク(約9分) 一般回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(596) 24611

▽駅長ハイイク「再度公園ハイイク」 5月18日(雨) 雨天中止(集合) 北鈴蘭台駅10時35分(コース) 北鈴蘭台駅-牛の背-再度公園-河川林道

1

▽山田道-谷上駅(約10分) 一般回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(596) 461

▽神鉄ハイキング「双子山・摩耶山ハイイク」 5月25日(雨) 雨天中止(集合) 花山駅9時10分(コース) 花山駅-双子山-まむし谷-シエール道-摩耶ロープウェイ山上駅(約8分) 健脚回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

▽木曜ハイイク「長坂山・藍那古道ハイイク」 5月29日(雨) 雨天中止(集合) 藍那駅(藍那小学校前) 10時(コース) 藍那駅-長坂山-六條八幡宮-藍那古道-藍那駅(約12分) 一般回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(596) 4611

▽神鉄ハイキング「地獄谷・鹿の子温泉ハイイク」 6月8日(雨) 雨天中止(集合) 大池駅9時40分(コース) 大池駅-地獄谷-ノースロード-シューラインロード-からの湯-唐櫃台駅(約10分) 健脚回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

▽木曜ハイイク「ほたる見ウォーク」 6月12日(雨) 雨天中止(集合) 田尾

寺駅17時(コース) 田尾寺駅-有馬川-岡部駅(約8分) 一般回) 懐中電灯必携) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(596) 4611

▽駅長ハイイク「キリンピアパーク神戸ハイイク」 6月14日(雨) 雨天中止(集合) 神鉄道場駅10時5分(コース) 道場駅-太陽と緑の道-天狗石-光山寺-キリンピアパーク神戸-フラワータウン駅(約13分) 一般回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(596) 4611

▽神鉄ハイキング「森林植物園あじさいハイイク」 6月29日(雨) 雨天中止(集合) 鈴蘭台駅10時30分(コース) 鈴蘭台駅-水源池-鶴巻北谷-再度公園-学習の森-森林植物園(入園自由・有料) 山田道-谷上駅(約10分) 家族回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

「これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。」

あやふさび

題字・小林玻璃三

昨年11月、ニュージールランド山行に参加した。
走っても走っても延々と続く牧場で、羊の群れがのんびりと寝そべったり草を齧っていた。柵の外に出て戯れている子羊がバスの接近に驚き、あわてて逃げる姿はなんとあどけなく可愛い。

また、大きな湖をいくつ走り続けても建物はなく、街になかなかたどり着かない。ニュージールランドの広さを感じた。
ハイキングはクイーンズタウンのワカティブ湖畔のホテルからバスで出発し、「ルートバントラック」に入る。うっそうと生い繁る銀ブナの原生林を通り、いまにも妖精が飛び出すのでは

ザーに踏みつけられ倒れていたのを見たことであった。業者に注意したら、見えなかった知らなかつたという返事が返ってきたのであろう。無知といえはそれまでだが、工事を発注する側にも責任の一端がある。何が自然保護か!と言いたい。
これから先、目先のことだけを考えてやる事業は淘汰の対象になるはず。どなた様も、くれぐれも心されんことを願うのである。(姫路市 須磨岡 輯)

昨年末、青春18きっぷで姫路まで日帰りの旅をしました。
未だかつて、北は北海道や東北、南は四国・九州にも足を踏み入れたことがなく、人も驚くほど行動範囲の狭い私は、近江八幡あたりから列車の窓越しに見るかす雪嶺(比良山地か?)の輝きに胸をときめかせ、神戸を過ぎて山肌を埋め尽くす里山の光景に目をシロクロさせていました。
ふだん、自然観察山行に関西から多くの方々に参加していただいてますが、そんな会員の方々

ないかと思われ、まるで不思議の国に来ているようだった。
やがて雪を被った山々の大パノラマが開け、落差800mのイヤーランド滝の下を水しぶきを浴びながら進む。その日はエミリービークを投影させるマッケンギー湖畔のロッジに泊まる。山小屋といえ、全てが清潔で綺麗なのには感心した。

次の日は、グーラン山脈を眺めながら山上のハリス湖や氷河に削られたU字谷を通り、楽しみにしていたマウントクックリリーの花も見る事ができた。
2泊目のルートバン・フォールズ小屋で、夕日に照らされ黄金色に光る山々や暮れゆく森の静寂さに触れ、この世とかけ離

とはちょうど逆な形で、岐阜から米原へ、そして米原から姫路へと、JR新快速に乗車したのです。
そもそも新快速の長旅は初めての体験であり、列車は滋賀県内ではいくつもの駅に停車するのにも、京都府内では山科と京都の二つだけ、大阪府内では高槻・新大阪・大阪の三駅だけと知って驚きましたが、そんなことがなぜかわけもなく新鮮に思えたりしたのである。

復路の京都や大阪あたりでは、列車が駅に停車するたびに懐かしさに包まれ、妙に胸をドキドキさせながら、プラットホームにだれかの姿をさがし求めるような、そんな気持ちにもなりました。
私にとって、関西は、いわば「恋人の暮らす街」なのかもしれません。(各務原市 鷺見守康)

2002年末の山行
①富士見ヶ原(3866m)
鳥岳の南にある桜峠を登り、勢和村に入る直前を右折、一番上の駐車場まで車で一気に

れた別世界にいるような感覚であった。
3日目は、エメラルド色に輝く溪谷の流れにそって、いくつもの長い吊橋を渡り、シルバードリームの森を歩いた。
まだまだ残された大自然のすばらしさを堪能できた今回のニュージールランドの旅であった。(京都市 前田幸子)

去年の晩秋、用事があってスキーのメッカである但馬のハチ高原へ出かけた。
天気がよかったので、ついでにせられて、身軽な服装で鉢伏山頂へ登ることにした。

途中、小学校高学年の子どもたちといっしょになり、励まし合い無事頂上に立つ。ここはいつ立っても晴々とした気分にならない。わけは、スキーリフトが山頂を取り囲んで眺望を遮っているからである。今もスキーリフトの建設中である。山肌は赤茶けた地肌が見え、いつ回復するの不安になる荒れようである。
今回、一番心を痛めたのは、山頂の三角点が無残にもブルドー

登った(もつと西からの山道もある?)。
整備された遊歩道を10分も登ると、立派な展望台に立てる。正面には大きく尾根を上げた鳥岳、西には局と栗の木の端正な姿があり、東は海を越えて富士山が望めることもあるそうだ。

斜面にはツツジが群生し、花の時期はさぞやと思われた。
②天山(3038m)
「てんざん」というらしい。近江富士花緑公園の植物園駐車場から山を目指す。すぐ右手の橋を渡り、小道を登っていくと、迷いそうな所もなく、展望岩に着く。琵琶湖がよく見える。稜線を南へ進み、T字路を左折すると、すぐ三角点山頂に出た。狭いが、岩の間から赤松が数本立つのみで、四方の展望がよかった。

帰りに立ち寄った植物園には、バラ園やさまざまな樹形のコニファー等があり、冬枯れのなかでもけっこう楽しめた。(松阪市 森木伸人)

山行短歌
1月2日 淡路論鶴羽山

○新ハイ関西サービステーション

<p>名鉄・二岐登山 小白山・大白山 子・原山への縦走基地 1名でも最寄り駅送迎可(要予約) 露天風呂と内湯</p> <p>福島・二岐温泉 日観連 大和館</p> <p>〒952-0621 福島県南相馬市天栄村二岐温泉 02448-8481 27021 02448-8481 27021</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石湖山・ハリモミ林)</p> <p>三田山の麓 ペンション コットンテール</p> <p>〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555-6518515</p>	<p>本館・中館・中館から尾根分岐点 御室・岩屋敷あり JR中央線山梨駅下車タクシー10分 バス20分登山口下車徒歩15分</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒404-0022 山梨県山梨市上野原 0553-133-4635 (山小屋) 030-14179215</p>	<p>尾瀬 平ヶ岳探勝と釣りの山小屋 緑後三沢川温泉公園内</p> <p>清四郎 小屋 ほんもの手作り湯と売店は 樹 海</p> <p>〒946-0000 新潟県北魚沼郡湯沢町湯沢 0255-810028 期間外(11月4月)は 02579-1215026</p>
---	---	--	--

<p>ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ 百名山を二つ登れる山小屋</p> <p>黒沢池 ヒュッテ</p> <p>〒949-2100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉 0255-1812261</p>	<p>休憩屋食入浴も歓迎 10名以上マイクروبスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉 福 島 館</p> <p>〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 0460-419041</p>	<p>四季織りなす乗鞍高原のハイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日観連</p> <p>温泉旅館 けやき山荘</p> <p>〒390-1500 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 0263-9312555</p>	<p>さわやか信州 霧大風呂 山吹の湯 湯田中温泉(穂波)</p> <p>日野屋旅館</p> <p>〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波 0269-333578</p>
--	--	---	--

折たたり自転車を積み島へ渡る
四駆より急げ花の海辺まで
1月7日 京滋音羽山
何処より舞い降りて来し白鳥か
春告ぐ使者か山を染める雪
1月16日 淡路灘黒岩水仙舞
海を見ていた君が突然消え去り
水仙に生まれ変わったのだね
1月19日 金剛山鞍取坂
山雪のかたなの銀河鉄道に乗り
失踪のカムパネルラ連れ戻せ
1月25日 久重連峰久住山
星の海を消ぎ目指し来た我等へ
希望そのもの白き峰光る
1月25日 久重連峰中岳
氷結の御池を渡り雪原越え
見定めるべき祖国求めたく
2月4日 金剛山妙見谷
氷柱裂き奔る水流よ我が過去の
汚濁をすべてめぐい流せよ
2月6日 河内金剛山
君に燦めく山の樹水をあげよう
愛しき躰へばくにくくさい
2月9日 鈴鹿入道ヶ岳
吹き荒れる頂の風なせ俺を責め
カールの雲谷へ突き落とす
2月14日 鈴鹿御在所岳
雪と水の岩よ俺をつつんでくれ
逃じ果たせざる浮樹の身を
2月18日 台高高見山

霧水はかなく林より消えゆけば
われらも流離の旅を始める
(吹田市 木村太郎)
山行短歌
1月5日 押立山
目に追いつく湖東平野と比良びわ湖
近江の國大バノラマが
1月12日 鶴向山
くされ雪文三ハゲの急斜面
見上げる尾根は笹の緑が
目の前はイブネ雨乞雪を乗せ
すぐに行きたいあの雪原へ
ヒップスキープナの木軍着りおり
静寂の園日だまりのなか
1月19日 鈴北岳・茶野
空は牙え大バノラマの絶景に
伊吹霊仙白く輝き
深い雪鈴北岳と鈴ヶ岳
茶野も真つ白銀の旅
1月19日 能登ヶ峰
盛り上がる笹の雪原鹿の群れ
ビューと一声雪けちらして
牙えわたる冬の静寂雪原の
アセビも凍り雪底張り出し
2月2日 霊仙山・西南尾根
山眠り雪のふとは輝いて
銀のひたいはさらに輝き

天空の雪の回廊樹水吹き
雪底の尾根は地吹雪舞って
2月16日 希望ヶ丘山系
冬枯れの霧雨の中さまよって
歓喜の出会いマンサクの花
2月23日 霊仙山
日溜まりの春一番はセツブンソウ
墓地の妖精可憐に咲いて
(近江八幡市 岩野 明)
雨の日、「殿田」の三角点探
訪に出かけた。龍王ヶ岳には神
吉盆地の西端の農道を行き、溜
め池まで車を入れる。水面は雨
にむせびヒスイ色をしていて寄
る辺もない美しさだ。
枯れスキの広い林道がヒノ
キの植林に変わると道がなくな
る。ともかくコンパスを頼りに
真一文字にやぶを突き上げると
水平道に出て、行くと下り始め
る。しかたない、道二無二に駆
け上がり、けもの道をたどると、
3等三角点龍王ヶ岳498・7
点名・鎌谷に出た。
山頂からまじしな道があり、下
山はやぶ道からヒノキの植林、
枯れスキの道に出た。こちら
が一般道だが、取付きにはテ-

アも踏み跡もなかった。
車移動中、4等115・2点、
点名・日置を得る。
筏森山は、その昔、亀岡盆地
が湖だった頃は島で、筏や船を
つないだという。灯籠や鳥居が
あり、歓喜天、文化1年と彫っ
てある。奥の院が筏森神社で神
が在(おわ)す神域だ。3等筏
森山295・0点、点名・新庄
はすぐ見つかった。
もときた道を戻り、文覚池か
らは雨に洗われた竹林が鶯色一
色で、幻想的な雰囲気をもし
出す。厚い落ち葉を踏みしめな
がら丹念に山肌をぬって行くと、
城山城址北峰コンタ1230点
で室町期の将、井上某(官名・
治郎)の本丸跡という。南にく
だり、鞍部から登り返すと4等
城山221・9点、点名・山室
だ。
本日は雨で全く展望は得られ
なかったが、三角点を四つ得て、
歓喜にむせびながら帰った。
(向日市 湯浅康夫)

グンコウバイと木々の花も咲き
始めるが、今年はシヤクナゲの
当たり年なので期待している。
昨年3月中旬の自然観察会で
は実に60種の開花と、昨年の
結果が見られた。ここが特別な
場所だからだろう。同じ頃高室
山周辺では20種余の花が見られ
たにすぎなかったのだから。
昨年4月、鈴鹿で初見の花が
あり、その名は「ヒメイチゲ」。
今年は6月に「ベニバナイチヤ
クソウ」と「トガクソウ」を
見に長野県の戸隠へ行く計画だ
が、はたして見られるだろうか?
霊仙山などで幻の花を探して
いる人がいる。私も見ていない
が、その花の名は「オキナグサ」。
昔、写真に撮った人がいるから
(写真は見ている)昔はあった
のである。
私も探して見たいと思ってい
る花の一つでもある。
(南濃町 山田明男)

びてキラキラと輝き、ネコヤナ
ギは花穂が膨らみ、フキノトウ
までが顔を出していた。
自然林に入るとブナの枝に霧
水がかすかな光を放っていた
(これはひょっとしたら見られ
るかも)。
期待を新たにしたり時、下って
きた登山者が「頂上はきれい
ですよ」と言ってくれた。登り尾
峰あたりからそれは少しずつ増
えてきた。気持ちの高ぶりを感
じつつ、なおも登っていくと澄
みきつた青空の下に予想をはる
かに越えた霧水のトンネルが続
いていた。
見上げればヒメシヤラの枝先
に、ツツジは幾本もの小枝に、
ミズナラには厚めにしっかりと、
葉を落としたクマザサまでも
びっしりと凍りついてきた。
折からの強風に氷片が音を立
てて降ってきたが、見渡す霧
水の豊かさはいささかも変わる
ことはなかった。言葉すべてを
失ってしまう。しばらくは清々
しい白銀の世界に陶醉してしま
っていた。
霧水林今日好日と言ふ日なり
(生駒市 井上久子)

八ヶ岳南麓北線走の中心地
59年秋新館増築完成全館個室
木の香気新浴室誕生水湯
オーレン小 1泊2食付き 6000円
4月末・11月末開設
茅野市豊登2723 小車勇夫
電話 0266672112799
北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー
J茅野駅・北八ヶ岳登山口ま
で送迎します
茅野高原
ブチホテル カナール
〒391-0301
茅野市北上茅野高原丸平55
13の1
電話 026666712258
日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒391-04100
長野県信州戸隠ヶ原
電話 0266125412081
日本唯一の女人禁制の山「大
羊山」(百名山)の登山口
種村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の聖
旅館 紀の国屋 甚八
1泊2食付 7,000円から
〒63810431
奈良県吉野郡天川村河川
電話 074761410309

標高2000m 温泉上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCSキー
高 峰 温 泉
〒38410000
長野県小諸市高峰高原
電話 0266712520000
ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯温泉平床下車
電話 026913412421
東京本社・東京都新宿区新宿3
12015(新光第2ビル)
朝スポーツサービス
電話 031334110211
梅池高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て送迎します
スノーシュー&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴィヴアルディ
〒399-0301
長野県北安曇郡白馬村美濃高原
電話 026117217255
http://www.vivaldi.jp/~vivaldi/
塩の道 千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランチエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電話 026117214452

昭文社の2002年版のハイキング地図では、「六甲・摩耶」が全面改訂された。しかし、期待された2002年版には、不正確な表示があり、修正が必要であった。

筆者は、旗振り山の調査過程で得た、金鳥山や須磨アルプスの調査資料を「六甲・摩耶」の調査執筆者に知らせてみた。2002年版に見られた、金鳥山付近の不自然なルート表示を全面改訂して、2003年版に盛り込んでもらうことができたのは喜ばしいことであった。位置確認のための重要性を強調したこともあって、送電線ルートも追加された。打越山付近の登山ルートは一新しているが、須磨アルプスのほうは踏査ができなかったため、改訂が間に合わず、ローマ字で「つがおやま」の表記が残り、東山の位置や高取山付近のルート表示も不十分なのは残念なことである。2004年版での改訂を期待したい。

「比良山系」2002年版に不備が見えることは、本誌67号のコースガイド「見張山と城山」で述べたとおりである。本誌43号の随想で述べたように八洲の滝の自然石に刻んだ文字が「八洲」でなく「八徳」であること、本誌50号で述べたように「ボボフダ峰」はおもしろいけれど出典不明のあやふやな呼称であった元々の名は「須川峰」と呼ぶことの二点は、折にふれて指摘されながら、旧来の表記にこだわるためか、今まで登山地図類には正式に採用されたことがなかった。

今回、2003年版において筆者の指摘(主に角倉太郎、中井一郎、山本武人の著作と高島町役場の資料、筆者の現地調査に基づく)によって、近江高島駅の位置の修正、城山台の表示の追加、見張山への登山道の修正、「山王谷」「見張谷」「岳観音堂跡」「湯水谷川」「山崎川」「だき岩谷」「引尾谷」「坂畑谷」「天冠山」「八王子」「オウム岩」「嘉嶺ヶ岳」「新兵衛谷」「須川峠」「荒谷峠」「横谷峠」「笹峠」「神樂谷」「八雲池」「イオウハゲ」「コバ」「中シヤ」「イオウハゲ」「金尾羅峠」の表記への改訂が行われ、裏面の解説では、鶴川石仏の二体が昭和62年に盗まれた

て、現在は三十三体であることが追加されている。さらに、冊子の本文では、自然石の文字を従来「八洲」と読むとされてきたのを「八徳」と読むように示された。流の図で、カヤクラ谷とあって登山地図と食い違っていたのも、カヤクラ谷に訂正されている。2003年版の冊子の「おわりに」にある「大阪のS」というのが、だれのことなのか、もう、おわかりであろう。

九州の最高峰・日本百名山宮之浦岳に一番近い宿
 屋久島安房町安房
 〒891-4311
 099741613021

歴久島グリーンホテル
 〒891-4311
 099741613021

御在所登山に
 愛知川溪谷沢歩きに
 山好き仲間集う宿
 朝明溪谷 朝明茶屋
 山小屋
 〒510-1251
 三重県三重郡菟野町千草
 059319311789

那岐山麓の滝近くは百名山の火山
 二百名山の水ノ山・上野山などあり
 三百名山 那岐山のふもと
 岡山県 那岐山荘
 〒708-11307
 岡山県勝田郡奈義町高岡
 086813614154

鳥町では「ダキワ谷」と呼ばれており、現地での表記に変更すべきではない版では、デジタル化されて、紙面も一新されるらしいので、併せて修正を望みたい。(寝屋川市 柴田昭彦)

山行計画 (5・6月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申し込み先にお断りください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)
 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
 入院保険金 50000円
 通院保険金 25000円
 日額 25000円

(記入例)
 (往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
 (会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
 (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

鈴鹿を歩く167
 倉骨山・高堂山新ルート
 期日 4月29日(日) 日帰り
 集合 306号線佐目トンネル西口広場8時30分
 コース トンネル西口広場(車)トンネル東口広場→倉骨山→高堂山→佐目広場(解散)

費用 交通費各自
 地図 昭文社「霧仙・伊吹・藤原」
 係 若野 明 ○山田景三
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行

306号線から倉骨山に直接登ります。高堂山周辺の春の花を見ながら散策します。雨天中止

奈良・園見山(一般向き)
 期日 5月1日(日) 日帰り
 集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②JR奈良駅10時10分
 コース 奈良駅(バス) 田原横田一日吉神社一塔の森石塔一園見山一春日宮神社一

山行例会の実施について
 山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込み込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提としています。

(初心者回) やさしいコース
 (初級回) どなたでも歩けます
 (一般回) ハイキングの標準コース
 (中級回) かなり経験者のコース
 (やや健脚回) (健脚回) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

矢田原口(バス)近鉄・JR奈良駅(解散15時20分頃)
費用 約6060円(名古屋から)

地図 2万5千=大和白石
係 ②小出良春
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

本誌51号に紹介されている山で、奈良市・天理市の最高峰の山です。塔の森から園見山の縦走路はすばらしいと思うのですが、三角点がないのであまり知られていない山です。雨天中止

ファミリーハイク24
鈴鹿・鎌ヶ岳(一般向き)

期日 5月1日(木) 日帰り
集合 新大阪駅1階正面構内7時00分

コース 新大阪駅(バス)御在所山の家前→三ツ口谷→尾根取付→鎌ヶ岳→武平峠→峠道→御在所岳→武平峠(バス) かもしか温泉→新大阪駅(解散)
費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ②木村太郎 ○中村友昭
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 5月3日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口7時30分/②JR米原駅北陸線ホーム9時00分
コース 米原駅(電車) 虎姫駅→矢合神社→虎御前山→矢合神社→虎姫駅(電車) 河瀬駅→ウォークラリーCコース→荒神山→向Bコース→河瀬駅(解散15時頃)

費用 約2990円(名古屋から)

地図 2万5千=能登川・虎御前山
係 ②小出良春
申込み 610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
虎御前山は戦国時代に織田信長が越前朝倉攻めに失敗し、柿川合戦が始まるときに最初に本陣を置いた山です。荒神山は大阪の米相場の旗振山といわれています。
*電車の移動なので荒神山は自由参加です。雨天中止

地図 寝み山行56
六甲・ころころ岩(一般向き)

期日 5月3日(日) 日帰り
集合 阪急普賢川駅前広場9時00分
コース 普賢川駅→柿谷→四ツ目岩→ころころ岩→奥池→観音山→鷲林寺→北山貯水池→北山公園→甲陽園駅(解散)

費用 約1200円(大阪から)
地図 2万5千=西宮・宝塚
昭文社「六甲・摩耶・有馬」
係 ②塚元一彦 ○中村 登
申込み 536-0008
大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで

*定員30名
新ハイキング関西支部合同山行
六甲山はミツバツツジが満開です。地形図とコンパスの使い方を学習しながらのんびりと歩きます。シルバー型コンパスを持参ください。雨天中止

鈴鹿百山43
割山・不老堂(健脚向き)

期日 5月5日(日) 日帰り
集合 ①三岐鉄道大安駅8時20分/②紅葉尾神崎橋9時20分

コース 大安駅(車) 茶屋川林道分岐→尾根→1等基準点→割山→不老堂→2等基準点→神崎橋(車) 大安駅(解散)
費用 交通費各自(車代1000円)
地図 2万5千=御在所山・竜ヶ岳
係 ②山田明男 ○高原芳彦
申込み 503-0535
海津郡南濃町松山624の19 山田明男まで
*マイカーで参加の方はその旨記入ください
*集合地を明記ください

シャクナゲは今年当たり年です。もう咲いているでしょうか。雨天中止

三重の山67
南紀・子ノ泊山(一般向き)

期日 5月10日(土)11日(日) 1泊2日

集合 (10日)海山町「道の駅海山」9時30分
コース (10日)道の駅海山(車) 紀宝町林道浅里・桐原線の登山口→子ノ泊山→往復→登山口(車) 湯の口温泉(泊)
費用 約10000円(宿泊代) 信で案内します
*交通費各自
地図 2万5千=大里
係 ②尾崎英五 ○稲垣逸夫
申込み 519-10311
鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで
*マイカー山行
*4月25日まで
紀宝町の名山です。山頂は広く展望良好。日帰り参加もOKです。宿泊希望の方は必ずその旨記入ください。雨天中止

比良を歩く22
武奈ヶ岳・コヤマノ岳からシャクナゲ山

期日 5月11日(日) 日帰り
集合 JR比良駅8時45分(47分発バス乗車)

コース 比良駅(バス) 比良リフト前山麓駅(リフト) シャカ岳駅→大津ワンゲル道出合→シャカ岳→比良ロッジ横→八雲小屋→リフト終点降り場→縦走路出合→武奈ヶ岳→縦走路出合→コヤマノ岳→シャクナゲ山→金堂峠→青ガレー→大山口→イン谷口(バス) 比良駅(解散17時頃)
費用 約3000円(京都から)
地図 2万5千=比良山・北小
昭文社「比良山系」
係 ②秦 康夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
気象状況によっては、シャカ岳をカットする場合があります(本誌58号参照)。雨天中止

鈴鹿を歩く168
水舟の池新ルート(健脚向き)

期日 5月11日(日) 日帰り
集合 421号線佐目小谷入口広場8時00分

コース 佐目小谷広場→佐目小谷→拝坂尻→門川→風穴谷→ハチノス谷→水舟の池→大峠→獅子ヶ口西峰→旧大峠→天狗岩→ハチノス谷→佐目小谷→広場
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ②岩野 明 ○山田景三
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
ハチノス谷と水舟の池周辺は植林の下刈りと間伐が終わり、お金明神の参道が一部歩けるようになった。佐目小谷は何回か渡渉します。雨天中止

コース 桜井駅(バス) 談山神社→西大門→電在峠→細峠→大峠分岐→三津峠→電門ヶ岳→竜門の滝→山口(バス) 大和上市駅(解散16時04分)

費用 約5200円(名古屋から)
地図 2万5千=新子・古市場
係 ②小出良春
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
談山神社の伽藍や竜門の滝など見所はありますが、細峠あたりで倒木もあり、年々コースが悪くなってきています。まだ歩いていない方はこのコースを一度歩いてみませんか。竜門ヶ岳は一等三角点の山です。雨天中止

吉野・竜門ヶ岳(やや健脚向き)
期日 5月11日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄・JR桜井駅バスのりば9時20分

近畿百名山に登る(第56回)
鈴鹿・鳥帽子岳(中級向き)
期日 5月11日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口閉体バスのりば7時40分
コース 京都駅(バス) 時山橋→鳥帽子岳→三國岳→鞍掛峠→鞍掛トンネル東口

(バス) 京都駅(解放18時30分頃)
費用 約4000円(バス代)
地図 昭文社「雲仙・伊吹・藤原」
係 ◎村田智俊 ○呉比裕美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

谷を渡り尾根を何度も越えて鳥帽子岳に登頂し、コブをいくつも越えて三國岳に縦走する変化のあるコースです。小雨決行

平日ふれあいハイク38
湖西・大御影山(一般向き)
期日 5月13日(火) 日帰り
集合 J.R.近江今津駅8時45分
コース 近江今津駅(バスかタクシ)ピラデスト合津
町境尾根-林道出合-津
境尾根-大御影山(往
路)-ピラデスト今津
(バスかタクシ)-近江
今津駅(解放16時30分頃)
費用 約4000円(京都か)
地図 2万5千ニ熊川
係 ◎寺井恒夫 ○川上久堅
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
野坂山地の最高峰(950・1
び)でありながら地形図上に山名
がない山です。「熊川」図の右上
隅ギリギリの所にあり、長くてゆっ
たりした尾根歩きが楽しめる。
雨天中止

紀東・三石山から一徳坊山
(一般向き)
期日 5月15日(木) 日帰り
集合 南海紀伊郡駅9時10分
コース 紀伊郡駅-冷谷-三石山
-横尾江-五ツ辻-兼松
-一日野(バス)-河内長野
駅(解放17時頃)
費用 約1500円(難波駅か
ら)
地図 昭文社「金剛山・岩湧
山」
係 ◎西上利和 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名
ロングコースですが、さほどき
つい登りはありません。新緑と眺
望を楽しみながらのんびりと縦走
します。雨天中止

ファミリィハイク25
紀北・矢香岳(一般向き)
期日 5月15日(木) 日帰り
集合 新大阪駅1階止面構内7
時00分
コース 新大阪駅(バス)小釜本
橋-遊歩道入口-鷺ノ川
-滝-木橋-矢香岳-小
釜本橋(バス)中津温泉
-新大阪駅(解放)
費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千ニ川原河
係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(会員に限る)
シャクナゲが群生する清冷山脈
の名峰に登る。楊途中津温泉「あ
やめの湯」に立ち寄る。雨天中止

自然観察山行118
中信・高ボッチ(初級向き)
期日 5月16日(金)夜17日(土)
前後発日帰り
集合 (16日)J.R.岐阜駅23時
00分
コース (16日)岐阜駅(バス)
(17日)高ボッチ
チ高原駐車場-高ボッチ

横峰-鉢伏山-横峰-
高原駐車場(バス)岐阜
駅(解放)
*帰路に浴衣予定
約9000円(岐阜駅か
らバス・資料代等)
地図 昭文社「美ヶ原・霧ヶ
峰」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員24名
*4月30日まで

湖北・安蔵山(健脚向き)
期日 5月17日(土) 日帰り
集合 国道365号線中之郷余
呉町牧場前8時30分
コース 中之郷(車)田戸-奥川
並川-南尾根-安蔵山
(往復)中之郷
費用 交通費各自
地図 2万5千ニ中河内
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*マイカー山行

山頂にあった観音堂も田戸集落
廃村に伴い荒れに下ろされ、その
後は登る人のない忘れられた山。
中腹以上はずばらしいブナ林です。
やぶ漕ぎあり。雨天中止

三河・常葉山から舟着山
(一般向き)
期日 5月18日(日) 日帰り
集合 ①J.R.名古屋駅中央改札
口7時00分②J.R.豊橋
駅飯田線ホーム8時10分
コース 豊橋駅(電車)本長篠駅
(タクシ)-東竹ノ輪-
清瀬不動明王-常葉山-
松山峠-舟着山-西尾根
-林道-三河東郷駅(電
車)名古屋駅(解放16時
52分)
費用 約3670円(名古屋か
ら)
地図 2万5千ニ三河富岡
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
昭文社「県別ガイド」の④と⑤

新ハイキング関西まで
東播磨・千ヶ峰(一般向き)

を結んで歩きます。人にはあまり
出会わない山だと思いますが、縦
走路はずばらしい。雨天中止

期日 5月18日(日) 日帰り
集合 J.R.西明石駅西口改札付
近7時40分
コース 西明石駅(バス)新田-
市原峠-千ヶ峰-岩屋神
(バス)西明石駅(解放
18時頃)
費用 約4500円(バス代)
地図 2万5千ニ丹波和田・生
野
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上684
の33-17A403
古賀慶一まで
播州にはいくつかの名峰があり
ますが、千ヶ峰もその一つです。
雨天中止

京都北山歩き108
白尾山(一般向き)
期日 5月18日(日) 日帰り
集合 京都駅八条口団体バスの
りば7時30分
コース 京都駅(バス)美山町か

新ハイキング関西まで
やぶきの里-本谷林道-
峠-白尾山-貫林林道-
内久保(バス)京都駅
(解放17時30分頃)
費用 約4000円(京都駅か
らバス代)
地図 昭文社「京都北山2」
係 ◎中西信行
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

北山でも奥の白尾山へ登ります。
山頂からの展望はよい。雨天中止

北山ちよつと歩き45
朽木・三國岳から経ヶ岳
(一般向き)
期日 5月21日(水) 日帰り
集合 京都駅八条口団体バスの
りば7時20分
コース 京都駅(バス)針畑川古
屋橋-保谷-岩谷峠-三
國峠-経ヶ岳-ベラ谷-
892峠-平良谷-平良
橋(バス)京都駅(解放)
費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千ニ古屋
係 ◎呉山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
全コース花の宝庫です。イワウ
チワなど見ながら楽しくゆっくり
歩きます。雨天中止

自然観察山行119
山梨・三ツ峠山と黒岳
(中級向き)
期日 5月23日(金)夜25日(日)
前後発1泊2日
集合 (23日)J.R.岐阜駅23時
00分
コース (23日)岐阜駅(バス)
(24日)(バス)三ツ峠
さくら公園-ゲルマ石-
三ツ峠山-葎山-天上市-
(ロープウェイ)河口湖
ペンション(宿)
(25日)ペンション(バ
ス)天下茶屋-御坂山-
御坂峠-黒岳-御坂峠-
三ツ峠入口(バス)岐阜
駅(解放)*帰路に浴衣
予定
費用 約25000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 昭文社「富士・富士五
湖」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員24名
*4月21日まで

2000名山の三ツ峠山と御坂山塊の最高峰黒岳を歩きます。富士山展望の縦走路です。雨天決行(コース変更あり)

奥美濃・大日ヶ岳(初級向き)
期日 5月24日(日) 日帰り
集合 J.R.大津駅8時00分
コース 大津駅(バス) ウィングヒルスキー場(リフト)
水後山→大日ヶ岳→前大日ヶ岳→ダイナランドスキー場(バス) 大津駅
(解散19時30分)

費用 約9000円(バス・リフト代等)
地図 2万5千・石徹白
係 ◎妻籠弘子 ○加藤元彦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

リフトで登り、歩行は3時間半。前回は山頂付近の草原でカモシカが出現してくれました。雨天決行

小浜・久須夜ヶ岳(一般向き)
期日 5月24日(日) 日帰り
集合 小浜市役所9時00分
コース エンゼルライン頂上まで車で移動、先に蘇洞門へ下り、蘇洞門で昼食後登り返す。

費用 交通費各自
地図 2万5千・銘崎
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

雨天決行
マイカー山行
週末ハイイク49
比良・鳥谷山から打見山(一般向き)

期日 5月24日(日) 日帰り
集合 J.R.志賀駅8時50分
コース 志賀駅→荒川峠→鳥谷山→比良岳→打見山→クロトノハゲ→志賀駅(解散17時頃)

費用 約2600円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
比良縦走コースを流川峠から打見山まで歩き、ベンドウダンを歩きます。雨天中止

鈴鹿を歩く169
雨乞岳・七人山(登脚向き)
期日 5月25日(日) 日帰り
集合 477号線武平峠西広場8時00分
コース 武平峠→茨谷→郡境尾根→次谷峠→P967→イナノコバ→雨乞岳→七人山→次谷→茨谷→武平峠(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ◎岩野 明 ○山田基三
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ブナの新緑を求めて雨乞岳の東イナノコバ、人寄りのコバ、七人山を巡ります。雨天中止

南山城・鷲峰山(一般向き)
期日 5月25日(日) 日帰り
集合 ①J.R.名古屋駅中央改札

口6時15分/②J.R.宇治駅バスのりば9時10分
宇治駅(バス) 椎中前→信西入道塚→金部寺→鷲峰山→湯屋谷→雄中前(バス) J.R.京阪宇治駅(解散16時頃)

費用 約5680円(名古屋から)
地図 2万5千・宇治
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

行場巡りはしません。鷲峰山は1等三角点の山です。雨天中止

中国自然歩道5
鳥取・船上山(中級向き)
期日 5月31日(土) 6月1日(日) 1泊2日
集合 ①J.R.三ノ宮駅中央改札付近9時40分
②J.R.三ノ宮駅(バス) 一向平→大山滝(バス) 船上山青少年センター(泊)
①日 青少年センター(早立ち) 船上山→甲

前夜発日帰り
集合 ⑥日 J.R.岐阜駅23時00分
コース ⑥日 岐阜駅(バス) ⑦日(バス) 八鳥湿原入口→鏡ヶ池→物見岩→蝶々深山→車山→車山肩(バス) 岐阜駅(解散)
*帰路に浴衣予定

山一宝珠尾根→大山寺(バス) 三ノ宮駅(解散20時頃)
費用 約14000円(三ノ宮駅からバス・宿泊代等)
地図 2万5千・船上山・伯耆大山
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112 加古川市平岡町山の上684の33・17A03
古賀慶一まで
*定員22名(会費に限る)
*5月6日まで

大山東部の山々を船上山からたどります。雨天決行

地図 船山から飯盛山
生駒・生駒山から飯盛山
期日 6月1日(日) 日帰り
集合 近鉄生駒駅9時00分
コース 生駒駅→宝山寺→生駒山→室池→飯盛山→野崎親音→J.R.野崎駅(解散)

費用 約8000円(大阪から)
地図 2万5千・生駒山
係 ◎塚元一彦 ○中村 登
申込み 〒536-0008 大阪市城東区関目4の14

の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
*5月25日まで

新ハイキング関西支店会同山行
雨の季節が始まる前に地形図とコンパスの使い方を勉強しませんか。大阪市内を見下ろしながら、稜線の散歩を楽しみます。シルバーストコンパスをご持参ください。雨天中止

紀東・三石山(一般向き)
期日 6月1日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②南海紀見峠駅10時50分
コース 紀見峠駅→高山森林公園→山ノ神→三差路→三石山→杉村公園→御幸辻駅(解散)

費用 約5500円(名古屋から)
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ガイドブックで見るよりも実際

に歩いてみると自然林につつまれたいい山だと感じました。雨天中止

ファミリーハイイク26
倶馬・水ノ山(一般向き)
期日 6月5日(日) 日帰り
集合 新大阪駅→陸上自衛隊構内7時00分
コース 新大阪駅(バス) 水ノ山
国際スキー場ロッジ前→東尾根登山口→神大ヒッコリー→水ノ山→水ノ山峠→地蔵堂→親水公園(バス) 新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地図 昭文社「水ノ山・鉢伏・神鏡」
係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*定員35名(会費に限る)
単独行で知られた加藤文太郎の愛した山へ。ドワンツツジが見事な東尾根を登る。雨天中止

自然観察山行120
中宿・霧ヶ峰(初級向き)
期日 6月6日(日) 日帰り

花と展望を遊覧できる高原散歩のパートIIです。雨天決行(コース変更あり)
*定員24名
*5月10日まで

京鶴西山・ボンボン山(一般向き)
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 ①J.R.名古屋駅中央改札口6時55分/②J.R.高槻駅南出口9時50分
コース 高槻駅(バス) 川久保→

〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

高槻駅(バス) 川久保→

川久保尾根一駅通一橋
ンボン山一本山寺一神峰
山寺一神峰山口(バス)
高槻駅(解散)
費用 約5450円(名古屋か
ら)

地図 2万5千 高槻・法貴・
京都西南部
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

名古原からは一度は歩いてみた
いと思うボンボン山。川久保尾根
から登って行きます。雨天中止

鈴鹿百山44
駒ヶ岳・猫岳・羽鳥峰・金山
駅通一橋
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時40
分

コース 湯の山温泉駅(車)朝明
駐車場一庵炭谷一松尾尾
根の頭一三ノ角点一猫岳一
羽鳥峰一羽鳥峰一金山
一中峠一朝明駐車場(車)
湯の山温泉駅(解散)

費用 交通費各自(車代500
円)

2万5千 御在所山
◎山田明男 ◎高尾芳彦
申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで

*マイカーで参加の方は
その旨(記入)ください
ドウダン等の木々の花は咲いて
いるでしょう。雨天中止

宮本武蔵が越した釜坂を歩く
(一般向き)
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 JR上高野ホーム10時10
分

コース 上郡駅(電車)智頭線宮
本武蔵駅一宮本一釜坂一
中山一白ノ谷一延吉一平
福駅(解散17時頃) *約
14分

費用 交通費各自
地図 2万5千 古町・佐用・
土方
係 ◎須磨岡 輯
申込み 〒671-1262
姫路市余部区上余部50の
2の11 須磨岡 輯まで
武蔵の足跡を追って岡山から兵
庫へ。雨天決行

鈴鹿を歩く170
能登ヶ峰(健脚向き)
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 大河原「かもしか荘」広
場8時30分

コース かもしか荘(車)城川林
道広場一林道一北尾根取
付一P758一P6996
一鹿の楽園一能登ヶ峰一
城川林道広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ウツギ・タニウツギ・アシビ等
の咲き乱れる能登ヶ峰の草原をの
んびりと歩きます。雨天中止
比良を歩く23
細川から武奈ヶ岳(一般向き)
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時45分

パノラマの因見山へ縦走します。
小雨決行

タイトレ③
紀泉・紀見峠から横尾山
(一般向き)
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 南海紀見峠駅9時10分

コース 紀見峠駅一紀見峠一三合
目一根ヶ崎一岩湧山一滝
畑ダム一ボテ峠一横尾山
一横尾山バス停(バス)
和泉中央駅(解散18時20
分)

費用 約1800円(難波駅か
ら)

地図 昭文社「金剛山・岩湧
山」(紀泉高原)

係 ◎西上利和 ◎中村英雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ダイヤモンドトレイル第二回
紀見峠から雄大な展望の岩湧山へ
登り、金剛山を眺めてから横尾
山を目指します。雨天中止

美濃・百々ヶ峰(一般向き)
期日 6月15日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札

口8時15分/②JR岐阜
駅8時46分
岐阜駅一名鉄新岐阜駅
(電車) 岩田駅一千鳥橋
一白山神社一長良川展望
台一松尾峰一龍現山一白々
ヶ峰一西峰一すわ神社一
下岩崎(バス)名鉄・J
R岐阜駅(解散15時頃)

費用 約590円(岐阜駅から)

地図 2万5千 岐阜北部

係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
百々ヶ峰は長良川右岸にある山
ですが、岐阜市内の山とは信じら
れないほど豊かな自然につつまれ
ています。関西からでも集合時間
間に合います。雨天中止

近畿百名山に登る(第58回)
丹波・長老ヶ岳(一般向き)
期日 6月15日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば8時00分

コース 京都駅(バス) 仏主一七
色の木一仏主峠一長老ヶ
岳一北東尾根一東屋一辰

望台一林間広場一仏主
(バス) 京都駅(解散17
時頃)

費用 約4000円(京都駅か
らバス代)

地図 2万5千 和知・鳥
◎村田智俊 ◎安倉止勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

1等三角点の長老ヶ岳に登頂し
ます。森林ふれあいロードができ
て周回コースを歩きます。小雨決行

自然観察山行121
東信・四阿山と浅間山(重畳山
道) (一般向き)
期日 6月20日(日) 22日(日)
前夜発1泊2日

集合 (20日) JR岐阜駅23時
00分
コース (20日) 岐阜駅(バス)
(21日) (バス) 北軽井
沢ペンション(朝食・バス)
鳥居峠一花童子の宮
跡一四阿山一根子岳一菅
平牧場(バス) 北軽井沢
ペンション(泊)
(22日) ペンション(バ
ス) 東坂峠一トミノ頭

谷一栗谷(バス) 近江高
島駅(解散)
費用 約3700円(京都から)
地図 2万5千 北小松
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新緑の細川尾根を歩きます(本
誌51号参照)。雨天中止

近畿百名山に登る(第57回)
室生・住塚山(一般向き)
期日 6月8日(日) 日帰り
集合 近鉄名張駅8時40分

コース 名張駅(バス) 長野一屏
風岩公苑一住塚山一ゼニ
ヤクワ一因見山一クマタ
ワ一清浄坊法谷一白樺橋
(バス) 名張駅(解散16
時30分頃)

費用 約5000円(大阪か)
地図 昭文社「赤目・俱利伽
羅高原」
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
屏風岩から住塚山に登頂し、大

黒班山一トミノ頭一
車坂峠(バス) 岐阜駅
(解散) *帰路に浴食子
定

費用 約26000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社「軽井沢・浅間」
◎吉野高原・草津

申込み 〒504-10828
各務原市藤原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員24名
*5月10日まで

ハイカーに人気の高い名峰を歩
きます。浅間山は現在頂上までは
行けません。雨天決行(コース変
更あり)

敦賀・三方ヶ岳(一般向き)
期日 6月21日(日) 日帰り
集合 国道8号線滋賀県福井県
境・ドライブイン孫兵衛
9時00分

コース 林道をつめ、三角点大師
走からやぶの尾根を三方
ヶ岳へ往復。

費用 交通費各自
地図 2万5千 木之本
◎高島伸浩

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

雨天決行

鈴鹿を歩く17-1

ヒキノ・旭山・岳

(やや健脚向き)

期日 6月22日(日) 日帰り

集合 421号線黄和田発車所

コース 東広場8時00分

黄和田広場(重) 小又谷

林道広場ノタノ坂ヒ

キノ旭山ノ神峠

岳黄和田(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「霊仙・伊吹・

藤原」

係 ◎岩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

御池岳から南にのびる長大な尾

根の送電巡視路をのんびりと歩き

ます。雨天中止

摂津・最勝ヶ峰から天上ヶ岳

(一般向き)

期日 6月22日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口6時15分②JR茨木

駅前阪急バスのりば③番

9時15分

コース 茨木駅(バス)新家・外

院根根・勝尾寺・最勝ヶ

峰ヒジターセンター

天上ヶ岳よりうらら台園

地・養父谷出合・阪急箕

面駅(解散17時頃)

費用 約6000円(名古屋か

ら)

地図 2万5千・伊丹・広根

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

勝尾寺に行く外院根根は歩きや

すい道です。東海自然歩道の西の

起点から役行者産像がある天上ヶ

岳に行きます。雨天中止

北山ちよっと歩き46

大尾山から横川中堂(一般向き)

期日 6月25日(日) 日帰り

集合 大原バス停9時30分

コース 大原川追谷・勝院院

音無滝・大尾山・仰木峠

横川中堂・横高峠・登

山口バス停(解散)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎奥山繁三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

大原から大尾山に登り、横川中

堂を目指して尾根道を歩きます。

雨天中止

京都北山・朝日峰から峰山

(一般向き)

期日 6月29日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口6時15分②JR京都

駅前JRバスのりば③番

8時55分

コース 京都駅(バス)高雄・浪

切不動尊・松尾峠・朝日

峰・峰山・梅ノ尾(バス)

京都駅(解散16時30分頃)

費用 約5300円(名古屋か

ら)

地図 2万5千・京都西北部・

周山

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

京都観光名所の高雄からササの

山、朝日峰に行きます。雨天中止

近畿百名山に登る(第59回)

比良・蛇谷ヶ峰(中級向き)

期日 6月29日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時40分

コース 京都駅(バス)野街道

地蔵山・ヨコタノ峠・ポ

ポフヶ峠・蛇谷ヶ峰・か

つら谷・いきものふれあ

い館・想い出の森(入浴・

バス)京都駅(解散18時

頃)

費用 約4000円(京都駅か

ら)

地図 昭文社「比良山系」

係 ◎村田智俊 ○奥比呂美

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

地蔵山から蛇谷ヶ峰へ縦走しま

す。下山後、朽木想い出の森の温

泉で入浴します。小南決行

山行報告

(1・2月号)

新ハイキングクラブ関西

比較・明王堂から靈登山

1月2日(日) 雪

(集合) 京阪松ノ馬場駅9・20

明王堂11・05 無動寺并天室11

20(昼食) 12・00 桜茶屋12・47

夢見ヶ丘13・26 靈登山14・05

15 崇福寺15・00 滋賀の大仏

15・15 百穴古墳15・19 吉原阪

賀里駅15・35(解散)

雪の比較山を歩いた。無動寺并

天室では温かいカス汁と御酒がふ

るまわっていた。靈登山はやぶ山

で枝に積った雪をたつき落とさな

がら山頂に登った。

(参加者) 吉條孝次 桂 久美子

岩城敏子 朽名生右 序 すみ子

中村英雄 藤崎流石 中村恵美子

山口敬弘 前田幸子 宮村孝次郎

和田直樹 川田洋子 岩本いすゞ

松本 博 水谷陽子 伊藤恵美子

藤本桂吉 光川一孝子

中尾美智子 渡辺美代子

○宮下淳一 ○小山良春(計23名)

新年会山行

丹波・櫛ヶ岳

1月4日(日) 晴れ時々雪

(集合) JR京都駅八条口8・30

(バス) 丹波町南谷9・15 30

峠10・15 櫛ヶ岳10・30(乾林)

11・00 峠11・15 宮代12・00

(バス) るり溪温泉13・00(入浴)

14・00(新年会) 15・50(バス)

京都駅18・00(解散)

十一支の未年の山頂に立って今

年の山行の無事を祈った。るり溪

温泉で入浴後、和やかに新年会を

開催していると、大雪になったの

で早目に切り上げて帰路につい

た。

(参加者) 片山克博 片山喜代子

若林文夫 竹田善英 小谷和子

田中善雄 堀野香織 中村佳津子

角田一江 佐野信江 金谷 昭

松井菊子 長沢佑美 岩崎健司

谷川俊一 村井寿和 久保田 茂

加藤文彦 福岡 章 林 陽子

辻村幸裕 石原順次 野里マツ代

磯野重治 岩野孝子 河原美代子

塚元一彦 青木一雄 中嶋日出男

占部信廣 速水 保 仲谷礼司

松尾一郎 中谷孝子 ○安倉上勝

◎村田智俊 (計39名)

油日岳・三国岳(鈴鹿百山38)

1月5日(日) 晴れ

(集合) JR柘植駅8・30 新余

野公園8・45 55 奥境尾根・油

日岳10・00 10 加茂岳 忍若岳

1 三国岳10・50 鳥不越峠11・05

1 不動谷 三馬溪谷取付東麓11・

45(昼食) 12・20 新余野公園12・

35 ノソ峠13・00 尾根分岐14・

00 旗山14・15 巡視路・東海自

然歩道15・05 柘植駅15・20(解

散)

ポトルの水が凍ってしまふほど

に一日中寒かった。予定コースだ

と半日だったので昼から旗山まで

歩いた。油日岳と三国岳間の山は

加茂岳と忍若岳と呼ぶようだ。

(参加者) 藤堂国男 細野欽也

池田隆一 吉村 昭 原 幸子

原 光一 西村文男 山村基男

日野憲一 日野照代 蓮井洋子

木下朝子 本間 隆 石田高教

吉條孝次 栗橋崇吉 栗橋智子

池田 茂 春見重美 伊藤恵美子

小田妙子 小川 実 中尾喜久江

◎高原嘉彦 ○山田明男(計22名)

押立山(三千峰)

(鈴鹿を歩く159)

1月5日(日) 晴れ

(集合) 愛東町道の駅8・10(重)

坂本神社8・25 押立山林道登山

口9・25 峠10・15 押立山10・

45 山腹11・00(昼食) 12・00

林道12・35 坂本神社13・45(解

散)

新春登山の押立山は水急下に冷

えこみ、雪山への登りはもぐるこ

となく一気に稜線に登る。眼下に

湖東平野と琵琶湖、そして比良山

系を展望した。山頂は展望がなく

寒いので中腹までくたて昼にし

た。林道の日だまりでゆっくりし

て楽しいひとときを過ごした。

(参加者) 後藤康幸 松上美代子

磯部 純 湯浅康夫 湯浅みや子

服部 亮 大石将美 奥野太一郎

永戸鉄治 榎方由子 北村つねみ

今井武司 榎田勝利 山本恵美子

杉山能久 谷 守 網木美恵子

金谷 昭 小松志信 ○山田景三

◎岩野 明 (計21名)

北嶺・有馬富士

1月5日(日) くもり

(集合) JR三田駅10・32 40

(バス) 花山院11・20 東光山()

11・35 土冠の森12・05 車ヶ

12・37(昼食) 13・10 有馬富

士13・24 30 桐島大池14・00

新三田駅14・40(解散)

バスを降りてから長い参道の琴引坂を登ると花山院に着いた。花山院から4等の山にも登った。風が強く寒かったが、有馬富士では地図を広げて周囲の山々を一つずつ確認していった。

(参加者) 谷川俊一 野々山 寛 藤木桂吉 黒河内東洋明 若林文夫 森 晴代 岡本美千子 市野博文 多賀久子 宮下淳一 川田洋子 松本 博 巻田 晃 岩本健一 岩本彩子 ○福岡 章 ◎小出良春 (計17名)

スノーシューイング
上信越・飯綱山と戸隠森林公園
1月11日(日)13日(日)
前夜発1泊2日
(11日)集合 J R岐阜駅23・00(バス)
(12日)くもり時々晴れ(バス)戸隠村ペンション6・00(朝食)8・00(バス)戸隠スキー場駐車場9・00(リフト)馬環山9・20(飯綱山11・05)30(飯綱山11・40)12・30(馬環山13・15)スキー場初心者ゲレンデ14・00(バス)スキー場駐車場15・00(バス)

戸隠神社中社参拝(バスペンション16・00(泊))

(13日)晴れ ペンション7・40(バス)戸隠森林植物園駐車場8・00(森林植物園散策)駐車場10・00(バス)戸隠神社の湯10・20(入浴)昼食12・00(バス)岐阜駅17・30(解散)

飯綱山は積雪が多くて急斜面のラッセルに男陣陣が奮闘し、スノーシューで全員が発頂できた。13日は快晴に恵まれ、キラキラとグレイヤモンドのように輝く雪原で、絵のような戸隠連峰の雪頂を仰ぎながら動物のフィールドサインを観察した。

(参加者) 石田賢二 荻野美紀恵 近江秀子 川島敬也 砂原重美子 木村光江 多田陽子 中上紀代子 田辺弘子 島居信吾 林 えい子 仲谷和司 夏山登子 船本裕日子 村井寿和 森本淳子 山縣勝美 横井恭子 ○横井 徹 ○奥井幸生 ◎警員守康(計31名)

紀州・白馬山と清冷山

(近畿百名山に登る第49回)
1月12日(日)13日(日) 1泊2日
(12日)晴れ(集合)近鉄上本町駅8・00(バス)吉備インター

2日間共冬晴れに恵まれて山頂でゆっくりつろぐことができた。白馬山は林道が山頂付近まで上がっており、楽々コース。長畝越道を下山したが、古道らしいユリ道で快適だった。清冷山もよく踏まれた登山道で歩きやすかった。美山温泉のぬるめゆるめアルカリ温泉は肌心地よく、「ぼたん鍋」もおいしかった。

(参加者) 上田久子 猪狩美枝子 小谷和子 松尾麗子 中嶋日出男 吉條孝次 三井敏一 宮西和子 石川 敏 塩尻香織 佐野信江

角田一江 篠原英明 篠原義子 松村雅子 長沢佑美 村田はる江 青藤哲子 松井菊子 河原美代子 首木一雄 ○奥比松河美 (計23名)

1月12日(日) 晴れ
(集合) J R姫路駅ホーム8・13(バス)福崎駅8・43(バス)板坂9・35(バス)鉄塔10・00(バス)3等三角点10・40(鉄塔山12・05(休憩))12・25(青少年センター)下降点分岐12・55(林道)13・30(青少年センター)13・40(新年会)15・55(バス)福崎駅16・05(バス)解散

枯木平からの展望がよかった。薬師山から無事に下山後、みんなで協力して隊汗をつくる。大鍋を薪で炊き上げ、大変い味にできた。

(参加者) 竹田善英 宮村孝次郎 秋田楠徳 宮下淳一 松上美代子 岩城豊子 森 瑞代 前田喜久子 栗橋崇吉 栗橋君子 岡田重美子 森本 勝 多賀久子 草野智穂子 柳川常雄 石田高教 河本美千子 河本英機 東山澄夫 中島 隆

岩福健司 馬籠忠男 竹田博美 加藤元彦 松井明忠 野里マツ代 岩田育士 三輪直文 福淵 章 ○岡田 昇 ○古賀慶二(計31名)

西神戸・雄岡山から雄岡山
1月12日(日) 晴れ
(集合) 神鉄緑ヶ丘駅10・40(雄岡山11・04)大血池11・30(雄岡山11・55)昼食12・30(樺石神社)樺石神社12・45(愛宕山13・11)緑ヶ丘駅14・00(電車)神鉄新開地駅14・55(解散)

簡単な山だが、雄岡山が一等三角点の山なので思ったより多くの参加者があった。好天気に恵まれて元気に歩き、樺石神社・樺石神社の男女和合の御神体を見ることができた。

(参加者) 岡本光江 岡本美千子 安藤幹代 若林文夫 石田真由美 小林 稔 水戸鉄治 武部美美子 稲本芳雄 巻田 晃 渡辺美代子 中村英雄 岩本彩子 近藤さとみ 朽名生石 藤野重治 小田穂子 中村静香 藤木桂吉 飯田良子 佐々木三千代 ○市野博文 ◎小出良春 (計23名)

淡路・論鶴羽山と瀬黒岩水仙郷 (ファミリーハイク20)
(集合) 新大阪駅8・00(バス) 論鶴羽山10・25(論鶴羽山古道登山口)10・50(神倉神社)11・15(論鶴羽山頂)12・10(昼食)12・50(論鶴羽神社)13・00(瀬黒岩水仙郷)14・15(バス)ゆいぶる温泉15・30(入浴)16・30(バス)新大阪駅19・00(解散)

論鶴羽ダムが堰堤工事中で遊歩道を一周して登山道に取りつく。山頂は風もなく、1等三角点からの眺めを楽しんだ。元熊野の論鶴羽神社へよい年になるようお参りし、下山道に自生した水仙のそばでひと休み。水仙郷では見頃の花の群落が堪能できた。

予想外に積雪は少なかつたものの、シカ・ウサギ・キツネ・タヌキ・テンの足跡、糞、食痕、魚研ぎ跡などのフィールドサインを観察した。昼食時は好評の「春子鍋」。今回はすき焼きで体が暖まった。

(参加者) 馬籠忠男 近藤 恭 若林文夫 市野博文 平塚明美 内田康夫 佐野信江 武部美美子 朽名生石 仲谷和司 森 美香子 本間 隆 入江武史 吉戸喜久江 湯井洋子 楠原良彦 小塚きぬ子 岡 伸弘 岡 菊江 伊東サナ子 大谷豊子 川島勝美 牧 和夫 ◎妻籠弘子 (計24名)

尾根10・40―鈴北岳11・35―口の
平12・10(昼食)12・50―鈴ヶ岳
13・30―鈴ヶ岳14・35―大岩ヶ畑16・
00―広場16・20(解散)

巡検隊の付からずキャンピングでのラッ
セルが続いた。鞍掛尾根―鈴北岳
―鈴ヶ岳―茶野へと雄大な白銀の
世界と大パノラマを十二分に楽し
んだ。

(参加者) 後藤康幸 松下美代子
山田明男 木下朝子 奥野太郎
照部 飛 永谷鉄治 吉村 昭
今井武司 原 光一 原 幸子
野田勝利 谷 守 三上伸夫
磯部 純 谷 久雄 鈴木 浩
鈴木友子 金谷 昭 友田美保子
友田 毅 緒方由子 加納由紀子
武村千鶴 丹下由子 伊藤恵美子
杉山能久 池田繁美 網木美恵子
小林 実 湯浅康夫 白木やす子
白木良弘 炭田明美 石田真由美
○山田三三 ◎岩野 明(計37名)

北摂・三草山

1月19日(日) くもりのち雨
(集合) 能勢電鉄山下駅10・20
28(バス) 森上10・48―岐尾神社
10・56―慈眼寺11・16―オノ神峠
11・56―三草山12・16(昼食)13・
00―大蔵神社13・55―日生中央駅

15・10(解散)
天気が下り坂で他のサークルも
見えず、バスでは全員登って森上
まで行けた。オノ神峠には旅人の
安全を願ってお地蔵様があった。
ゼフィルスの森から雨が降り出し
たが、小南だったので日生中央駅
まで気にならずに歩けた。

(参加者) 森 瑞代 木村 豊
三井敏一 石原順次 稲本芳雄
本添至夫 小森東治 岡本美子子
岩城豊子 山根弘美 渡辺美代子
西居俊弥 西居裕子 中尾美智子
実重正子 岩崎健司 岩本彰子
森澤恵子 ○宮下淳一
○美村孝治 ◎小山良春(計17名)

京都北山

愛宕山南麓根から八丁尾根
(平日ふれあいハイク36)

1月21日(日) 晴れ
(集合) JRR保津駅8・30―40
1月21日(日) 晴れ
1こめかい道出合9・50―水尾岐
れ―愛宕山神社社務所11・20(昼
食)12・10―首無地蔵―八丁尾根
―清滝川石橋15・00―清滝バス停
15・35(解散)
樹木も雪をかぶり、新雪を踏み
しめて歩いた。社務所周辺は森閑
として暗く、雪が風に舞う景色は

別世界のようだった。首無地蔵あ
たりは広く伐採され、昔日の面影
はなかった。

(参加者) 木下朝子 井上由紀晴
尾崎光子 宮崎美智 大須賀 實
谷 守 西條良彦 西村耕一
柳川常雄 山縣勝美 栗橋君子
仲谷礼司 本間 隆 本間繁子
美村孝治 菅生幸子 小川晴美
岩本彰子 榎 照司 榎 美奈子
○川上久登 ○吉核孝次
○寺井恒夫 (計41名)

山科・音羽山から岩間寺

1月23日(日) ◎金谷 昭
*雨天のため中止しました。

1月25日(日) 晴れ
(集合) 伊勢道玉城インター出口
8・00―10(車)相賀浦8・50―
9・05―祠9・40―局ヶ頂11・05
(昼食)11・55―相賀浦13・40
(解散)

途中やや風が強かったが、頂上
は風、天候に恵まれ、伊勢の海、
五ヶ所河の展望を満喫。土産はサ
ン・マジ・イワシの丸干し、イ
ン・カマスの開き等。

(参加者) 伊藤剛男 平 龍一
平 幸子 永谷鉄治 岡本美子子
臨田和洋 森 晴代 石田真由美
池田繁美 高橋正人 市川雄康
富水順子 ○新野幸夫
○稲垣逸夫 ◎尾崎英五(計19名)

奈良・大和三山

1月26日(日) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅9・30
―40―橿原神宮9・50―叡徳山10・
26―神武天皇陵11・13―本薬師寺
跡11・46―香久山12・20(昼食)
13・00―藤原宮跡13・30―40―耳
成山14・20―30―近鉄大和八木駅
15・00(解散)
近鉄「てくてくマップ」を見な
がら大和三山をめぐった。神武天
皇陵や藤原宮跡、その他多くの史
跡を見ることができた。
(参加者) 徳田暢子 小林 昇
本添至夫 前田幸子 永富律子
杉本 高 石田豊美 加藤佳彦
下村啓三 下村啓子 保田 正
牧 和夫 小杉 浩 廣果 邦

鈴木輝雄 鈴木敏子 白根清子
辻 行子 小田潤子 巻田 晃
土井 茂 中島 隆 岩本いすゞ
加納芳洋 加納孝子 名倉マサ子
松尾健洋 松尾聡子 近藤さとみ
小林 桂 小林博子 山本博子
山上重隆 山上和代 中尾美智子
多賀久子 多賀周二 実重正子
森澤恵子 ○宮下淳一
○美村孝治 ◎小山良春(計17名)

竜ヶ岳から愛宕山

(京都北山歩き106)

1月26日(日) 晴れ
(集合) JRR京都駅正面口7・30
―45(バス) 清滝8・15―25―空
也の滝9・00―15―首無地蔵10・
50―龍の小滝11・00―15―竜ヶ岳
12・00(昼食)13・00―愛宕山三
角点14・00―15―愛宕山神社14・
30―15・00―水尾岐れ15・20―J
RR保津駅16・50―17・00(解散)
雪が多くて龍の小屋から水尾岐
れまでアイゼンを着けて歩いた。
風もなく、日当たりの昼食はゆっ
くりできた。
(参加者) 奥田則夫 古植 清
馬場昌盛 岩田育士 大須賀 實
川田洋子 船越利明 船越みよ子
山縣勝美 栗橋君子 原 みとえ

仲谷礼司 岩崎健司 杉山晴美
入江武史 田中 明 小村佳世子
武村千鶴 布施清美 中村佳津子
長田葉子 小林 隆 早川和男
川中 保 今村 悟 山口喜弘
谷川俊一 武部 剛 武部美美子
楠原良彦 佐野信江 堤 良男
渡谷節枝 森田和子 光川二美子
岩本健一 岩本彰子 中尾博子
中谷幸子 妹尾八代 深坂 寛
○森脇貞義 ○磯野重治
◎中西信行 (計44名)

東山・南禅寺から北白川城跡

(北山ちよと歩き41)

1月29日(日) くもり
(集合) 京阪三条駅9・00―取上
9・45―東山トレイル4210・35―
四辻分岐11・00―池の谷ワコル
ランド12・00(昼食)12・50―
北白川温泉前13・30―北白川城跡
瓜生山14・30―狸谷不動尊15・10
―一乗寺下り松15・30―40(解散)
寒い一日だったが、予定通り楽
しく歩いた。歴史の宝庫である京
都東山の山をめぐった。南禅寺の
駒ヶ滝は女の人が打たれると頭の
よい子どもが生まれるなどの説明
を忘れてしまった。
(参加者) 木下朝子 井上由紀晴

市野野文 山岸勝雄 原 みとえ

栗橋君子 岡田里子 野々山明美
本間 隆 本間繁子 波多野恵子
妹尾一正 中村 保 曾根ひろこ
木村 豊 湯浅康夫 湯浅みや子
石原君子 西 悦子 三上須美恵
長岡保江 辻 富子 猪村美枝子
谷 守 白附紀子 宮村孝次郎
吉澤孝次 小谷和子 砂原恵美子
速水 保 松尾順子 岩本いすゞ
中村英雄 赤松 敏 小野しげみ
岡崎知子 岩城豊子 鈴木恵美子
安良陽子 風見瑞子 鈴木恵美子
小川晴美 榎 照司 榎 美奈子
中谷幸子 杉本昌士 長沢佑美
平 幸子 菅生幸子 橋本 薫
竹田善英 藤田幸子 田中順子
白根清子 磯部 純 玉原 一
星野正弘 青木一雄 戸田タエ子
岩本彰子 ◎呉山繁三(計61名)

三河・石巻山から神石山

(自然観察山行109)

1月31日(日) 夜2月1日(日)
前夜発日帰り
(31日) くもり時々晴れ) JRR岐
阜駅23・30(バス)
(1日) 晴れ(バス) 石巻神社
6・00―45―石巻山7・10(朝食)
7・30―石巻神社7・45―大知波

峠8・35―50―多米峠9・45―50
―神石山10・30―40―普門寺11・
00―40(バス) 豊田ほつとかん13・
20(昼食)入浴 15・00(バス)
岐阜駅16・30(解散)

夜行日帰り方式という山行の第
一回目だったが、リーダーが集合
時間に遅れた(初めてのこ)ば
かりか、下山ルートを開進する
(たしか「一回目」のこと)という失
態を演じた。バスは時間調整のた
めに一般道を走り、あちこちで飯
吃。コースは見応えのある常緑樹
が続き、富士山は雲に隠れていた
ものの、石巻山や奥境後線からは
南アルプス・三河湾・浜名湖・遠
州灘の大展望を満喫した。
(参加者) 岩本彰子 萩野美穂恵
金森節子 川島豊美 小松志信
呉比佐美 実重正子 中尾和子
夏山春子 若松朝子 船本裕子
原 幸子 細野欽也 光川二美子
宮西和子 森 瑞代 森本淳子
若林文夫 ○島居信吾
◎鷺見守康 (計20名)

近江湖東・津田山から長命寺山

(週末ハイク46)

2月1日(日) 雪のちくもり
(集合) JRR近江八幡駅9・00―

10 (バス) 渡合9・25 若宮神社
9・35 45 林道終点10・15 25
ピーク348 17 周回 林道終点
11・10 巨岩広場11・35 (昼食)
12・30 津田山12・40 45 長命
寺山13・10 長命寺13・20 14
00 長命寺バス停14・20 44 (バ
ス) 八幡山ロープウェイ15・00
18 幡山15・30 16・00 登山口
16・20 17 近江八幡駅17・00 (解散)
滋賀県に入ると雪であった。若
宮神社から奥高山林道を10分ほど
歩き、新雪の小道を1周し、雪が
入った。津田山とピーク348の
の鞍部の林道から二手に分かれて
348峰を左右から一周し、雪が
やんだ津田山下の見晴らしのよ
い巨岩広場で昼食をとった。長命
寺山登山後は八幡山へ寄り道し、
北の丸広場から津田山や伊吹山、
鈴鹿山系の眺望を楽しんだ。
(参加者) 堀田輝子 井上由紀晴
岩田育士 三井 栗橋崇吉
栗橋君子 長尾節子 杉本 高
宮下淳一 入江武史 草野智雅子
秋田楠子 石田高教 井手利美
田中善雄 南 寛子 竹内喜久子
小林 桂 磯部 純 宮村孝次郎
村井寿和 佐野信江 中尾美智子
長田藤子 本落丞夫 角田一江

森 晴代 堀尻香織 青木一雄
仲谷礼司 小谷和子 谷 守
中谷孝子 山高義治 山多恵子
山縣勝美 竹田豊英 小坂さゆり
森澤昭子 ◎狩野東彦 (計41名)
奈良・高峰山
2月2日 雪
(集合) 近鉄・JR天理駅10・20
30 (バス) 国道福住10・50 高
峰山11・35 (昼食) 12・10 国道
五ヶ谷13・41 (バス) 天理駅13・
57 (解散)
トレースのない雪の山道を行く
と、すぐに高峰山に着いた。もう
山頂かと思うほどの山だったが、
マイナーで行く機会がない山なの
で満足された人もいた。
(参加者) 木村 豊 奥村清一
徳田暢子 山根弘美 野里マツ代
村端和子 荒木光雄 前川和佳子
井上久子 東村由美 小松さゆり
中島 隆 中村英雄 松田和恵
藤本佳吉 渡部和美 飯田良子
森 晴代 小林節子 森 美香子
中村啓子 中谷孝子 田中喜美江
本家洋子 永富律子 波多野恵子
棚田勝子 白根節子 高岡富美子
辻 行子 橋原良彦 朝倉雄雄
◎宮下淳一 ◎小出良春 (計23名)

高幡山・瀧平山・長石山・紅皿
山 (鈴鹿白山39)
2月2日 曇り一時雪
(集合) JR関駅8・00 (車) 鈴
鹿8・20 30 高幡山9・50
10 瀧平山10・30 11 長石山手
前坂道11・00 (昼食) 11・35 長
石山11・45 12 紅皿山12・00 15
不老谷林道12・55 13 10 坂下
峠14・00 坂下峠分岐14・40 (重)
鈴鹿峠15・00 (解散)
霧水が大変美しく、よく見ると
とても繊細で触れると落ちてしま
いそうなくらい。白雪が婦人にかっ
てに思っていました。(記録・
鈴木友子)
(参加者) 進井洋子 山野志保江
緒方由子 木下朝子 光川二美子
吉村 昭 山村恭男 佐治光江
鈴木 浩 鈴木友子 南 智恵子
谷 久雄 後藤康幸 武村千鶴
森崎貞義 三井 純一 西村文男
小林 稔 丹下由子 伊藤重美子
若林文夫 ◎高原秀彦 (計23名)
◎山田明男 (計23名)

河内・金剛山
(ファミリーハイク21)
2月6日 晴れ
(集合) 近鉄富田駅8・15 (バ
ス) 秋谷池入口9・55 秋谷
池広場10・05 20 縦走路・尾根
10・40 門柳コース合流11・35 1
白山11・47 (昼食) 12・38 妙見
山展望所13・32 妙見山13・50 1
峠・黒田道路岐14・10 常勝寺
15・15 35 (バス) 西明石駅17・
05 (解散)
白山からは視界がきいて明石海
峽大橋や小豆島などが見渡せた。
尾根道にはツツジが多く花期が業
しみである。笹路では猪捕りのワ
ナに獲先がはさまれるトラブルが
あったが、全員無事に下山した。
(参加者) 松尾麗子 宮村孝次郎
秋田楠子 上田久子 松上美代子
岩城豊子 森 瑞代 前田喜久子
栗橋崇吉 栗橋君子 岡田恵美子
森本 勝 森本淳子 平田輝美
小谷和子 原 文子 柳川常雄
渡辺節子 河本英機 河本美千子
角田一江 岩崎香織 桂 久美子
山田澄夫 岩崎豊子 野里マツ代
馬鹿山男 石浜節子 光川二美子
若田育士 松村雅子 田所真由子
竹田善英 竹田博美 八木八重子
石田高教 渡辺一雅 福岡 章

ス) 水分8・40 建水分神社8・
45 9・00 足谷林道分岐9・30
1 株塔散策9号10・10 株塔御坊
2 0 4号10・50 青崩道合流11・
40 1セト12・05 青崩道合流11・
(昼食) 13・30 1 ちはや園地内展
望台14・20 1 早ロープウェイ前
バス停15・10 (解散)
建水分神社を抜け、林道を通ぎ
て清らかな新雪の登山道に気分が
弾む。青崩道合流まで小動物の足
跡以外には踏み跡のない雪道を登
る。セト峠から園見城跡までのブ
ナ林、ダイレ道や展望台の周辺
等で、今冬最高レベルの美しい樹
氷が見られた。
(参加者) 松井明忠 高木忠夫
三浦幸幸 西條良彦 井上由紀晴
中江清剛 岩城豊子 本田久美子
加藤浩二 松村雅子 前川和佳子
岩本健二 岩本彩子 成川みさお
柏木孝子 中山善雄 千葉千枝子
渡部和美 松尾麗子 中尾美智子
二宮子 川上久登 桂尾一正
井上藤子 本間昭恵 中澤ちず子
若林文夫 増田治子 金藤千恵子
秋葉止人 永富律子 上田久子
市野博文 永富律子 ◎中村友昭
美村孝治 押本吉生 (計39名)
◎木村太郎 (計39名)

美濃・池田山
(自然観察山行100)
2月8日 晴れのちくもり
(集合) JR大垣駅8・40 (バス)
間宮ヶ浜9・15 30 トライプウェ
イ展望所10・45 11・00 池田の
森11・25 (昼食) 12・30 池田山
13・15 30 池田の森14・05 1ド
ライプウェイ展望所14・35 50 1
富岡ヶ浜15・25 40 (バス) 大野
温泉16・05 (入浴) 16・45 (バス)
大垣駅17・20 (解散)
まあまあの天候で登山道からは
瀧尾平野、養老・鈴鹿山地、御坂
恵那山、中ア、リニエール等) ン
した山頂からは白山、伊吹山や能
郷白山などの美濃の山の見晴らし
がきいた。積雪は予想外に少ない
ものの、雪上にシカ・カモシカ・
キツネ・テン・ウサギ・リスの足
跡などが観察できた。
(参加者) 石倉真佐子
岡田直規 金森節子 市井ユリエ
栗橋崇吉 栗橋君子 萩野美紀恵
中川美子 夏山春子 吉戸喜久江
平塚明也 深坂 寛 藤崎洗石
細野欽也 水谷陽子 光川二美子
宮本真幸 森本淳子 由田郁代
若林文夫 若松朝子 ◎狩野東彦
◎鷺見守康 (計24名)

宇治・くつわ池から天ヶ瀬ダム
2月9日 曇りくもり
(集合) JR宇治駅9・10 16
(バス) 緑ヶ丘9・30 16 石山10・
15 20 天ヶ瀬ダム11・13 25 1
天ヶ瀬吊橋11・40 (昼食) 12・20
1 仏徳山13・30 40 宇治上神社
14・00 平等院14・07 1 JR宇治
駅14・15 (解散)
六石山から天ヶ瀬に抜ける山道
は自然林のなか、落ち葉のサクサ
クとした足に優しい道だった。天
ヶ瀬ダム下の吊橋から仏徳山への
オアションコースは地元の中村英
雄さんに頼んで、リーダーの私は
宇治川を見ながら先に向かった。
(参加者) 藤原 邦 眞田久子
青木一雄 前田栄三 岡本美千子
山岸勝雄 中村英雄 岩本さゆり
鈴木敏子 鈴木輝雄 岸 すみ子
平敏英子 兼田幸子 山多恵子
白根節子 小野典子 加納由紀子
里田安代 大西研介 大西由希子
辻 行子 川上久登 横川ゆり子
河田清司 妹尾一正 今森慶子
山上和代 中村静香 小松志信
若林文夫 小田朝子 萩野美紀恵
◎宮下淳一 ◎市野博文
◎小出良春 (計35名)

横州・白山
2月9日 曇りくもり
(集合) JR西明石駅8・30 40
(バス) 秋谷池入口9・55 秋谷
池広場10・05 20 縦走路・尾根
10・40 門柳コース合流11・35 1
白山11・47 (昼食) 12・38 妙見
山展望所13・32 妙見山13・50 1
峠・黒田道路岐14・10 常勝寺
15・15 35 (バス) 西明石駅17・
05 (解散)
白山からは視界がきいて明石海
峽大橋や小豆島などが見渡せた。
尾根道にはツツジが多く花期が業
しみである。笹路では猪捕りのワ
ナに獲先がはさまれるトラブルが
あったが、全員無事に下山した。
(参加者) 松尾麗子 宮村孝次郎
秋田楠子 上田久子 松上美代子
岩城豊子 森 瑞代 前田喜久子
栗橋崇吉 栗橋君子 岡田恵美子
森本 勝 森本淳子 平田輝美
小谷和子 原 文子 柳川常雄
渡辺節子 河本英機 河本美千子
角田一江 岩崎香織 桂 久美子
山田澄夫 岩崎豊子 野里マツ代
馬鹿山男 石浜節子 光川二美子
若田育士 松村雅子 田所真由子
竹田善英 竹田博美 八木八重子
石田高教 渡辺一雅 福岡 章

○大和 結 ○岡田 昇
◎古賀慶一 (計41名)
樹氷の峰向山
(鈴鹿を歩く161)
2月9日 曇りくもり・霧
(集合) 熊野バス停8・30 文三
ハゲ10・00 水無尾根10・30 1 錦
向山11・00 1 水無尾根11・15 (昼食)
12・08 プナの木平12・40 1 杉林
12・50 (二次会) 13・20 1 塩道峠
13・50 1 滝山谷15・20 1 熊野15・
35 (解散)
文三ハゲ手前から雪が深くなり、
カンジキでのラッセル。水無尾根
から錦向山と北峰は強風と霧で感
望はなし。北峰の南斜面で昼食後、
北斜面をヒップスキーでプナの木
平に滑りおりたが、ここも深い霧
で幻想の世界。一気にくだった杉
林で焚火を囲んで二次会。楽しい
山行になった。
(参加者) 後藤康幸 奥野太一郎
日野恵一 日野光代 原 光一
原 幸子 佐治光江 武村千鶴
堀越武敏 鈴木 浩 鈴木友子
池田繁美 小林 稔 棚田勝利
小林 桂 谷 久雄 大石将美
谷 守 磯部 純 今井武司
永戸鉄治 炭田明美 石田真由美

— 105 —

杉山久友 友田 毅 友田美保子
池田隆一 白木良弘 白木やす子
小林 実 小林 修 山野志保江
高杉 博 ○山田景三
◎若野 明 (計35名)

台高・三峰山

(近畿百名山に登る第50回)
2月11日(日) くもり

(集合) 近鉄橋原駅 8・40〜45
(バス) 青少年旅行村 10・05〜20
1登り尾口 10・30 遺林小原分岐
12・00 三歌峠分岐 12・20 三峰山
12・30 (昼食) 13・20 八丁平
13・30 三歌峠分岐 13・40 遺林
小屋 13・50 不動滝林道 14・40
55 青少年旅行村 15・10 30 (バス)
橋原駅 16・30 (解散)

寒波がゆるんで時々日の差す暖かい日になり、期待の樹氷は全く見られない。大勢の登山者が集っていたが、樹氷のない三峰山はややものたりなかった。

(参加者) 栗橋崇吉 澤田高治
川田洋子 森 瑞代 湯口三郎
沖 伸 加藤浩二 小崎由利子
入江武史 田中善雄 野里マツ代
古山幸男 早川和男 松上美代子
村井寿和 山本博子 松尾一郎
小林 桂 小林博子 塩尻香織

徳谷礼司 井上恭子 狩野東彦
若林文夫 大東 哲 佐野信江
水原律子 磯野重治 水谷陽子
小谷和子 角田一江 中嶋日出男
美村孝治 谷川俊一 小崎かおり
◎呉比佐美 ◎村田智俊 (計37名)

金剛・旗尾岳から府斤山

2月13日(日) 晴れ

(集合) 南海大見駅 9・30 第一
鉄塔 10・10 旗尾岳 10・30 第三
鉄塔 11・30 (昼食) 12・30 府斤山
山 釜路 府斤山 13・10 田山 14・
40 クスギ峠 15・10 千早口 14・
45 (解散)

雪山を期待して遠方からの参加者がおられたが、終日、好天に恵まれおだやかな山行だった。

(参加者) 山縣勝美 木村千代子
木下朝子 竹田勝美 大和 絃
松尾麗子 塩尻香織 砂原重美子
古川裕子 中村 保 水本加津栄
藤井裕子 小松志信 中嶋日出男
小谷和子 加納由紀子
◎井上由紀晴 ◎西上利和 (計18名)

若狭・鏡山

2月15日(日) 晴れ
(集合) 上中町役場 9・30 (車)

三年野登山口 10・00 林道終点 10・
25 鏡山 11・10 (昼食) 12・30 一
登山口 13・25 (車) 国立若狭湾少
年自然の家 13・55 太陽の丘 14・
55 国立若狭湾少年自然の家 15・
25 (解散)

ポカポカ陽気で、雪山のつもりが頂上に少しあっただけ。眺望は抜群で、眼下に三方五湖・日本海が広がり、久遠夜ヶ岳・青葉山・百里ヶ岳などが見えた。下山が早かったのもう一つ登ろうかと、国立若狭湾少年自然の家へ向かうチャレンジコースからパノラマ尾根に上がり、パノラマの丘・太陽の丘から若狭湾を眼下に望み、やまもコースへくだった。

(参加者) 谷 守 池上小夜子
木戸雪江 長谷征祐 中山 勇
名和美吉 山田愛子 ◎高島伸浩 (計8名)

湖南・若尾山
2月16日(日) ◎小出良春
*雨天のため中止しました。

鈴鹿・御池岳で雪と遊ぶ
2月16日(日) 雨のち雪
(集合) J R関ヶ原駅 8・30 / 三
岐高野駅 8・40 (車) コグルミ

谷手前車止め 9・05 コグルミ谷
登山口 9・20 長命水 10・00 粟
境線 10・40 幻池 11・00 20
ボタンブチ北のドリーネ 11・50
(昼食) 12・30 東池 12・45 13・
20 奥の平 12・4 13 35 真
の谷 コグルミ谷道合流点(八合
目) 13・50 長命水 14・30 登山
口 14・55 (車) 関ヶ原駅 16・00
(解散)

暖冬とあいにくの雨で積雪は少なく、展望もなかった。奥の平でしばし風雪となって冬山気分を楽しむ。堪能したのは尻セード。幻池で初級編、東池で中級編、下山では応用編、すっかり味をしめた。きょうの参加者は免許持伝になったでしょうね。(記録・北村つねる)

(参加者) 春見重美 伊藤重美子
木下朝子 高橋裕治 北村つねる
山村恭男 鈴木友子 谷 久雄
大石将美 井上 光 小栗美奈子
丹下由子 ◎高原芳彦
◎山田明男 (計14名)

北ア・上高地と乗鞍高原
(自然観察山行1-1)
2月21日(日)夜〜23日(日)
前後発1泊2日

21日(集合) J R岐阜駅 23・30 (バス)

22日(雪) (バス) 新平湯 6・
30 (朝食) 7・45 (バス) 中の湯
8・10 9・15 釜トンネル 9・
45 大止池 10・25 梓川左岸 中
ノ瀬 11・40 (昼食) 12・25 河童
橋 12・45 13・05 梓川右岸 釜
トンネル 15・20 中の湯 15・45
(バス) 乗鞍高原ペンション 16・
20 (計)

23日(くもり) ベンション 8・
45 (バス) いがやスキー場 9・00
1ノ瀬園地 10・20 45 いがや
スキー場 11・45 (バス) アルプス
街道平湯 12・50 (公浴・昼食) 14・
20 (バス) 岐阜駅 19・10 (解散)

降雪で見晴らしはさかなかったが、厳冬期の上高地はやはり静寂の世界。釜トンネルから大止池の間は雪崩の果だった。翌日も真っ白な乗鞍高原を巡遊。スノーシューを使用して雪原ハイキングを満喫した。

(参加者) 近江秀子 荻野美穂恵
川島康也 小林 桂 加納由紀子
栗橋崇吉 栗橋裕子 砂原重美子
小松志信 須藤裕子 多賀久子
多田陽子 島居信吾 林 えい子
徳谷礼司 夏山春子 船本信巳子

原 幸子 村井寿和 森本淳子
横井 徹 横井恭子 ○三井絃一
◎警守尊康 (計24名)

雪の蛇谷ヶ峰(比良を歩く19)

2月23日(日) くもり時々晴れ
(集合) J R近江高島駅 8・55
58 (バス) 畑 9・17 35 林道出
合 9・53 58 1ボボツ峠 11・00
1蛇谷ヶ峰 12・30 37 スキー場
分岐 12・47 (昼食) 13・25 下山
口 蛇谷ヶ峰 15・10 25 高坂口 15・
45 (解散) (バス) 近江高島駅 16・
38

ボボツ峠から稜線に出て、「滝谷の頭」あたりまでの積雪は70センチだった。標高地点752峰を過ぎると急に多くなり、ソボ足ではどうにもならなくなって全真輪カン歩行に切り替えた。くもりで蛇谷ヶ峰頂上からの展望はよくなかったが、高坂尾根のくだりでは大人の雪遊びを満喫した。

(参加者) 三下伸夫 川田洋子
山本京子 内田康夫 金森節子
田中善雄 和田純子 染矢つや子
牧 和夫 武部 剛 武部美美子
松見 昭 江崎光一 大宮隆枝子
前川悦子 ○原下淳一
◎秦 康夫 (計17名)

奈良

鳥見山から初瀬ダム・長谷寺
2月23日(日) くもり
(集合) 近鉄橋原駅 10・10 (バス)
玉立 10・20 青龍寺 10・40 貝ヶ
平山との稜線 11・30 鳥見山 12・
00 鳥見山公園 12・27 (昼食) 13・
00 高麗蔵 13・55 初瀬ダム 14・
45 長谷寺 15・20 長谷寺駅 15・
44 (解散)

青龍寺の手前に道標があり、こころい山道に入る。出会う人もない静かな山道を鳥見山へ行く。公園からは近鉄「てくてくマップ」を見て長谷寺へ。長谷寺の前で杉本さんの説明を聞いて山行を終えた。

(参加者) 岩田育士 木村千代子
竹田博美 石田高教 森 美香子
岩城豊子 永原律子 六戸喜久江
中川孝子 森 晴代 岡本美幸子
川中 保 高岡富美子
庁 すみ子 ○杉本 高
◎小出良春 (計16名)

豊山山西南尾根
2月23日(日) (鈴鹿を歩く16)
2月23日(日) くもりのち晴れ
(集合) 甲頭倉登り口広場 8・10
(車) 今畑 8・25 汗ふき峠 9・

15 見晴台 10・05 豊山山 11・20
(昼食) 12・25 最高峰 12・45 一
南登山 13・30 近江風見台 13・40
一笹峠 14・30 今畑 15・35 (解散)
雪が解けて泥んこの登りがおさる岩まで続いた。山頂部の広大な雪原は樹木の花々。豊山山南の雪庇の下で昼食。食後はヒップスキーを思いきり楽しむ。西南尾根はガスが晴れてパノラマが展開した。今畑のフクジュソウ、芹川治いのセツソウを愛でながらの楽しい山行となった。

(参加者) 後藤康幸 松上美代子
山田明男 木下朝子 奥野太一郎
武村千鶴 小林 稔 石田真由美
齋田勝利 高野芳彦 光川 二美子
鈴木 浩 鈴木友子 網木美恵子
余谷 昭 佐治光江 白木やすこ
白木良弘 苗村源治 苗村登美子
谷 守 永沼鉄治 柴田彰三
市田敦子 頓部博子 坂田明美
中山昭治 友田 毅 友田重美子
吉村 昭 杉山龍一 小田妙子
丹下由子 水谷俊之 伊藤重美子
◎山田景三 ◎若野 明 (計37名)

丹波・牛松山
2月23日(日) くもりのち晴れ
(集合) J R亀岡駅 8・40 50 一

北保津9・20 福性寺登山口9・30
 表参道一金刀比羅神社10・45
 (昼食) 11・40 牛松山 預点11・45
 北尾根 表分岐12・00 愛宕林道 池畔12・35 45 鉄塔
 巡道路 水尾西尾根明岐分岐13・20
 明智合流鉄塔13・45 50 三角点3・40・6・14・10 林道
 横断15・00 保津峡15・30 35 (解説)
 牛松山だけではもの足りないので北尾根を歩いて愛宕台林道へくだり、水尾西尾根から保津峡まで歩いた。池畔からは裏道が美しく見えた。尾根道は落ち葉を踏んで快適に歩いた。林道を過ぎて保津峡へくだる遊歩道は荒れていて危険な所が一面所あって、登山口に通行止の看板があった。
 (参加者) 近藤 恭 若松 寛 若松朝子 首藤真子 桂 久美子 山縣勝美 本落孟夫 木村 豊 熊木秀雄 下村啓三 下村啓子 蓮井洋子 中島 隆 市野博文 前田栄三 若林文夫 山岸勝雄 橋原良彦 片山克博 片山茂子 岩間健司 本間 隆 本間繁子 馬場昌盛 入江武史 速水 保 宮本真幸 宮本悦子 原 みとえ 田中 明 柳川常雄 秋田植師

西村耕一 遠藤 幸 山根弘美 前田初雄 竹田善三 野里マツ代 磯野重治 奥山繁三 大須賀 實 大谷登子 渡辺功子 宮村孝次郎 川上久堅 岡崎知子 花房真理子 林 信男 山口喜弘 河原美代子 鈴木輝雄 青木一雄 小谷裕子 角田一江 妹尾一正 原文字子 福岡 章 白根朝子 辻 行子 西 悦子 西 洋美 安倉正勝
 ◎奥山繁三 ◎村田智俊(計6名)
 高塚山から醍醐・日野山 (北山ちよと歩き42)
 2月26日(例) くもり
 (集合) 地下鉄醍醐駅9・00 長尾八幡宮9・20 30 高塚山10・45 上醍醐開山堂11・40 (昼食) 12・50 回廊道 水鏡谷14・00 醍醐 日野山15・00 供水峠15・05 日野外活動場ゲランド15・40 (解説)
 歴史ある醍醐の山々と日野山を楽しく歩いた。
 (参加者) 上田政子 井上由紀晴 栗橋君子 木下初子 西 悦子 吉藤孝次 細野欽也 若林文夫 市野博文 山岸勝雄 中村啓一 本間 隆 松尾麗子 中村 保 木村 豊 速水 保 原 みとえ

山根弘美 岡田男子 宮崎紀正 谷 守 白根朝子 辻 行子 保田 正 田中善雄 宮村孝次郎 磯部 純 岡崎知子 砂原恵美子 長岡保江 入江武史 岩本美代子 白根朝子 小谷裕子 森本美恵子 角江晴美 妹尾一正 北川田鶴子 小田直樹 舟岡 武 南 ミヤ子 安良陽子 山岡 武 佐々木輝子 岩城彰子 緒方由子 光川一美子 小野典子 赤松 敏 赤松しげみ 蒼生幸子 松村真子 野々山明美 浦上 明 田尾 肇 田尾玲子 白根朝子 林 弘毅 武村千鶴 田中顯子 細井初子 吉野榮子 平 幸子 松本中雄 山科邦彦 中村英雄 竹田善英 石田真由美 星野正弘 ◎奥山繁三(計73名)

例会参加の注意点
 山行例会参加の場合は、新ハイキングの規定があります。(89ページ山行計画欄) これを十分にご理解のうえ申し込んでください。規定に反しますと係や参加の他の人にも迷惑をかけることとなります。気分よく山行するため、みんなでルールを守りましょう。
 特に次の2点をよろしく。
 ★計画を早めに決め、必ず7日前には申込先に到着するよう、往復ハガキに必要事項をすべて記入のうえ申し込んでください。直前や飛び込みはお断りします。また電話やファクシミリでは、名簿作成や山行案内の返信に困ります。
 ★雨天に歩くのが嫌な方は始めから小雨決行・雨天決行の計画には申し込まないでください。また、当日の法行が中止かは、返信案内の降水確立を見て、必ず前夜の気象情報で確認し、判断ください。

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。
 この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体づくり、自然のなかを歩く喜びをとにも広めましょう。
 「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間余、好評のうちに活動していています。関西は平成3年発足で12年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。
 会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンで。

若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。
 入会金 500円(バッジ代) 年会費 3000円(送料共)
 入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。
 なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきます、毎号確実にお手元に届きますので便利です。
 切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。
 ○山行リーダー募集
 リーダーは2ヶ月に1回程度山行例会を計画・実施していただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介
 新しいお仲間のみなさんです。会員番号4816番から4844番まで
 【岐阜】 諸橋君子
 【三重】 坂本正治 白木良弘 松岡崇榮
 【滋賀】 市田政子 時光直一 柴田チヨコ
 【京都】 北田智夫 田中紀孝子 大川貞子 吉村叔郎 橋本 薫 上西信子 中川孝子 長田孝子 中島純一 乾 和世 島津敏弘 一澤まさ美 西 悦子 牧 繁文 松田 久 平野和子 荒井亮一
 【兵庫】 河本英機 佐々木輝子
 【和歌山】 山根木一榮
 【香川】 山根木恭子 半田節子 (29名)

訂正とお詫び
 69号(隔春)グラビア(6ページ目)上段の説明「ブタンブチ……」は「ボタンブチ……」が正しい。69号(隔春)38ページ下段9行目「各自一本用意され」は「赤白各一本用意され」が正しい。(編集室)

お知らせ
 「入会のしおり」が切れていますが、新入会の方にはご迷惑をおかけいたしました。今月号に新しい「入会のしおり」を同封しますのでご覧ください。

毎号お求めになりたい方へ
 前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされませうと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。